

令和 3 年度事業報告

社会福祉法人 足羽福祉会

理事長 高村 昌裕

新型コロナウイルス感染のパンデミックが起きて、約 2 年、「with コロナ」といっても、利用者様や職員はまだまだ制限のある暮らしを強いられています。加えて今年 2 月からのロシアによるウクライナ侵攻により、「平和」「人権」「豊かで安全な暮らし」など、福祉社会の大前提となる価値観が揺さぶれる時代となっています。社会全体の労働者人口が減少し、福祉業界における慢性的な人材不足は一層深刻化しています。

そんな先の見えない困難な時代ですが、利用者様や地域社会の幸せ(問題解決)のために、皆でできることを精一杯取り組んだ1年でした。着実に進んだ内容もありますし、足踏みして前に進めていない現状もあります。思考停止にならずに、よい方法はないか「考えて、試して、振り返って、改善策を考えて」の PDCA を繰り返すこと、あきらめずにトライし続けること、これこそ私たちのめざす「赤ちゃんからお年寄りまで、障がいの有無にかかわらず安心して暮らせる共生社会の実現」ために不可欠なマインドです。悲観も楽観もせず、平常の心で私たちは目標に向かって歩み続けます。そのプロセスは、私たち自身の未来にもつながっていくはずで

【法人全体で取り組んだ重点項目】

1. 保育、障がい児者支援、介護それぞれの分野での支援計画策定やケース会議において、本人中心の視点（ストレングス、パーソンセンタードケア等）を徹底し、チームで取り組みます。
【一部達成】利用者様のサービス向上にむけて、今年度は、39 事例（こども福祉分野 3、障がい福祉分野 15 及び高齢福祉分野 21 事例）の事例検討に取り組み、その中の 10 事例（こども福祉分野 2、障がい者福祉分野 4 及び高齢者福祉分野 4 事例）について、令和 4 年 2 月に開催のサービス実践報告会(動画撮影)において実践発表をし、報告集「思い」も発刊につなげました。コロナ禍で活動にも制限がある中での試行錯誤が続きますが、次年度以降も引き続き、本人中心の視点での支援の質向上をめざします。
2. 地域や社会全体の様々な課題（生活困窮、防災、まちづくり等）について、2030 年に向けた「足羽福祉会 SDGs 宣言」を発信し、具体化した自分たちの行動目標に取り組みます。
【一部達成】前年度管理職研修で募った意見をもとに、常勤理事経営会議や作成支援ツールを活用して令和 4 年 4 月 1 日付での「足羽福祉会 SDGs 宣言」を発信しました。しかし地域や社会の課題解決に向けた直接的な行動は進められませんでした。令和 4 年度にプロジェクトチーム SDGs 推進会議を中心に、職員への周知および具体的な行動計画を作成し、法人一丸となって取り組みます。
3. 新人事管理制度「あすわ ers」2 年目として、制度理解をいっそう進めます。また女性や障害のある方、高齢者が活躍できる体制を整えると同時に、中途採用職の採用および教育体制の充実強化を図ります。

【一部達成】定期的な研修をととして制度の周知に努め、また、あすわ ers を基盤とした人材育成の仕組みとして、「足羽福祉会人材育成方針」を示し、研修プログラムも含めた検討を行いました。女性管理職・監督職率 54.9%、障害者雇用率 4.3%、高齢者（65 歳以上）雇用率 13.0%、EPA 介護福祉士候補者 2 名の受入れ等、多様な人材の能力発揮に努めました。中途採用 32 名採用（正規 11 名、シニアアソシエイト 1 名、パートタイム 20 名）しましたが、未経験者の教育、採用プロセス等で課題が残りました。令和 4 年度も、採用プロセス、教育研修、定着支援の充実強化を図ります。

4. ICT の積極活用として、権限移譲を明確にしながらの電子決裁導入、事務処理の簡素化（モバイル化）および情報共有化を推進しながら、ペーパーレス化を進めます。

【一部達成】グループウェアにおいて、全職員と、メール等により情報共有を行い、ICT 活用を進めました。勤務状況の把握も可能となり、研修での復命書、決裁事項の一部も電子決裁に変更しました。職員からの労務に関する各種届出もオンラインで行えるように準備を進めました。令和 4 年度は文書決裁におけるペーパーレス化に取り組みます。

5. 足羽東こども園の園舎改築を行い、地域とのつながりの中で子どもたちが健やかに成長できるようよりよい環境整備を行います。また工事期間中、別建物にて子どもたちが安全に過ごせるよう教育保育活動を行います。

【達成】園舎改築工事は、新型コロナウイルス感染流行による資材不足の影響で、工期が少し延びましたが、3 月半ばに無事完了し、新園舎にて卒園式も行うことができました。完了までの間は、仮園舎の件で JA 福井県様のご協力もあり、事故等もなく、保育活動ができました。また施設整備事業として、たんぼぼの新築移転工事、グループホーム美山の非常用発電機設置工事も予定通り完了しました。

6. 小規模事業所（あすわ児童発達支援センター拠点、パステル拠点、あすわ相談支援事業所リアン拠点）の経営安定化に向けた取組みを障がい福祉部門ならびに法人全体で支援します。

【未達成】上記 3 拠点および足羽ワークセンターについては、新型コロナ感染流行による利用率の伸び悩み等もあり、他拠点からの繰入金による事業支援を行いました。グループホーム美山においては地域ニーズに応えることで、大幅な経営完全が達成されました。法人全体では、各事業所の稼働率向上および経費削減等の取り組みによって、資金収支計算書において目標とする事業活動資金収支差額 200,000,000 円を達成しましたが、事業活動収支計算書においては、経常活動増減差額がマイナスとなりました。

令和3年度事業報告

法 人 本 部

I. 実施事業

1. 法人本部事業

法人内託児所（ひまわり）事業、生活困窮総合相談・生活支援事業

2. 公益事業

ボランティア育成事業、介護福祉士養成奨学金貸付事業

II. 第IV期中期事業計画における重点取組項目

1. 新人事制度「あすわ ers」の制度理解の推進

【一部達成】制度についての見直し変更を行い、研修、会議等で周知を行いました。今後も継続的にを行います。

2. ICT 活用における事業推進の展開

【一部達成】グループワークの活用により、情報の共有、連絡等は職員単位で行えるようになり、コロナ禍での研修、会議、委員会、面会等もWebにより可能となりました。今後もインフラ整備を行い、現場でのICT活用も更に検討していきます。

3. 多様な人材の確保と職場環境の向上

【一部達成】外国人の人材確保を積極的に行い、採用ツールの活用も含めて、人材確保を行いました。人材不足は解消されませんでした。今後は、職員定着に向けた検討も引き続き行います。

III. 事業推進計画

1. 利用者様と共に

（1）夢や幸せを実現する取組み

① コロナ禍における法人内交流について Web 等を通して、利用者様一人ひとりの支援につながるよう法人交流委員会等で企画検討。

【達成】法人施設内（法人本部、足羽更生園、愛全園）で美術展を実施しました。また、恒例である拠点間での年賀状の取り組みも行い、コロナ禍においても利用者間の交流を行うことができました。

（2）安心、尊厳を守る取組み

① 次世代接遇トレーナーの計画的養成に向けて、接遇委員会の体制や在り方を検討。

【一部達成】新接遇トレーナーに、4回のトレーナー研修を行い、また、実践においても、令和3年度新任職員フォローアップ研修及び中途採用新任職員研修を講師として参加し、1名のトレーナーを育成しました。委員会は3回行いましたが、法人全体の接遇力向上に向けた取組みについては更にトレーナーの適正数も含めて検討は必要です。

② コロナ禍における事業継続計画（BCP）を検証し、法人全体の感染防止体制・防災サポート体制・リスク管理の体制強化（災害対策本部の在り方）。

【一部達成】新型コロナウイルス対策事業継続計画（BCP）を検証し、Ver.2～3を策定しました。その他の取り組みについては、感染防止体制（No.23～44）以外の取り組みができませんでした。

③ 防災マネジャーの養成を計画的に取組み災害時対応の体制充実。

【未達成】今年度は実施出来ませんでした。

2. 「地域と共に」

(1) 社会とのよりよい関係づくりを強化する取組み

- ① ランナー、ボランティア、地域等、関わる全ての人々がふれあいを感じることができる「第9回足羽川ふれあいマラソン」を、外部委員を交えた組織委員会で協議し（年3回）、安全配慮・柔軟な運営により開催。引き続きランナーの参加料の一部は、県内の障がい者スポーツの振興に活用。

【未達成】新型コロナウイルス感染防止の観点から、足羽川ふれあいマラソンを延期としました。しかしながら、足羽川ふれあいマラソン組織委員会では、開催に向けた前向きな意見が多数ありました。

- ② 地域との交流「福祉×芸術」を推進するため、各拠点をサポートし参画。

【達成】福井市美術館での「〇展」（主催：足羽学園、足羽更生園）開催に合わせ、一部の拠点を会場とした作品展示を企画、開催しました。これにより、美術館と合わせて、沢山の利用者様、一般の方等が来場されました。

(2) 地域のために法人資源を活用する取組み

- ① 福井市東部の地域ニーズを把握するため、地域関係者を交えての“語る会”（年1回）を企画。

【未達成】各地区社協会長である評議員を中心とした意見交換会の開催を予定しましたが、開催に至りませんでした。

- ② 生活困窮者支援における法人内連携および中間的就労の推進を図るための協議の場を企画（年2回）。

【未達成】3件の生活困窮者支援を実施しましたが、生活困窮者就労訓練事業（中間的就労）についての申出はなく、協議の場も設けることはできませんでした。

- ③ 法人職員の認知症サポーター養成講座受講促進を継続。

【一部達成】推進する中で、本部において若干未受講の職員がいました。法人全体では、福井大東包括支援センターと協力して認知症サポーター養成講座を、令和2年度90名（3回実施）、令和3年度212名（4回実施）計302名の職員が受講しております。

3. 「職員と共に」

(1) 目標を描き、共に成長する取組み

- ① （重点項目） 前年度スタートした新人事管理制度「あすわ ers」の理解を深め、ラダー、等級基準項目、バリュー項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取組みの実施。

【一部達成】4月（94名）及び11月（104名）に育成者研修（監督職・管理職）を行い、人事制度の周知、情報の共有等を行いました。特に、11月には「人材育成方針」の説明も行うことができました。また、職員意向及び職員満足度調査、管理職に対する上司・同僚・部下から回答を得る360度評価等を行い、実態を把握しながら、今後も、指針に沿った研修制度を検討していきます。

- ② 多様な働き方ができる体制を整え、同時に中途採用職の教育体制の強化や階層別研修体系の構築と実施。

【一部達成】採用プロセスを見直し、令和4年度から実施できるように、雇用の形態ごとに明確にしました。また、新任職員、中途採用職員の採用から教育までの体系は、階層別研修体系も含めて検討中です。

- ③ 女性活躍推進企業として、女性管理職・監督職者率60%を目指す。また仕事と家庭の両立を図るロールモデルの定期的発信や職場環境改善の声を法人運営に反映。

【未達成】女性管理職・監督職者率54.9%でした。仕事と家庭の両立を図るロールモデルの発信は出来ませんでしたが、職場環境改善の声については、労務相談、職員意向及び職員満足度調査等で得られた情報を共有し、令和4年度事業計画に反映しました。

- ④ 職員が成長するために必要な資格取得へのチャレンジ機会を提供。

【一部達成】本部としては1名が資格を取得しました。法人として、資格取得に向けた現在の状況を調査しましたが、統一したルールを定めることはできず、今後も継続して取り組みます。

(2) 安心して働ける健康経営の取組み

- ① 社員ファースト企業として、計画的有給休暇（5日義務）、育児・介護・連続休暇の取得推進を積極的に推進。また子育てファミリー応援企業として法人内託児所の適切な運営等、ワークライフバランスに配慮した職場環境の充実。

【一部達成】有給休暇の取得については、本部より各拠点に毎月、取得状況を報告し、推進しました。法人全体の有休消化率は55.1%でした。

- ② 労務管理は、各拠点相談内容の集約データ化を図り相談体制の充実に努め、社会保険労務士による巡回訪問も継続し職員の定着に向けた職場環境の改善。

【達成】労務管理に係る各拠点への巡回訪問を行い、職場環境の改善の中で、ハラスメント1件の相談がありました。この件に関しては、相談等対応委員会を開催し、再発防止に向けた対応を行いました。

- ③ 全職員対象にストレスチェック（11月実施）を継続し、心身の健康づくりに向けた健康経営宣言の実践と健康経営優良法人認定への準備。

【一部達成】ストレスチェックを行いました。法人産業医との調整によりフィードバックが遅延しました。また、職員満足度調査も併せて行い、参考としました。

(3) 共に働く人を呼び込む取組み

- ① ホームページやSNS等含め求人活動のツールの充実、各事業所のリクルーターを育成し「足羽福祉会および自事業所の強み」をアピールし、保育・障がい児者支援・高齢者介護などの専門性を重視した採用（WEB活用）を実施。中途採用については、関係機関を活用し多様な人材を受け入れる体制に取組む。

【達成】ツール等を活用した多様な求人活動や交流活動を行い、更に拠点の協力もあり、令和3年度新卒16名の内定者が令和4年度に入職しました（令和2年度7名）。今後も、継続的にを行い、人材の獲得に努めます。

- ② インターンシップ受け入れ企業として、大学3年生や短大1年生に対し、福祉の仕事の理解と法人イメージアップを図るため各拠点と連携。

【達成】今年度は、インターンシップ17名を受入ました。採用活動にも効果があり、更に、大学等との交流にもつながるために、今後も継続的にを行います。

- ③ 各拠点と連携して、障害者法定雇用率以上の雇用（目標4.5%）に努める。また雇用した障がい者に対する規程規則の理解促進や労働環境の整備を進めるための職場適応援助職員の設置（1名）。

【未達成】障害者法定雇用率は4.3%でありましたが、新年度に向けて1名を採用しておりますので雇用率の上昇は見込めます。職場適応援助職員の配置は出来ませんでしたが、来年度の配置を目指します。

- ④ （重点項目）福祉人材の確保について、介護福祉士養成施設等において介護の知識と技術を学ぶ者を支援する奨学金貸付制度の運用、外国人労働者の定着・確保のためEPA介護福祉士候補者・外国人留学生（介護福祉士養成校）の積極的な働きかけを行っていくと共に、I・Uターン雇用推進企業として多様な人材確保や多様な働き方へのアプローチを推進。

【一部達成】様々な方の採用を目指して、継続的に検討を行いました。今年度は、外国人留学生（介護福祉士養成校）4名が入国する予定でしたが、コロナの影響で令和4年4月に延期になりました。EPA介護福祉候補者は2名が、マッチングし令和4年10月に入国予定です。

4. 実施プロセス

(1) 法人の価値を高める取組み

① 「足羽福祉社会 SDGs 宣言」に沿って、2030 年を見据えての具体的行動計画の作成及び実践。

【一部達成】宣言については、作成完了しましたが、実践については、令和 4 年度より取り組みます。

② (重点項目) 広報戦略の充実を図る取組みとして、足羽福祉社会の魅力をもっと知っていただき、地域社会から信頼される法人の存在意義を広くアピールする法人ホームページ、パンフレット、アニュアルレポート等、アウトソーシングも含め総合的に実施。

【一部達成】VI (ビジュアルアイデンティティ：企業のロゴや商標、色、フォントなど、企業を視覚的に表現した一貫性のあるデザイン全般をまとめたものです。一貫性のあるデザインをつくることは、他社と識別して消費者や顧客に視覚的に認知されることへとつながります。)に取り組み、現在、ホームページ、各種パンフレット、アニュアルレポート等について総合的に、また、親しみやすい内容で検討しております。

③ 「第 13 回サービス実践報告会」は外部専門家の協力を得る中、企画内容の充実。

【達成】コロナ禍であり、集合型での開催は出来ませんでした。10 事例について昨年同様、発表動画を公開し、報告集「思い」も見やすい内容で発刊しました。

④ 施設の老朽化による改築計画に基づき法人建設委員会の開催。(足羽東こども園改築工事・グループホームたんぽぽ改築)

【達成】建設委員会は、足羽東こども園改築工事、グループホームたんぽぽ改築工事及びグループホーム美山非常用発電機設置工事において、延べ 14 回の建設委員会を開催し、全ての工事について年度内に完了しました。

(2) 透明性の高いガバナンスを追求する取組み

① 理事会(隔月)、常勤理事経営会議や GM 会議(月 2 回)等の開催を行い、専門家(司法書士や社会保険労務士)の助言をいただきながら、外部環境や利用者様へのサービス向上のため内部管理体制を強化。

【達成】理事会(7 回)、常勤理事経営会議(30 回)、GM 会議(24 回)を実施し、必要に応じて、規程の一部改正、働き方改革等に関して司法書士や社会保険労務士の助言をいただきながら遂行することができました。

② 理事・評議員改選期(6 月)における適正な役員選任手続きの執行。

【達成】理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会の承認を経て、手続きを行い、完了しました。

③ 「会計監査人」との連携を深め、各重点プロセス(収入、人件費、経費計上、入出金、固定資産および棚卸資産監理、計算書類等作成)において、現在実施している内容をもとに、さらなる「標準化」および「規定化(文書化)」を図り適切な内部統制を構築。

【達成】令和 3 年度中に期中監査を 16 日実施し、指摘事項については令和 4 年 2 月の GM 会議にて情報共有し、今後に向けて対策を検討しました。期末監査は、令和 4 年 5 月に 6 回予定です。

(3) 合理化と効率化を推進する取組み

① (重点項目) グループウェアを活用した電子決裁、労務管理システムの完全クラウド化及びペーパーレスの実施に向けて、権限移譲、文書起案、供覧、保存等の具体的ルール作りを促進するための対応を図る。

【一部達成】グループウェアの活用を積極的に行い、職員個人のメールアドレスでのメールは勿論ですが、文書起案、供覧、保存等の具体的ルール作りのための検討を行っております。スモールスケールから徐々に全体に拡張していきます。

5. 経営基盤の強化

(1) 資金収支 10 か年計画を達成する取組み

① 各拠点の月次決算および法人全体の月次報告を定期的（1 か月以内）に実施。

【達成】毎月第1 決裁後（翌々月）のGM会議にて月次報告を実施しました。

② 法人本部で担当する会計責任者から各 GM 等に対して、月次レビューを通してタイムリーに情報を提供、経営安定化に向けた協議。

【一部達成】12 月月次までは毎月レビューを作成し情報提供を行っていましたが、令和 4 年になってからは、年度末進行業務により実施できませんでした。

③ 各拠点の予算管理能力を高めるため、法人共通の収入管理ツール及び支出積算ツールを準備し活用。

【達成】2 次補正予算（8 月）における主要収入見直し時に、全拠点に対して上記のツールを提供しました。あすわ地域生活支援センター以外は、平均報酬単価×延利用者数での積算、あすわ地域生活支援センターは明細そのものを再現するツールを提供し、令和 4 年度の収入予算にも活用しました。

④ 各拠点で予定する新規中規模事業については、会計及び財務面に止まらず、あらゆる面から調査を行い、中期及び長期資金計画を計画初期段階において作成。

【達成】パステルにおける委託事業申請及び障がいグループGM会議への参加並びに給食事業再編に参画しました。

⑤ 法人全体の支出に対してスケールメリットを活かした契約および購入の実施。

【一部達成】新電力契約更新及び値上げに対する交渉を行いました。更に、企業財産包括保険の更新、事業者保険及び公用車のフリート契約を更新しました。

⑥ 現計画における大規模事業である、「足羽東こども園改築工事」及び「足羽利生苑施設増改築」の資金計画については、補助金の活用、各金融機関との折衝及び進行中の中規模事業計画並びに法人資金収支実績を慎重に判断し、「第IV期中期事業計画および 10 か年資金計画」を着実に推進。

【達成】足羽東こども園の建設資金については、3 行と交渉し過去最低金利で契約締結。補助金についても満額獲得。

令和 3 年度事業報告

啓明児童クラブ

I. 実施事業

1. 放課後児童クラブ運営事業

II. 事業推進計画

1. 利用者様と共に

(1) 夢や幸せを実現する取り組み

- ① 一人ひとりの「いいところ探し」、成長を保護者や本人に伝える・褒める取り組み

【達成】活動を通じて見えてきた成長を玄関先に掲示し、子どもたちに対しては言葉で褒め伝えることに力を入れました。

- ② 学年にかかわらず一緒に楽しめる活動内容の工夫と環境づくり

【達成】長期休業中の企画（進級お祝い会、お茶会、カフェ、お菓子バイキング、みんなで遊ぼう、クリスマス会、そば会、雪遊び、鏡開き、節分会、卒館式）を感染防止に気を配りながら実施しました。

- ③ （重点項目）生活の連続性保障を目的とした「特に気になる子ども」への支援を強化

【達成】児童クラブでの様子を学校・家庭と情報を共有し統一した支援をしました（通年）。そのうち若干名、カウンセリングおよび診断を受け、不定期ではあったが下期に学校担任が活動中に来館し、子どもたちの様子を視察しに来ました。

(2) 安心・尊厳を守る取り組み

- ① 学校と連携・情報共有化を促進、家庭への必要な情報提供と説明

【達成】「特に気になる子ども」はじめ、コロナ感染等について、情報共有を欠かせない情報は福井市学校教育課、学校、および保護者に対し説明、必要に応じ文書を配布しました。

- ② 模範となる接遇の実践、利用者様と共に取り組む 3 S 活動

【達成】あすわ ers の 5 つのポイントをもとに接遇の実践に努めました。

- ③ 美山地区に根ざした活動の充実、積極的な情報収集に基づく課題解決

【未達成】地域活動はコロナ蔓延の為、活動が叶いませんでした。公民館より令和 4 年度夏季休業中に合同でのイベント開催の提案を受けました。

2. 地域と共に

(1) 社会とのより良い関係づくりを強化する取り組み

- ① 感染拡大防止に配慮しながらの地域行事への参画

【一部達成】ハロウィンパーティーを実施しました。

- ② 地域や学校等との連携強化を目的とした運営委員会（年 2 回）の開催

【達成】県内コロナ感染拡大の状況を鑑み、書面決議にて審議としました。

- ③ 地域の方々やボランティアとの交流（足羽川ふれあいマラソンへの参画）

【未実施】新型コロナウイルス感染防止の観点から、足羽川ふれあいマラソンを延期としました。

- ④ （重点項目）児童福祉部門「子どものアート展」の合同行事に児童作品展示で参画

【達成】12 月中下旬実施の「〇展」（福井市美術館）に作品出展しました。

(2) 地域の為に法人資源を活用する取り組み

- ① 各関係機関や同法人内事業所と共にさまざまなリスク軽減を図る取り組み

【一部達成】避難訓練等、定期的な自事業所における活動は実施したが、他事業所等との協働は叶いませんでした。

② SDGs 法人宣言の理解を深め、具体的行動目標計画の作成及び実践

【未着手】SDGs 法人宣言策定プロセス段階によります。

③ 第9回足羽川ふれあいマラソンを新型コロナウイルス防止対策での安全配慮、柔軟な運営に向け参画

【未達成】新型コロナウイルス感染拡大防止のため足羽川ふれあいマラソンは中止としました。

3. 「職員と共に」

(1) 目標を描き、共に成長する取組み

① 2年目となる新人事管理制度「あすわ ers」の理解促進

【達成】期中の目標設定および評価のフィードバック時、面談を通じて理解を図りました。

② 専門性を高めるための支援員研修への参加（2名派遣）

【一部達成】10～11月にかけて、放課後児童支援員研修を受講し認定資格を得ました。（1名）

③ 上文殊児童クラブとの定期的な合同会議を開催

【達成】6/22実施。次年度は年3回の実施を試みます。

(2) 安心して働ける健康経営の取組み

① 職員の働き方に応じた業務内容や役割分担等の職場環境整備

【達成】曜日毎に役割を決め、協力しながら環境の整備に尽力してきました。

② 計画的年次有給休暇5日取得、法人ストレスチェックの実施

【達成】対象職員につき年5日以上の有休取得をクリア。ストレスチェック実施。

③ 職場内のコミュニケーション活性化、公民館等外部との良好な関係性づくり

【達成】ミーティングにて前日の報告を行い情報の周知をしました。

(3) 共に働く人を呼び込む取組み

① 夏休み等の長期休暇に対応できる職員体制確立

【達成】学生4名、アルバイト雇用により長期休暇の対応が図れました。

② 地元から人材確保につながる情報収集

【未達成】職員募集を募る為、民生委員をはじめ、地域の方で働いてくれそうな方の情報をいただき、声をかけてもらいましたが人材の獲得にはつながりませんでした。

4. 実施プロセス

(1) 法人の価値を高める取組み

① 法人ホームページ・おたよりの充実、広く地域に向け当クラブの活動を発信

【一部達成】事業所内掲示やおたよりの工夫はできましたが、ホームページ等広域の情報発信は積極的に行うことができませんでした。

② 美山地区各小学校・みやま認定こども園との情報共有、安全・快適な環境整備

【一部達成】令和4年度新1年生を迎えるにあたり、令和3年度末に各学校において児童の情報交換を行いました。

(2) 合理化と効率化を推進する取組み

① （重点項目） 記録の在り方について、児童福祉部門に学ぶ

【達成】足羽東こども園に相談のうえ「ひな型」を作成することができました。

② マニュアルの見直し等の業務改善を実践、ウェブ会議の活用を継続

【達成】感染状況に応じ、適宜ウェブ会議を活用しました。

5. 経営基盤の強化

(1) 資金収支10カ年計画を達成する取組み

① 月次決算による運営状況の把握、ペーパーレスへの取組み推進

【達成】施設現況報告をはじめ、毎月の職員会議において運営状況についての共通認識をもち、適正な運営に努めることができました。

② 法人本部・バックアップ施設との連携、設備等の老朽化対応

【達成】室内の畳の老朽化に伴い、福井市学校教育課に依頼、入替および教室内の一区画に追加で畳を設けることができました。

<サービス利用実績>

事業	年間延べ利用者数			年間事業収入(サービス)		
	当初目標 (人)	実 績 (人)	達成率 (%)	当初目標 (千円)	実 績 (千円)	達成率 (%)
放課後児童クラブ	5,160	6,124	118.7	9,832	9,602	97.7

令和 3 年度事業報告

上文殊児童クラブ

I. 実施事業

1. 放課後児童クラブ運営事業

II. 事業推進計画

1. 利用者様と共に

(1) 夢や幸せを実現する取り組み

- ① 本人の視点に立った一人ひとりの特性に合わせた関わりの継続や、個々の良いところを保護者や本人に伝え喜び合う支援の提供。

【達成】学童保育巡回アドバイザーの助言を取り入れ個々の性格や特性に合わせ支援を行いました。保護者にも成長を伝達し喜び合いました。

- ② 主体的な遊びが可能となる、材料や遊具等を整備し、一人ひとりが生き生きと遊びや生活を楽しめる空間づくりの実施。

【達成】個々の思いに合った材料を用意し遊び込む中で個性を伸ばし、ひとりひとりの遊びが仲間遊びに発展した。

(2) 安心、尊厳を守る取り組み

- ① 職員は、学校教育課の指導を基にコロナ感染予防対策を実施する。また、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の取り組みを利用者と共に積極的に実施。

【達成】学校教育課の指導を基にコロナ感染予防対策を徹底し、小学校と健康状態を伝え合うことにより、児童職員共に新型コロナウイルスの発症はありませんでした。

- ② 児童一人ひとりの人格を尊重した関わりを行い、子ども達との信頼関係を構築。

【達成】児童との温かな関りの中で、自己を発揮し認める体験を行う中で、信頼関係を構築しました。

2. 地域と共に

(1) 社会とのより良い関係づくりを強化する取り組み

- ① 足羽川ふれあいマラソンへの開催。子ども達の体力向上や地域の方との繋がりが深まることを目的のひとつとし、積極的な参加。

【未達成】新型コロナウイルス感染防止の観点から、足羽川ふれあいマラソンを延期としました。

- ② （重点項目） ホームページやおたよりを通して、児童クラブの活動を地域に発信。（年 3 回以上）

【達成】地域（公民館・小学校）への活動おたより 3 回配布し、ホームページは更新 5 回行いました。

(2) 地域の為に法人資源を活用する取り組み

- ① 生活困窮者支援の取り組み

生活困窮者における法人内連携に関わると共に、地域の児童健全育成に関する支援を行う中で、地域における課題を知り、法人の役割について検討。

【未達成】地域会議に参加し地域の課題を知ることが出来たが、法人として検討には至りませんでした。

- ② （重点項目） 関係機関と連携を強める活動の実施

上文殊小学校、公民館、同法人啓明児童クラブ、足羽東こども園等との合同会議、情報交換及び交流の実施。（年 5 回以上）また、児童福祉部門の合同行事の「子どものアート展」に児童の作品を展示。

【達成】上文殊小学校会議 2 回、啓明児童クラブ 1 回、足羽東こども園 14 回、子どものアート展 10 名の出展を行いました。

3. 「職員と共に」

(1) 目標を描き、共に成長する取組み

- ① (重点項目)あすわ ers でのラダー、等級基準項目、バリュー項目について日常の OJT に生かした取組みの実践。

【達成】あすわ ers の中で日常の OJT を充実し、職員のやる気につなげました。

- ② 職員の労働時間、業務内容、当番体制等を職員の協力で進め、働きやすい環境の提供。

【達成】職員で協力し業務内容を分担し業務効率化を進めました。

(2) 安心して働ける健康経営の取組み。

- ① 生き生きと働けるよう、職員の心と体の健康管理の細やかなケアの実践。

【達成】健康診断、コロナワクチン 2 回接種、インフルエンザの予防接種（全員）ストレスチェック（4 名）コロナワクチン 3 回目接種（3 名）を行いました。

(3) 共に働く人を呼び込む取組み

- ① 延長利用、長期休業期間に対応できる職員、ボランティア募集。

【達成】長期休業に対応のパートを採用（2 名）しました。

4. 実施プロセス

(1) 法人の価値を高める取組み

- ① 「足羽福祉社会 SDGs 宣言」に沿って、2030 年を見据えての具体的行動計画の作成及び実践。

【一部達成】SDGs について子ども達とゲームを実践しました。ゴミの分別を児童と実施しましたが、行動計画の作成は不十分でした。

- ② 小学 1 年から 6 年まで、長期休業時等突発的な利用者を含め積極的に受け入れ。

【達成】7 月に 3 年生 1 名が入会しました。

(2) 合理化と効率化を推進する取組み

- ① ICT 活用による業務改善

グループウェアを活用した電子決裁、ペーパーレスの実施、文書管理等のルール作りの実施。

【一部達成】グループウェアを、熟知度は異なりますが全職員が活用し、ペーパーレス化につながりました。今後も全職員の浸透を目指します。

5. 経営基盤の強化

正しい財務処理を、本部職員と連携し実施。

【達成】コロナ禍、登録児 23 名中 22 名の利用がありました。また、正確な月次決裁を実施することもできました。

<サービス利用実績>

事業	年間延べ利用者数			年間事業収入(サービス)		
	当初目標 (人)	実績 (人)	達成率 (%)	当初目標 (千円)	実績 (千円)	達成率 (%)
放課後児童クラブ	4,200	3,420	81.4	5,549	6,168	111.2

令和 3 年度事業報告

足羽東こども園

I. 実施事業

1. 幼保連携型認定こども園 (定員 1号6名 2.3号130名)

II. 第IV期中期事業計画における重点取り組み項目

1. 個々の状況に合わせ、喜びや成長に繋がる支援の実践。
【達成】コロナ禍における制約の中、活動を工夫しながら本人中心の支援に積極的に取り組むことができました。また、リモートを活用した支援会議や研修にも多く参加し、特別な関わりが必要な子への支援や連携を行いました。次年度も本人を中心とした丁寧な支援を継続していきます。
2. 新人事管理制度(あすわ ers)への理解と働きやすい職場となる取り組み
【達成】あすわ ers について意見交換を行い、職員の理解に繋がりました。またシフトの工夫や業務改善を行いながら働きやすい職場環境づくりに努めました。今後も職員の勤務状況に合わせ、柔軟に対応するなど協力体制を強化していきます。
3. 園舎改築の着工及び完成
【達成】子ども達が明るく安全な環境の中で、様々な学びや遊びを体験できる園舎について、建設、設計業者との細かな打ち合わせを行いながら、年度内完成に至りました。

III. 事業推進計画

1. 利用者と共に

(1) 夢や幸せを実現する取り組み

- ① こどもや保護者の成長、育児力向上の為、子ども達の視点に立ち、個々の良いところを見つけ、褒め、伸ばしていく支援を実施。特別な関わりが必要な子への支援や遊びや活動の展開については、ケース会議や園内研修で事例検討を行い、より良い支援を継続。
【達成】園児一人ひとりの個別支援計画に基づき、個々の状況に合わせた丁寧な教育・保育を実践しました。日々の連絡帳や懇談、各行事での姿を通し、子どもの成長や保護者と共に気づき成長を喜び合うことが出来ました。特別な関わりが必要な子への支援として、ふくいっ子ファイルの活用 7 名、市カウンセラーとの連携延 5 名、就学転園先へ接続の為の連携会議(20 回)の他、園からの情報提供を含む、保護者、関係機関との話し合いを積極的に行いました。また、ケース会議月 1 回、園内研修での事例検討(12 例)を実施しました。
- ② 幼児教育から小学校への接続に向けた取り組みを実施。(「育ってほしい 10 の姿」を目指した実践及び報告)
【達成】福井県保幼小接続カリキュラムに示されている「育ってほしい 10 の姿」の中から「健康な心と体」「自立心」への成長に繋がる取り組みを実施することができました。
- ③ 児童福祉部門の合同行事として「こどものアート展」や保護者や職員対象の「公開セミナー」の実施。(準備等の会議：年 3 回)
【達成】「こどものアート展」児童福祉部門の利用者と共に 5 歳児 30 名の作品を展示しました。「公開セミナー」は専門講師による Web 研修にて「コロナ禍の子育て」について学び合いました。(参加者/保護者、地域住民 10 名 職員 10 名 他拠点参加者 17 名)

(2) 安心、尊厳を守る取り組み

- ① (重点項目) 感染症や事故から子ども達を守る取り組みや保護者連携の実施。

【一部達成】新型コロナウイルス感染防止の為、対応マニュアルに沿った業務を進めていましたが、3月に園児11名 職員5名の感染者があり、休園及びクラス閉鎖措置となりました。その後の衛生管理の徹底や保護者協力による登園自粛により、大きな広がりとなることを防ぐことができました。R3.6～R4.3月中旬まで、園舎改築により仮園舎での保育となりましたが、事故防止対策を事前に話し合い、地域、保護者への協力呼びかけ、日々の報連相の徹底を行ったことで、大きな事故無く保育を進める事ができました。

② 子ども達へのやさしい関わりや接遇の徹底。

【達成】月1回、接遇担当者を中心とした話し合いを行い、園児の良いところを認め合う言葉かけなど話し合い、接遇向上に繋がりました。

2. 地域と共に

(1) 社会とのよりよい関係づくりを強化する取組み

① 足羽川ふれあいマラソンへの開催。子ども達の体力向上や地域の方との繋がりが深まることを目的のひとつとし、積極的な参加。

【未達成】新型コロナウイルス感染防止の観点から、足羽川ふれあいマラソンを延期としました。

② 地域への情報提供の充実(チラシ等の配布及びHP更新 月1回以上)

【達成】園周辺の2地区に子育て支援事業に関するチラシ回覧を年2回実施しました。また、ホームページへの掲載は年間を通して実施(各おたより月1回 活動アルバム年19回)しました。園舎改築に係る地域の方への協力依頼、お知らせチラシ等(年6回)も行いました。

(2) 地域のために法人資源を活用する取組み

① 生活困窮者支援の取組み

生活困窮者における法人内連携に関わると共に、地域会議へ積極的に参加し、地域における課題を知り、法人の役割について検討。

【一部達成】地域会議への参加(年4回)を行い、地域における課題を知ることができましたが、法人の役割についての検討には至りませんでした。

② ボランティアの受入れ。新型コロナウイルス感染防止対策の状況に応じた、ボランティア、実習、施設見学ニーズへの対応。

【一部達成】ボランティア受け入れ(27名 引越しボランティア含) 施設見学(2名) 資格取得に係る実習生受入れはありませんでした。

3. 職員と共に

(1) 目標を描き、共に成長する取組み

(重点項目) あすわ ers 定着への取組み

① あすわ ers でのラダー、等級基準項目、バリュー項目についての理解を深め、日常のOJTに取り組んでいく。また月1回各項目についての意見交換を引き続き実践。

【達成】あすわ ers についての疑問点や意見交換を実施し(月1回)、日常のOJTで実践しました。今後も継続した取り組みが必要です。

(2) 安心して働ける健康経営の取組み

① 有休、連続休暇、産休育休取得など、シフトや配置を工夫し、職員が働きやすい環境を整備。

【達成】5日以上の有休および連続休暇取得(全員) 産休育休取得(4名) コロナ禍における休校休暇取得(8名)などに対応する為、シフトや配置を工夫しながら職員の協力体制を強化し業務を遂行しました。

(3) 共に働く人を呼び込む取組み

① さまざまな立場の人の活躍の場の提供。(主婦 高齢者雇用)

【達成】子育て支援員1名 高齢者雇用2名を配置しました。

4. 実施プロセス

(1) 法人の価値を高める取組み

① (重点項目) 園舎改築の着工

地域に開かれたこども園として、工程に従った早目の準備や確認を進めながら年度内完成を目指す。

【達成】6月着工から週1回建設打ち合わせを行い、設計士、建設会社との工程確認を実施。年度内完成に至りました。

② 仮園舎での安全保育の実施。こども達が安心した日常を送れるよう、職員が一丸となって環境の整備。

【達成】担当職員が中心となり、安全計画を作成し、事前の準備や仮園舎地域の下見、話し合いを充分に行ったことで、事故なく保育を実践することができました。

③ SDGs の取組み。「足羽福祉会 SDGs 宣言」に沿って 2030 年を見据えての具体的行動計画の作成及び実践。

【未達成】足羽福祉会 SDGs については、理解への取組みが不十分で具体的行動計画の作成には至りませんでした。

(2) 透明性の高いガバナンスを追求する取組み

① 役割分担を明確にし、上司からの確認や指導、職員同士の情報伝達への取組みの実施。

【達成】組織図、役割分担表を作成し、全職員に周知すると共に、報連相の取りやすい体制を整えました。

(3) 外部評価や認証制度の活用

① 福井市のアクションプログラムを活用し、各項目達成を目指した活動を実施。保護者や地域に向け、結果を含めた内容を玄関等に掲示。

【達成】園の取組みに合わせた評価カテゴリーを 24 項目選択し、自己評価を行いました。結果は市担当課に送り、職員、保護者、地域の方にもわかるよう掲示しました。評価結果が継続や改善に繋がるよう、次年度の計画を作成しました。

(4) 合理化と効率化を推進する取組み

① 登校園管理システムを導入。園児の利用状況を管理することで、市への報告書作成や延長保育、一時預かり利用料の集金業務の効率化を図る。

【一部達成】利用時間について手作業が無くなり、保護者、職員の負担減となりました。また、市への報告書に関する集計作業の効率が良くなりました。しかし不具合時の対応や職員の操作手順の理解不足に課題が残りました。

② ICT 活用による業務改善。グループウェアを活用した電子決裁、ペーパーレスの実施、文書管理等のルール作り。

【一部達成】グループウェアについては情報収集や他法人とのやり取りに有効ですが、しかし使用については個人差があり、ペーパーレスの実施には至っていません。

5. 財務基盤の安定化

(1) 資金収支 10 カ年を達成する取組み。

① 建設に伴う費用の支払い計画に基いた経営管理の実施。

【達成】建設に伴う支払いについては、本部担当職員と費用の増減、支払額、補助金額など確認しました。

<サービス利用実績>

事業	年間延べ利用者数			年間事業収入(サービス)		
	当初目標 (人)	実 績 (人)	達成率 (%)	当初目標 (千円)	実 績 (千円)	達成率 (%)
幼保連携型認定 こども園事業	1,380	1,471	106.6	132,021	134,218	101.7

令和 3 年度事業報告

足 羽 学 園

I. 実施事業

1. 福祉型障害児入所支援（定員 20 名）
2. 短期入所（定員 4 名）

II. 第IV期中期事業計画における重点取組項目

1. 子ども福祉部門間において、連携会議の場を設け、児童の交流機会の実施・強化
【達成】連携会議を 3 回開催し、交流を目的とした「子どものアート展」やご家族向けセミナーの開催を実施しました。
2. 関係機関との連携を図り成人移行期への準備推進
【一部達成】ケースワーカーを配置し、学校及び関係機関等との連携の下、卒業後の青年期移行に向けた協議を開催しました（高等部 2 年生対象）。
3. 専門研修への職員派遣（PECS2 名・自閉症 e サービス研修等）
【達成】今年度事業計画に基づき、職員の派遣を実施しました。

III. 事業推進計画

1. 利用者様と共に

（1）夢や幸せを実現するための取り組み

- ① （重点項目） 子ども福祉部門間の合同行事として「子どものアート展」や保護者や職員対象の「公開セミナー」の実施（打ち合わせ：年 3 回）
【達成】12/21～26 開催の「〇展～えんてん 2021～」の一角をお借りし、「子どもアート展」と称したこども福祉部門の作品展示を開催しました。また、R4.1/22 に利用者様ご家族向け公開セミナーを WEB にて実施（事前打ち合わせ 3 回）しました。
- ② 子ども達一人ひとりのストレングス（強み・良さ・成長しているところ）に視点をおいだ、成長が感じられる実現可能な個別支援計画、チーム支援による支援の充実を図ると共に、記録に残す事で「成長の見える化」実施
【達成】アシスタントチーフ、エキスパートを中心に個別支援計画の記録内容、用紙の見直しを実施し、次年度前期計画作成時に反映させました。また、日々の支援での気づきを記録に残して職員間での情報共有を図りました。
- ③ 未就学児の発達支援プログラムを確立し、就学に向けた支援の充実を図る
【達成】未就学児 3 名に対し、発達支援プログラムを基に PDCA を繰り返しながら支援を実施。日々の積み重ねの中で集中力や生活スキルの成長を図ることができた。
- ④ 高等部児童の青年期への円滑な移行に向けた生活プログラムの実施と各機関（出身市町村）との関係構築
【達成】高等部 2 年生の児童 3 名について、ソーシャルワーカーが中心となり関係機関と連携図りケース会議を延べ 4 回実施しました。
- ⑤ ユニット単位で活動・行事について企画・立案段階から子ども達の参画
【達成】自治会（月 1 回開催）にて収集した利用者様の意見を基に、余暇活動やご飯づくりのメニューの反映し実施しました。
- ⑥ 子どもたちが自分達で出来るお手伝いをしたり、お互いに助け合ったりする中で、できた事に対して褒めたり認める支援を行い、自己肯定感・協調性の育成。
【達成】お手伝いから波及した子ども達自身の「やりたい」思いを職員が受け止め、一緒に経験することを通して自己肯定感を育み可能性を引き出す支援を実施しました。

(2) 安心、尊厳を守る取り組み

- ① お便りや web 面会等を活用し、子どもの成長を共に喜び、ご家族の悩みや不安に寄り添うファミリーサポートの実施

【達成】毎月発行の「きらきら便り（学園だより）」や、家族との電話、web 面会等の支援を通して子ども達の成長を伝えたり、不安に思っている事を傾聴したりすることで、家族の心の拠り所として取り組みました。

- ② 挨拶、立ち居振る舞いに気を配り子ども達の手本となる接遇力の向上

【一部達成】職員会議における接遇チェックは実施できたものの、お手本となる接遇力向上への取り組みは不十分になりました。

- ③ 社会的擁護（虐待等）を理由に入所された子どもの背景を理解し、家庭的な雰囲気のもと安心感を育みながら子どもの気持ちに寄り添った支援の推進

【達成】新規 1 名の措置入所受入れに際し、家族の困り感や本人の困り感を職員間で周知し、その子どものペースに合わせた支援を構築する取り組みを実施しました。

- ④ 子どもたちと共にトヨタ式片付け術の活用した過ごしやすい環境づくりへの取り組み

【未達成】子ども達を巻き込んだ取り組みには至りませんでした。次年度、継続し取り組みます。

- ⑤ ヒヤリハット、事故報告の分析を深め、対応方法について職員会議や事務連絡での情報共有、事故防止に向けた支援の実施

【達成】ヒヤリハット 82 件、事故報告 43 件があり、リスクマネジメント委員会（毎月）にて要因分析、改善策を検討しました。また、その結果を遅滞なく職員に対して情報周知を図りました（引き継ぎ簿やファイルメーカー、グループウェアを活用）。

- ⑥ 虐待防止委員会を毎月開催し、職員個々の業務の振り返りを行い、子ども達の権利が守られているかを主軸においた支援の充実及び予防策の徹底

【達成】虐待防止委員会を毎月実施。全職員への「支援の振り返りシート」を基に挙がってきた支援の課題を明確化し、PDCA を実施しながら子どもたちの権利が損なわれないように支援の充実、予防策の徹底に取り組みました。

- ⑦ 当法人「新型コロナウイルス対策事業継続計画（BCP）」に基づくマニュアルの改訂をはじめとする感染症対策の取り組み強化

【達成】法人の BCP 変更に伴う園内マニュアルを更新しました。また、7～9 月にかけ全職員対象の PPE（個人防護具）脱着手技確認実施。その中で挙がった課題を整理し、PPE 脱着方法の見直しを検討し改訂版の動画を作成し周知を図りました。

- ⑧ 火災・地震・土砂・防犯等非常事態に備えた訓練を計画的に実施し、危機管理体制の強化と意識の醸成（毎月）

【達成】危機管理委員会にて作成した年間計画に基づき訓練を実施しました。訓練を通して、課題等の洗い出しを行うと共に随時マニュアルの更新を図りました。

- ⑨ 新型コロナウイルス感染拡大阻止を図る為、クラスター発生想定訓練（年 1 回）の実施

【達成】11/18 に学園内でクラスターが発生を想定し、両園でのバックアップ体制の確認やユニットのゾーニング等の訓練を実施しました。また、12/8 に監督職を対象に発生時の情報集約等初動訓練を行いました。

2. 地域と共に

(1) 社会とのより良い関係づくりを強化する取り組み

- ① ブログを定期更新（各ユニット 1 回/月以上）、ミニミニ新聞（年 3 回）活用した情報発信（アクセス件数 6,800 件数）

【未達成】ブログアップ 38/48 件（目標値 79%）アクセス数 4,283/6800 件（目標値 63%）に留まりました。要因として、アップする情報はあっても関わらず時期を逃してしまっていた事が挙げられました。

- ② コロナ禍の中、「新しい生活様式」に基づいた交流の在り方を模索し、WE B 等を活用した出前講座や、酒生小学校支援学級及び 4 年生との福祉交流事業の実施

【一部達成】11/26 に酒生小学校 4 年生を対象とした出前授業を実施。また、酒生小学校支援学級との交流についてはコロナ禍で実施時期を探っていたが設定できず見送りとしました。

③ 第 13 回サービス実践報告会やその他専門部会（児童発達支援部会等）においての活動発表の実施

【達成】サービス実践報告での発表としての機会を得なかったが、取り組んだ内容については、「思い」にて掲載しました。

④ ランナー、ボランティア、地域等、関わる全ての人がふれあい感じることができる第 9 回足羽川ふれあいマラソンを安全配慮、柔軟な運営により開催

【未達成】新型コロナウイルス感染防止の観点から、足羽川ふれあいマラソンを延期としました。

（2）地域のために法人資源を活用する取り組み

① 社会的擁護が必要とされる緊急一時保護受け入れについて、各児童福祉相談所と連携し迅速な対応

【達成】5/29～6/24 1 名、延べ 27 日の受け入れを実施しました。

② 生活困窮者支援における法人内連携および中間的就労の場の提供

【達成】法人内連携で相談を受け、1 名対応実施し、定着に向けて取り組み継続中です。

③ 新型コロナウイルス感染防止対策の状況に応じた、ボランティア、実習、施設見学ニーズへの対応

【達成】法人内連携で相談を受け、1 名対応実施し、定着に向けて取り組み継続中です。

④ 足羽更生園を始め、法人内の障がい福祉部門と連携し、「福井県自閉症支援者養成セミナー2021」の実施方法も含めて、協力して開催

【一部達成】セミナーについては、新型コロナウイルス感染症予防の観点から今年度の開催も見送りました。また、12/2 にフォローアップ研修はオンラインで開催し、1 名の職員が参加しました。

3. 職員と共に

（1）目標を描き共に成長する取り組み

④ （重点項目）職員の専門性を向上させるため P E C S（絵カード交換式コミュニケーションシステム：2 名派遣）などの専門療法や自閉症 e サービスなどの専門機関の研修への職員派遣（リモート研修含む）

【達成】PECS 研修 2 名、自閉症 e サービス研修 1 名、その他の研修に 15 名の職員を派遣しました。

② 前年度スタートした新人事管理制度「あすわ ers」の理解を深め、ラダー、等級基準項目、バリュー項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取り組みの実施

【一部達成】「あすわ ers」の理解を深めるための伝達及び周知に関しては実施しました。しかし、目標である日常的な上司部下のコミュニケーションについては一部の職員に限られました。

③ 各部署での支援技術動画を 1 事例作成し、支援の共有を図ると共に、法人本部と連携し、障害者福祉の専門教育を効率的に行うための e - ラーニングプログラム検討。各拠点での研修動画の活用

【達成】支援技術動画として PECS 支援の動画作成はできた。e ラーニング導入については検討を行い、9 月より導入しました。また、導入にあたり障がい福祉部門各拠点にも情報提供を行いました。

④ 障がい福祉部門全体で連携して、サビ児管養成研修、強度行動障害者支援者養成研修等、制度上必要な研修への職員派遣及び職員研修

【達成】障がい福祉部門連携会議で検討を行い、計画的に職員派遣しました。児童発達支援管理責任者基礎研修 1 名、強度行動障害者支援者養成研修 2 名（基礎）、1 名（実践）の内容となりました。

⑤ SV（スーパーバイザー）研修を通して PDCA サイクルで取り組み、障がい特性の理解や支援スキルの醸成を図り、共に成長しあう取り組みの推進

【達成】年間 11 回の研修を実施しました。PDCA サイクルでの取り組み状況や研修で学ん

だ事を職員間で情報共有を図りながら取り組みを行い、年度末の報告では講師より「1年での成長を感じることができた」とのコメントを頂きました。

(2) 安心して働ける健康経営の取り組み

- ① 職員が十分にリフレッシュを図り、モチベーションアップにつながるよう、公休も含めた連続休暇（3連休）を達成しつつ次の4連休（全体の50%）取得を目指し、計画的付与促進

【一部達成】3連休については100%達成できました。4連休については目標の50%（実績41%）に留まりました。

- ② グットネスやにこりホット、言葉の花束を通して、仕事に誇りを持ち意欲的に取り組める企画の実施（毎月）

【達成】職員が子ども達のグットネス報告を記入し、各ユニットへの掲示や記録に残に残すことで情報の共有と蓄積を図りました。また、毎月職員向けの言葉の花束を職員会議にて実施し、集まったカードを年度末に職員個々へ手渡しました。

- ③ （重点項目） 就業奉行、勤怠クラウドを活用し、個々の業務量の適正化を進める（総超勤時間数の25%減：668時間減）

【未達成】職員（ちょこっと就労）の未採用によりその業務時間が超過勤務に波及した。また、子どもたちの成長に合わせたユニット再編等が業務の細分化を助長し、現行職員数では対応が厳しくなった事などの要因が重なり、目標達成には至りませんでした。

(3) 共に働く人を呼び込む取り組み

- ① 法人と連携して実習生やインターシップを受け入れ、施設が果たす役割や必要性、福祉の仕事の楽しさをPRし福祉人材の確保

【達成】法人と連携し、就職希望及び内定者の実習受け入れ1名実施しました。

- ② 各世代のライフワークにあわせた働き方を提案し、支援補助としての子どもたちの生活サポーターの確保（2名）

【未達成】ハローワークやミニミニ新聞を活用した広報活動を実施しましたが、人材確保には至りませんでした。

4. 実施プロセス

(1) 法人の価値を高める取り組み

- ① 短期入所の事業において家族のレスパイト（休息）としての機能を担うことで、在宅で暮らす子どもたちをサポート

【達成】コロナ禍が続く中で状況を鑑みながら受け入れを実施し、延べ182人の利用となりました。また、自宅での養育困難ケース（2名）についても法人内他拠点と連携しながら受け入れを実施しました。

- ② 「足羽福祉会 SDGs 宣言」に沿って、2030年を見据えての具体的行動計画の作成及び実践

【未実施】足羽福祉会 SDGs 宣言に向けて準備が進められ、令和4年4月宣言となった為、拠点での具体的行動計画等は実施には至りませんでした。

- ③ 法人職員として「認知症サポーター養成研修」を2022年度末までに全員が受講（10名受講）

【達成】今年度13名の受講（昨年度と通算して71%受講完了）し、次年度に残り5名について受講を予定します。

(2) 透明性の高いガバナンスを追求する取り組み

- ① 外部委員（弁護士、家族代表、成年後見人）を招聘した虐待防止外部委員会を開催（年2回）し、外部の意見を伺いながらサービスの「見える化」の促進

【達成】7/8・3/24に外部委員を招いた委員会を開催しました。7/8については、法人内他拠点からも、5名の職員が参加し、多角的にいろんな意見を伺いました。

- ② 法人全体で取り組むグループウェアシステムの実用化に向けた決裁権限のルール作りと WEB 決裁等導入への積極的な参画

【未実施】具体的な取り組みに至りませんでした。

(3) 外部評価や認証制度を活用する取り組み

- ① 福祉サービス第三者評価の受審結果の改善取り組みを継続し、サービスの標準化・質の向上（検証：年2回）

【一部達成】受審結果にて指摘を受けた改善点においては日々の支援等の中で取り組みを実施しました。しかし、サービスの標準化・質の向上に対する検証（自己評価）は未実施となりました。

(4) 合理化と効率化を推進する取り組み

- ① 法人監事による管理職対象の財務会計勉強会の開催（年6回）

【未実施】法人本部との擦り合わせにより、管理職研修にて実施予定されとの事となり独自の勉強会は見送りました。

- ② グループウェアを活用した電子決裁、ペーパーレスの実施に向けて、権限移譲、文書起案、供覧、保存等の具体ルール作り

【一部達成】グループウェアの活用に向けた権限の移譲や文書起案等の検討を一部行いました。実務使用する中で、職員間の情報共有や連絡事項等にかかるペーパー削減と時間短縮に関して取り組みました。

5. 経営基盤の安定化

(1) 資金収支 10 か年を達成する取り組み

- ① 事業計画の進捗状況の確認と修正を定期的に遂行し、月次決算による予算管理の徹底（毎月）

【達成】事業計画に基づく進捗状況を運営会議等で確認修正を行うと共に、レビューや月次決算を踏まえて収支バランスを確認しながら運営を計画的に実施しました。また、毎月の月次決裁時において、科目ごとの実績と予測差異を確認しました。

- ② 会計監査人による会計指導に基づき適正な財務管理

【達成】会計監査人の定期監査を受け、指摘された内容等について適正に対応を図り、財務管理を行いました。

- ③ 新報酬単価に基づく職員配置や各種加算の算定を行い、制度設計に沿った事業経営の推進

【達成】職員配置に基づく報酬単価や加算に適切に申請を実施し、新たにソーシャルワーカーの配置を行いました。

<サービス利用実績>

事業	年間延べ利用者数			年間事業収入 (サービス)		
	当初目標 (人)	実績 (人)	達成率 (%)	当初目標 (千円)	実績 (千円)	達成率 (%)
入所事業	6,297	6,399	101.6	114,556	117,472	102.5
短期入所事業	180	182	101.1	1,481	1,275	86.1
計	6,477	6,581	101.6	122,937	133,361	108.5

令和 3 年度事業報告

あすわ児童発達支援センター

I. 実施事業

1. 子ども発達支援センター フレンズあすわ

- (1) 児童発達支援事業 (定員 12 名)
- (2) 放課後等デイサービス事業 (定員 10 名)
- (3) 保育所等訪問支援事業
- (4) 短期入所事業 (定員 5 名)
- (5) 児童発達支援センター機能強化事業 (福井市委託事業)

2. フレンズみゆき

- (1) 放課後等デイサービス事業 (定員 10 名)

3. フレンズどれみ

- (1) 放課後等デイサービス事業 (定員 10 名)

II. 第IV期中期事業計画における重点取組項目

- 1. 児童福祉門間において、連携会議の場を設け、児童の交流機会の実施・強化
【一部達成】足羽東こども園、足羽学園と定期的に会議を設け、児童の交流の場を企画し実施しました。次年度も継続実施します。
- 2. 福井市障がい児支援事業所連絡会の会員事業所同士が連動することで地域ニーズの詳細を把握
【一部達成】昨年度から続きコロナ禍の影響もあり、直接交流する場は設けられず、オンラインを中心に定期的な会議や研修を実施し、地域課題を集約しました。地域課題の一つでもある医療的なケアの必要な児童の受入れの体制を児童期から学齢期まで長期的な体制構築に変更します。
- 3. 新報酬改定にあった人員配置及びサービス提供体制(特に放デイ)を構築し、変更後も安定した事業運営の実施
【一部達成】可能な限り報酬改定に合わせ人員配置を行いますが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、安定した事業運営とはなりません。次年度も継続実施します。

III. 事業推進計画

1. 利用者様と共に

(1) 夢や幸せを実現するために強みを生かす取組み

- ① (重点項目) こども福祉部門の合同行事として、「こどものアート展」や保護者や職員等対象の「公開セミナー」の実施 (打ち合わせ：年 3 回)

【一部達成】12/22～12/26 に子どものアート展を、障がい者福祉部門の〇展と同時開催し、1/22 に保護者向けセミナーを開催し、仁愛大学の森先生にご講義いただきました。ただし、開催方法や参加への周知方法等に課題があったため、次回に検討します。

- ② 定員増員した児童発達支援のクラス編成し、専門性の向上、及び医療的ケアの必要な子ども (以下、医ケア児) の支援プログラムの確立のため、保育士の勉強会の実施。

【達成】一部平日のクラスを3クラス編成に移行し、利用者のニーズ増に対応しつつ、専門性向上のために職員向け研修会を4回実施しました。また、福井県医療的ケア児等コーディネーター研修に職員を派遣しました。

- ③ 「本人らしさ」の形成時期となるよう放課後等デイサービス (以下、放デイ) 3 事業所の個別支援計画の内容や作成方法の見直し。

【一部達成】放デイ3事業のすべての利用者様のアセスメントを作成し、本人及び保護者の主訴を明確にし、個別支援計画の作成プロセスを整備しました。

- ④ 児童発達支援センター機能強化事業（以下、機能強化事業）と連携し、保護者支援・きょうだい支援の充実となるよう「with コロナ」の時代に合ったセミナー等の実施（年10回）

【未達成】計7回実施しました。

- ⑤ 保護者のレスパイト支援のため、短期入所事業は法人内各拠点と連携しつつ、実施。

【一部達成】課題のある利用者様及び家庭を支えるため、足羽学園と連携し、新たなニーズに対応しました。

- ⑥ 利用者様の模範となるよう接遇の徹底

【一部達成】接遇トレーナー及び委員を中心に法人と共通した目標のもと実施しました。

（2）安心、尊厳を守る取組み

- ① 新型コロナウイルス感染防止対策の徹底により、利用者様が安心して事業利用できるよう支援。

【一部達成】定期的または時期をみて、保護者に案内を通知しながら、感染対策の周知及び協力をいただきながら、実施しました。3月に入り、計3名の利用者様の感染が判明したため、保健所の指導の下、計3事業10日間休業しました。

- ② 保育所等訪問支援事業での教育機関との連携強化。

【未達成】コロナ禍により、各機関に訪問する機会が限られていたため、家庭連携やオンラインなど新たな手法を用い対応しました。

- ③ チームで事例研究の取組みを外部での発表の機会を創出。

【達成】法人のサービス実践報告会にて事例を発表しました。

- ④ 虐待防止委員会毎月開催による支援の振り返り、予防策の徹底。

【達成】毎月委員会を実施し、予防定期対応をしつつ、職員会議等で全職員に周知しました。

- ⑤ 児童発達支援センターとして、行政や関係機関とのネットワーク作りにおいて当事業所の強みを伝え、外部からの信頼を獲得。

【一部達成】これまで同様、福井市自立支援協議会のこども部会や福井県特別支援教育専門委員会に参加しつつ、個別の困難ケースに関してはケース会議等で課題解決に向けた取り組みを他分野・他機関と協議しながら対応しました。

2. 地域と共に

（1）社会とのよりよい関係作りを強化する取組み

- ① 福井県こども療育センターや福井市健康管理センターとの連携を強化し、地域で子どもを支える体制を構築。

【一部達成】幼児相談会などを通じて各機関と連携し対応しました。

- ② 福井市障がい児支援事業者連絡会（以下、事業所連絡会）の事務局として、発達支援における現状の共有と課題の協議検討を推進し、地域ニーズの見える化の実施（年4回）

【一部達成】運営会議5回、総会2回、例会2回、部会1回実施し、加入事業所の課題解決に取り組みました。

（2）地域のために法人資源を活用する取組み

- ① 生活困窮者支援における法人内連携および中間的就労の場の提供。

【未実施】当拠点に関する事象がありませんでした。

- ② 新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、実習・ボランティアの積極的に受け入れ（実習生25名／年、ボランティア100名／年、視察説明50名／年）

【未達成】コロナ禍のため、ボランティア及び視察説明の受け入れは行いませんでした。実習生は計24名受け入れました。

- ③ ランナー、ボランティア、地域など関わる全ての人がふれあいを感じることができる第9回足羽川ふれあいマラソンを安全配慮、柔軟な運営により開催。

【未達成】新型コロナウイルス感染防止の観点から、足羽川ふれあいマラソンを延期としました。

④足羽更生園を始め、法人内の障がい者福祉部門と連携し、「福井県自閉症支援者養成セミナー2021」の実施方法も含めて、協力して開催。

【一部達成】新たな開催方法を模索する中、フォローアップセミナーとして過去の参加者(9名)が受講しました。

3. 職員と共に

(1) 目標を描き、共に成長する取組み

① 前年度スタートした新人事管理制度「あすわ ers」の理解を深め、ラダー、等級基準項目、バリュー項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取組みの実施。

【未達成】制度導入 2 年目になったが、細部にわたる疑問点などについて職員間で話し合う機会を持てませんでした。

② 新型コロナの感染状況を注視しながら、将来の人材確保の機会となるようフレンズどれみを中心に学生ボランティアやアルバイトを積極的に招集。

【未実施】新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、中止しました。

③ 障がい者福祉部門と連携しながら計画的に児童発達支援管理責任者等、制度上必要な研修への職員派遣および職員研修。

【一部達成】障がい福祉グループ連携会議にて、派遣対象職員を選定し、派遣を実施しました。派遣年度にあすわ ers の等級が EX 以上であることの必要性があるという課題が見えたため、今後は注視しながら派遣を行います。

④ 職員の専門性を向上させるためポータープログラムや PECS などの専門療法や自閉症 e サービス@ふくいなどの専門機関の研修への派遣（リモート研修を含む）や日々の実践のまとめを外部機関にて発表。

【一部達成】コロナ禍により、外部への派遣及び発表の機会は限られていたため、オンライン研修を中心に受講しました。

(2) 安心して働ける健康経営の取組み

① 多様な働き方をサポートしつつ、キャリア形成となるよう、障がい福祉部門で連携しながら、eラーニング等を活用するためのプログラムの選定や実施方法の検討。

【未達成】足羽学園・足羽更生園で試験的に導入された「スペシャルラーニング」について検討し、令和 4 年度より全正規職員を対象に受講の準備を行いました。

② パートタイム職員や中途採用職員・派遣職員の資質向上のための研修会を年 4 回実施。

【未達成】1 回のみ実施しました。

(3) 共に働く人を呼び込む取組み

③ 各職員が意欲的に法人事業に寄与できるよう、法人本部を中心に「あすわ ers」の精度を向上。

【一部達成】法人の主催する人事管理に関する研修に参加し、制度の理解と実施上の課題解決に向けて取り組みました。

4. 実施プロセス(設備投資を含む)

(1) 法人の価値を高める取組み

① 「足羽福祉会 SDGs 宣言」に添って、2030 年を見据えての具体的行動計画の作成及び実践。

【未達成】拠点として取り組みができませんでした。

② 障がい福祉部門での協議を通して、各拠点の活動が補完し合う「将来の障害福祉サービス事業」の検討。

【一部達成】後期より障がい者福祉部門の GM 会議を実施し、拠点を超えて課題解決及び連携について協議しました。

③ 法人職員として、「認知症サポーター養成研修」を 2022 年度末までに全員が受講。

【未達成】拠点として受講が難しい時間帯での開催のため、受講できるように担当 GM に日程

等について相談を行いました。

(2) 透明性の高いガバナンスを追求する取組み

- ① 事業所運営におけるさまざまなリスク（事故、苦情、災害、感染症、不審者等）に適切に対処できるようマニュアルの整備および対応訓練の実施。

【未達成】 対応マニュアルの見直しを行いつつ、各種訓練等については年間計画に基づいて実施しました。（児童発達支援センターとしては年 10 回実施）

- ② 会計監査人導入に伴い、内部監査体制、監事による定期的な監査を受け、月次決算による経営状況の進捗管理を適切に行いながら、適切な財務管理を維持。

【達成】 法人本部と連携しながら法令等に基づき実施しました。

(3) 外部評価や認証制度を活用する取組み

- ① 今年度もアンケートを実施し、前年度の児童発達支援事業や放課後等デイサービス事業のガイドラインに基づく自己評価結果を改善した上で、その結果を公表し PDCA サイクルを定着。

【達成】 9 月に前年度評価に関する改善報告、12 月に今年度の自己評価結果を法人ホームページにて公開しました。

- ② 保護者への案内や連絡等を可能な限り IT 化。

【達成】 各事業のメーリングリストを作成し、保護者等への案内（コロナに対するご案内、事業所紹介など）をメールにて配信しました。

(4) 合理化と効率化を推進する取組み

- ① グループウェアを活用した電子決済、ペーパーレスの実施に向けて、権限移譲、文書起草、供覧、保存等の具体的ルール作り。

【一部達成】 グループウェアの利用促進のため、拠点内に委員会を設置し、職員の負担軽減、業務改善に取り組みました。

- ② （重点項目） ファイルメーカーの個別支援記録システムの活用と ICT 機器を使用した業務改善の推進。

【一部達成】 放課後等デイサービスの個別支援計画に基づく支援記録をファイルメーカーに移行し、ペーパーレス化を行いました。

- ③ 障がい者福祉部門の連携会議を通して、連携強化および業務管理体制の維持向上の一部達成実施。

【一部達成】 毎月実施し、各拠点の課題の把握、解決に向けた取り組みの共有、共通課題に対する連携を行いました。

5. 財務基盤の安定

(1) 資金収支 10 カ年計画を達成する取組み

- ① 新たに改正された各事業の報酬体系を最大限に生かすことができるような職員配置や各種加算を取得することで経営を安定化させ、一部達成可能な事業として基盤整備を実施。

【未達成】 報酬改定の情報収集を早期から行い、可能な限り収入に反映できるような職員配置を行うなど対応しましたが、課題解決に向けた対応に時間がかかり、コロナ禍による利用控えなどもあったことで、安定した事業運営ができませんでした。

- ② 様々な児童発達支援のニーズ（高機能自閉症等クラスの増設や医ケア児の受け入れ体制の強化）に沿うことで、稼働率を安定・向上。

【一部達成】 平日クラスを一部増設したり、医ケア児の利用増に対応することで、前年度実績を上回りました。

- ③ 借入金返済及び賞与資金積み立てを計画的に実施。

【未達成】 予算を下回る実績となったため、他拠点からの繰り入れを行いました。

- ④ （重点項目） フレンズみゆきの経営改善にむけて課題の抽出と解決に向けた取り組みの計画的実施。

【一部達成】 フレンズみゆきの課題だけでなく、あすわ児童発達支援センターで実施する放課後等デイサービスの課題解決に向けて担当者による会議を実施しました。後期より障がい者福祉部門の GM 会議にて将来に向けて課題解決の協議を行いました。

<サービス利用実績>

	事業	年間延べ利用者数			年間事業収入 (サービス)		
		当初目標 (人)	実 績 (人)	達成率 (%)	当初目標 (千円)	実 績 (千円)	達成率 (%)
子ども発達支援センター フレンズあすわ	児童発達支援	2,889	2,679	92.7	42,622	42,630	100.0
	放課後等デイサービス	3,427	3,159	92.2	39,122	37,845	96.7
	保育所等訪問	240	195	81.3	4,597	3,428	74.6
	短 期 入 所	233	221	94.9	2,597	2,232	86.0
フレンズみゆき	放課後等デイサービス	2,780	2,810	101.1	31,113	30,953	99.5
フレンズどれみ	放課後等デイサービス	2,748	2,471	89.9	29,579	27,026	91.4
計		12,317	11,535	93.7	149,630	144,114	96.3

令和 3 年度事業報告

足羽ワークセンター

I. 実施事業

- | | |
|-----------------|-----------|
| 1. 就労継続支援 B 型事業 | (定員 30 名) |
| 2. 就労移行支援事業 | (定員 10 名) |
| 3. 就労定着支援事業 | |

II. 第IV期中期事業計画における重点取組項目

1. 就労継続支援 B 型事業・・・利用者様平均工賃 25,000 円以上実現。
【未達成】年間での平均工賃月額が 23,166 円となり、目標とする 25,000 円に届きませんでした。役務(清掃、介護補助)業務では平均 25,000 円以上を達成していましたが、給食業務等飲食部門における経費が大きい課題を改善できませんでした。次年度より給食業務再編により、外販事業を拡充し、全体での工賃向上につなげます。
2. グループウェアを活用した電子決裁、ペーパーレスの実施に向けて、権限移譲、文書起案、供覧、保存等の具体的ルール作り。バージョンアップ後の個別支援記録システムの徹底活用(モバイル化、音声認識機能活用)による記録時間の捻出や簡素化推進。
【一部達成】グループウェアの活用で、紙の引継ぎ簿を廃止し、個別支援記録システムでも記録の簡素化、あすわの実弁当注文のシステム化等により、業務改善やペーパーレスが進んでいる感触はありますが、どう「見える化」し、皆で共有していくかが課題です。残業の多い職員との面談や業務調整を通して、普通残業時間は、2 年連続で減少しています(令和1年;月 10.2 時間/人→令和 2 年;月 8.3 時間/人→令和 3 年;月 7.5 時間/人)。
3. 就労移行支援事業の展開方法を見直し、より短期間での就職実績、定着フォロー、利用者様確保の流れを確立。
【達成】就職を希望する利用者様の合同面接会等への参加を推進し、前期に 1 名、後期に 3 名が就職を達成しました。11 月より就労定着支援事業を開設し、6 名の就職者の定着支援を行いました。

III. 事業推進計画

1. 利用者様と共に
 - (1) 夢や幸せを実現するために強みを生かす取組み
 - ① 「私らしく働く」ことを支えるための個別支援計画、チーム支援による支援の充実、事例検討。
【一部達成】事例検討は 2 件あげ、毎月の職員会議時にケース検討を行ったり外部講師によるスーパービジョンを受けたりながら、全体で取り組みました。本人のペースに合わせた作業プログラムや事業選択を提案し、2 事例とも本人の望む活動へとつなげることができました。すべての利用者様に提供できるよう着実に取り組みを広げます。
 - ② 利用者様の模範となるよう接遇の徹底。
【未達成】法人接遇委員会のスローガンを終礼時に読み上げる等して法人職員としての意識統一を図りましたが、分離礼等徹底できませんでした。
 - ③ 一般就職された利用者様の活動「あすわフレンズの会」イベント 2 回実施。
【未達成】コロナ感染防止のため、活動できませんでした。しかし就労している元利用者様

の就業状況に対するアフターフォローは、電話などで行うなどして対応しました。

④ ○展 2021 への出品に向けた創作活動の支援。

【未達成】利用者様の見事な表現活動が展示され、本人の満足度につながりましたが、事業所として具体的に支援を行うことはできませんでした。

(2) 安心、尊厳を守る取組み

① 虐待防止委員会毎月開催による支援の振り返り、予防策の徹底。

【達成】監督職以上の会議にて虐待防止委員会を毎月開催し、職員研修のテーマやアンケート結果の分析を行いました。毎月の職員会議では、職員の支援上の悩みを共有することを目的にグループワークを中心とした検討の場を設け、風通しの良い職場づくりを目指しました。

② 事業所運営におけるさまざまなリスク（事故、苦情、災害、感染症、不審者等）に適切に対処できるようマニュアルの整備および対応訓練の実施。

【未達成】火災訓練は定例化していますが、地震、水害や不審者対応の訓練を行うことができませんでした。

③ 新型コロナウイルス感染防止対策の徹底により、利用者様が安心して事業所利用できるよう支援

【達成】施設外での就労支援が多いため、感染リスクに関する情報収集を徹底し、早めの対策をとることで、職員間また職員から利用者様への感染を起こすことを防ぎました。

2. 地域と共に

(1) 社会とのよりよい関係づくりを強化する取組み

① 配食サービス、弁当販売、オリジナル健康食品等、地域ニーズへの積極的展開。

【一部達成】地域で暮らす独居高齢者等への配色サービスは着実に増えています。公民館活動や地区社協を始め、さまざまな弁当内容のニーズに応え、注文数も 1,000 件以上/月となりました。オリジナル製品としての糀スモージーは道の駅や生協等様々な販路拡大に取り組み、より多くのお客様に手に取ってもらえるよう取り組みました。

② ランナー、ボランティア、地域等、関わる全ての人々がふれあいを感じることができる第 9 回足羽川ふれあいマラソンを安全配慮、柔軟な運営により開催

【中止】新型コロナウイルス感染症の影響により中止延期となりました。

③ 県立図書館オープンスペースあすわの木の運営、また足羽川ふれあいマラソンをはじめ地域の様々なイベントへの出店を通じた、障がい理解の推進および地域にとって心地よい食や空間の提供。

【達成】福井県立図書館あすわの木は、感染対策の徹底により年間を通しての事業継続を果たしました。障害のある方の就労体験希望にも柔軟に応じ、社会復帰につながった方もいます。感染が一時的に収まった秋から冬にかけての数か月は、できるだけイベント出店し、多くの一般客との交流を図りました。

④ 事業所の取組みを HP、SNS 等を活用して積極発信。インターネット注文、インターネット販売など、商品購入の利便向上の取組み。

【達成】YouTube 動画配信やインスタグラム、HP ブログ等 SNS を通じた情報発信に力を入れ、あすわの木のインスタグラムフォロアーは 1,000 人超となるなど、一定の成果も感じました。

(2) 地域のために法人資源を活用する取組み

- ① 生活困窮者支援における法人内連携および中間的就労の場の提供

【達成】 困窮者への相談対応を行いました。断続的となつてしまひ、具体的なサービスや就労には繋げられませんでした。

- ② 新型コロナウイルス感染防止対策の状況に応じた、ボランティア、実習、施設見学ニーズへの対応。

【達成】 年間を通して、サービス利用のための見学や実習の要望に応えました（見学 12 件、実習 5 件）。うち 3 名が利用契約となりました。ボランティアの受け入れ実績はありませんでした。

- ③ 障がい者福祉部門の連携による法人主催「福井県自閉症支援者養成セミナー2021」開催への参画

【未達成】 新型コロナウイルス感染症の影響によりセミナーは中止となりました。代替研修として開催のフォローアップ研修に事例提供者として参加しました。

3. 職員と共に

(1) 目標を描き、共に成長する取組み

- ① 前年度スタートした新人事管理制度「あすわ ers」の理解を深め、ラダー、等級基準項目、バリュー項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取組みの実施。

【未達成】 定められたシートを使つての評価しかできず、定期的な 1on1 の育成面談を行うことができませんでした。

- ② 個人の成長意欲に応じた研修計画立案および参加支援。また他法人の取組み視察。障がい者福祉部門で連携してのサービス管理責任者養成研修、強度行動障害者支援者養成研修等、制度上必要な研修への職員派遣および職員研修。

【一部達成】 制度研修については、障がい者福祉部門において優先度の高い受講者を選定して、必要な研修に職員を派遣し、サービス管理責任者の取得者、強度行動障害者支援者養成研修受講者を 1 名ずつ派遣しました。それ以外の研修 20 件(うち WEB 研修が 13 件)にのべ 26 人受講しました。

- ③ 法人本部と連携し、障害者福祉の専門教育を効率的に行うための E-ラーニングプログラム検討。各拠点での研修動画の活用。

【一部達成】 本部と連携してのプログラム検討はできませんでしたが、足羽更生園での取り組みを元に、令和 4 年度からは障がい者福祉部門全体で同じ E ラーニングの教材を使って取り組むこととなりました。

(2) 安心して働ける健康経営の取組み

- ① 計画的な有給休暇取得の推進、業務改善を通しての超過勤務時間縮小化、クックチルの徹底活用による調理員の時差勤務の負担軽減化等、働きやすい職場づくりへの取組み。

【一部達成】 計画的有給取得は対象職員は 100%達成です。協力して事務作業時間を確保しあうなどの取り組みにより、全体の総残業時間及び一人当たりの残業時間は前年度よりも減少しています。調理員の勤務形態については、あすわの実の注文が増える中、逆に早出、遅出の時間が増えるなど、負担軽減となりませんでした。調理員については、令和 4 年度より足羽更生園との業務再編によって、業務改善を行います。

- ② 何でも相談し合えるようコミュニケーションを重視し、社会保険労務士による巡回訪問相

談を通しての労務課題の改善。

【達成】職員から施設外就労の際の休憩時間の取り方に関する質問を受け、社会保険労務士による相談の中で、休憩として認められる取り方を学び、職員側に周知しました。職員からの相談には、法人本部に相談したり複数の上司でサポートしあったりしながら対応できました。

4. 実施プロセス

(1) 法人の価値を高める取組み

① (就労継続支援 B 型事業・・・利用者様平均工賃 25,000 円以上実現。(重点目標)

- ・ 飲食業務・・・法人内他拠点と連携して統一した献立ソフト活用、徹底した原価管理、製造プロセスの改善等による給食事業の収支改善。外販事業の新たな販路獲得、オリジナル商品の開発。
- ・ 清掃業務・・・嶋田病院、愛全園からの受託事業における業務取組みの改善。
- ・ 介護補助業務・・・愛全園からの受託事業における業務取組みの改善。

【一部達成】第Ⅳ期中期事業計画における重点取組項目の結果通りです。

② 就労移行支援事業・・・法人内外での就職者 3 名輩出および既就職者のアフターフォロー。障害種別にかかわらない就労移行支援による利用者様確保。(重点目標)

【一部達成】第Ⅳ期中期事業計画における重点取組項目の結果通りです。

③ 障がい者福祉部門での協議を通して、各拠点の活動が補完し合う「将来の障害福祉サービス事業」の検討。

【達成】後期より障がい者福祉部門の GM 会議を毎月開催し、SWOT 分析をもとに取り組むべき方向性について検討し、「あらゆる障がいに対応していく」こと、「各事業所がより連携して事業を進めていく」ことを共有しました。その上で令和 4 年度に取り組むべきことおよび令和 5 年度以降の次期中期事業計画策定の中で具体化していくこととの整理を行いました。

④ 「足羽福祉会 SDGs 宣言」に沿って、2030 年を見据えての具体的行動計画の作成および実践。

【未達成】法人としての宣言作成が進まず、具体的計画作成に至りませんでした。

⑤ 法人職員として「認知症サポーター養成研修」を 2022 年度末までに全員が受講。

【一部達成】職員 10 名が受講しました。令和 4 年度に 18 名受けることで全員受講達成となります。

(2) 透明性の高いガバナンスを追求する取組み

① 会計監査人監査による指摘事項に対して着実に改善することでのガバナンス強化。

【一部達成】指摘を受けていた固定資産の現物確認をすることで、固定資産の状況を明確に把握することができました。しかしすべての指摘事項に対応することができず、次年度も継続して取り組むこととしました。

(3) 外部評価や認証制度を活用する取組み

① 福井県版 HACCP 認証取得をめざし、リスク除去の工程確立のもとで安全な食品提供ができる衛生管理体制の構築。

【未達成】外部のコンサルテーションを受けながら進めていますが、令和 4 年度からの給食業務再編を優先するため、一時的に中断しています。

(4) 合理化と効率化を推進する取組み

① グループウェアを活用した電子決裁、ペーパーレスの実施に向けて、権限移譲、文書起案、供覧、保存等の具体的ルール作り。バージョンアップ後の個別支援記録システムの

徹底活用(モバイル化、音声認識機能活用)による記録時間の捻出や簡素化推進。(重点項目)
【一部達成】第Ⅳ期中期事業計画における重点取組項目の結果通りです。

5. 経営基盤の安定化

(1) 資金収支 10 カ年計画を達成する取組み

- ① 就労移行支援事業の展開方法を見直し、より短期間での就職実績、定着フォロー、利用者様確保の流れを確立。

【一部達成】第Ⅳ期中期事業計画における重点取組項目の結果通りです。

- ② 予算管理徹底、支出削減とコスト意識を強化し、月次決算による経営状況の把握を適切に行い、適正収益を確保。

- ・水道光熱コスト・・・毎月の使用状況管理。
- ・食材原価・・・原価率 46%以下に。
- ・超過勤務時間・・・業務改善を行いながら 30%削減。稼働率 120%/月を目標とし、安定運営。

【一部達成】水道高熱コストに関しては見える化できませんでした。年間の原価率は 43.8%と目標達成しました。令和 4 年度からは足羽更生園、愛全園と同じ献立ソフトを使つての共同発注等に取り組み、食材費高騰への対応および原価率低減に対応します。超過勤務時間は減少しましたが、率は 2%減と、目標には達しませんでした。

<サービス利用実績>

事業	年間延べ利用者数			年間事業収入 (サービス)			年間事業収入 (就労支援)		
	当初目標	実績	達成率	当初目標	実績	達成率	当初目標	実績	達成率
就労継続 支援 B 型	7,585 人	7,876 人	103.8%	60,546,000 円	61,528,928 円	101.6%	140,903,000 円	140,129,766 円	99.5%
就労移行 支援	2,709 人	1,606 人	59.3%	14,893,000 円	14,065,658 円	94.4%	1,452,000 円	1,194,824 円	82.3%

令和 3 年度事業報告

スマイル

I. 実施事業

1. 生活介護事業

(定員 30 名)

II. 第IV期中期事業計画における重点取組項目

1. ICT 活用により会議時間や記録時間の短縮化を進め、職員の残業時間の削減と業務の効率化を図る
【未達成】インカム活用により支援体制の迅速化は達成、適時適切な支援を達成しています。業務の効率化においては時間外での対応が多く、昨年度対比+8%の残業増となりました。
2. 自閉症支援のプロを目指し、実践を通して自閉症や強度行動障害のある方が過ごせる環境づくりの実現
【一部達成】自閉症支援勉強会を年間通して実施、強度行動障害支援の資格等の取得推進を行い、利用者様には特性に合わせた構造化の導入や、個別の環境設定等を行っています。次年度は個別性や自己決定の支援の充実を図ります。
3. 重度障害者の日中活動場所確保に向けた積立
【一部達成】障がい福祉部門での連携のもと、候補地選定や事業内容の検討を行い、積立に向けた健全経営を実施しました。次年度も継続実施します。

III. 事業推進計画

1. 利用者様と共に

(1) 夢や幸せを実現するために強みを生かす取組み

- ① 社会体験活動(12 回)、研修旅行(1 回)、選択食(6 回)、自治会(12 回)、作業選択(随時)、創作活動(随時)による意思決定支援の充実

【達成】意思決定支援として各行事計画に基づき実施、社会体験活動と選択食の複合パターンでの提供も実施しました。

- ② 利用者様のアセスメントの充実を図り「私らしく生きる」ための支援内容をチーム支援にて事例検討、実践

【未達成】毎月 1 回「支援会議」において、利用者様支援を検討、実践しました。アセスメント取得の勉強会は実施出来ず、十分な知識習得には至りませんでした。

- ③ 健康管理、歯科講習、感染症対策など利用者様勉強会の実施(年 6 回)

【達成】「健康」2 回、「歯科」2 回、「感染」2 回の勉強会を実施しました。

- ④ ○展 2021 やアールブリュット展への出品に向けた創作活動の充実

【達成】余暇活動での作品づくりや日々の活動の集約などから出展しました。

- ⑤ 満足度調査として利用者様アンケート、利用者様ご家族(後見人含む)アンケートを実施(年一回)

【未達成】利用者様満足度アンケートを実施しました。ご家族アンケートは内容の精査に終わり未実施。モニタリング時に要望の聞き取りを実施、内容をまとめ、個別支援計画や事業計画に活かします。

(2) 安心、尊厳を守る取組み

- ① 事業所にある全てのマニュアルの新規作成、更新、削除を進め、利用者様支援の質の向上に資するものに整備

【未達成】既存のマニュアルの再構築、削除作業を実施しました。新規作成、更新作業において未完となりました。

- ② 足羽更生園、あすわ地域生活支援センター、相談支援事業所リアン、その他関係機関と

連携、システムを活用したケースカンファレンスを、年間 40 回実施（延回数）

【一部達成】足羽更生園とのカンファレンスを重点実施、その他の実施方法を担当者間の日々のやり取りに重点を置くことで十分な支援づくりが可能となりました。他機関とのカンファレンスは 5 回実施しました。

③ 虐待防止委員会（月 1 回）、虐待防止チェックリストの実施（年 2 回）。「虐待防止改善計画」を策定・実施。利用者様支援の悩みや疑問等をケース会議で随時検討

【未達成】虐待防止委員会を毎月 1 回実施。利用者様のケース検討や勉強会等を通して実施しました。虐待防止チェックリストの実施が 2 月と遅れ「虐待防止改善計画」の策定が未実施となりました。

④ 新型コロナウイルス感染防止策の徹底により、利用者様が安心、安全に利用できるよう支援

【一部達成】マスク着用促し手指消毒の習慣化を、利用者様勉強会を通して伝達、細かな声掛けの継続により約 9 割の方が実施出来ています。

⑤ 事業所運営におけるさまざまなリスク（サービス事故や苦情、災害、感染症、職員の労務管理等）に適切に対処、業務マニュアルの整備および事業継続計画等（BCP）の見直しを行い、職場内ルールの明確化

【達成】年度当初 5 月に BCP 見直しを実施、8 月に BCP 作成の研修会に参加し、県へスマイル版 BCP 提出を行いました。非常災害対策として、非常食、支援物品の購入、備蓄を行いました。

2. 地域と共に

（1）社会とのよりよい関係づくりを強化する取組み

① ランナー、ボランティア、地域等、関わる全ての人々がふれあいを感じることができる「第 9 回足羽川ふれあいマラソン」を安全配慮、柔軟な運営により開催

【未達成】新型コロナウイルス感染防止の観点から、足羽川ふれあいマラソンを延期としました。

② （重点項目）事業所周辺の「花いっぱい運動」やイベント出店など交流活動を通して、障がい学習、障がい理解を目指した情報発信の実施（成和地区）

【一部達成】利用者様と共にプランターの水やりを行い、その様子をポスターで作成、グリーンセンターや和田公民館等に掲示依頼で障がい理解を目指しました。

③ スマイルの取組みについてホームページや機関誌「愛道」を活用して情報発信（月 2 回以上）

【未達成】今年度更新目標 24 回中、10 回となりました。機関誌の活用として、愛道にスマイルのマット「AmuAmu」について掲載しました。

④ スマイルマット「AmuAmu（アムアム）」の商品名で販売、情報発信

【一部達成】商品名の考案、委託販売先を「パン工房セタロウ」、「あすわの木」に展開、売上は一昨年の 3.5 倍に上がりましたが、障がい理解の情報発信への繋がりには模索状況です。

（2）地域のために法人資源を活用する取組み

① 生活困窮者支援における法人内連携および中間的就労の場の提供

【未達成】生活困窮者の相談実績、および中間的就労の提供はありません。地域共生社会、生活困窮者支援についての勉強会を実施しました。

② 新型コロナウイルス感染防止対策の状況に応じた、ボランティア、実習、施設見学ニーズへの対応

【達成】コロナ感染の状況を見ながら、実習者（延べ 15 日）、見学者（6 件）、ボランティア（登録 5 人）の受け入れを行いました。

③ 新規利用者様獲得のため、特別支援学校や地域のニーズなど関係機関との連携により積極的に情報発信・収集を実施

【達成】高等部 1、2 年生の状況について、フレンズあすわや相談員、特別支援学校と連携の

もと、実習や体験、見学などで発信しました。

④ 障がい者福祉部門と連携し「福井県自閉症支援者養成セミナー2021」開催に協力

【未達成】新型コロナウイルス感染症の影響によりセミナーは中止となりました。代替研修として開催のフォローアップ研修に事例提供者として参加しました。

3. 職員と共に

(1) 目標を描き、共に成長する取組み

① 前年度スタートした新人事管理制度「あすわ ers」の理解を深め、ラダー、等級基準、バリューの各項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取組みの実践

【達成】管理監督職で評価者研修に参加しました。毎月の進捗面談を各職員と OJT 形式で実施して、「あすわ ers」の理解を進めました。

② 個々に応じた研修計画立案において障がい者福祉部門全体で連携、サービス管理責任者養成研修、強度行動障害支援者養成研修等、制度上必要な研修への職員派遣、受講および資格取得状況の管理

【達成】年度当初に各職員に研修要望書を提出してもらい年間の研修計画を立案計画通りに受講を実施しました。サービス管理責任者実践研修 1 名、強度行動障害支援者養成研修（実践編）1 名修了しました。

③ （重点項目） 法人本部と連携し、障がい者福祉の専門教育を効率的に行うための e-ラーニング等を活用したプログラムの検討、パート・派遣職員向けの自閉症支援、接遇、リスクマネジメントなど勉強会の実施

【未達成】カラフルと合同で「パート・派遣職員勉強会」を年 3 回実施しました。自閉症 e サービス研修や全国社会福祉協議会のオンデマンド学習を進めましたが、具体的な e-ラーニングの実施までは至りませんでした。

④ 自閉症支援のプロ育成を目指し事業所内勉強会、全職員が所外研修を受講

【達成】自閉症勉強会の実施や、自閉症 e サービスの参加などを行い、根拠ある支援の提供を目指しました。また、福井県特別支援教育センター、福井県社会福祉協議会など主催の勉強会に参加しました。

(2) 安心して働ける健康経営の取組み

① サービスの質向上や業務のスリム化、効率化を目指し、職員が何でも話し合い、企画提案、実行することを奨励、権限委譲や会議の持ち方を工夫

【未達成】年度当初に事業計画詳細を作成、サビ管中心に取り組みを展開しました。職員からの企画提案では、時間的余裕が持てず具体的な業務のスリム化、効率化は図れませんでした。会議では検討を重視したことで、積極的な発言や協議が出来ました。

② 労務管理において、社会保険労務士による巡回訪問、相談体制を継続、課題改善に取り組み、職場環境の充実を図る。（ストレスチェックの実施やメンタルヘルス復帰推進）

【達成】社会保険労務士との労務相談の結果について職員にフィードバックを行いました。また、ストレスチェックの実施や業務等による疲れが見える職員には個別面談などの配慮を実施しました。

③ 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）と接遇の実施

【未達成】トヨタ式を活用した整理整頓では、個々には実施出来ていましたが、スマイル全体としては実施できませんでした。

(3) 共に働く人を呼び込む取組み

① 計画的な有給休暇取得の推進、および育児休暇、介護休暇等の取得など、働きやすい職場環境の充実。ワークライフバランスに配慮し、残業、シフト業務、休憩時間等の業務改善を実施

【達成】育児休暇からの復帰者 1 名についてスムーズな職場復帰を行いました。また、年間有給取得予定表を作成、全職員が最低 5 日間の計画的な有給取得を進めました。

- ② 求人活動におけるプレインターンシップ制度の活用や採用メディア、ツールの検討、改善を通して、法人のサービスや育成、福利厚生等をアピールし、障がい者支援の専門性を重視した採用につながる実習受入れ

【達成】 インターンシップに関しての事業所案内動画の撮影や、内定者の1日体験実習を受入れました。

4. 実施プロセス

(1) 法人の価値を高める取組み

- ① 「足羽福祉会 SDGs 宣言」に沿って、2030 年を見据えての具体的行動計画の作成、及び実践

【未達成】 SDGs に関する研修に参加したが、具体的な行動目標の策定には至っていません。

- ② 障がい者福祉部門での協議を通して、各拠点の活動が補完し合う「将来の障がい福祉サービス事業」の検討

【達成】 中期事業計画の進捗状況を確認のもと、部門内の連携による「送迎ルート」の検討、システム改善など定期的に話し合いを実施し、効率的かつ効果的な福祉サービス事業の提供を検討しました。

- ③ (重点項目) 重度障がい者等の受け入れを目指し、新たな生活介護事業所の立上げについて足羽更生園と協働で準備、実施

【未達成】 候補地の選定、その活用方法について障がい福祉部門で協議中です。

- ④ 法人職員として「認知症サポーター養成研修」を 2022 年度末までに全員受講

【達成】 今年度 3 名が受講、残り 4 名が 2022 年度受講予定です。

(2) 透明性の高いガバナンスを追求する取組み

- ① 会計監査人監査の結果を受け法人の内部統制ルールに基づき、透明性の高いマネジメント体制を目指す

【達成】 内部統制ルールに基づき、透明性の高いマネジメント体制を実施しました。

(3) 外部評価や認証制度を活用する取組み

- ① 令和 2 年度受審の福祉サービス第三者評価制度の結果に基づき PDCA サイクルの実施

【一部達成】 改善計画に基づき PDCA サイクルを実施しました。意思決定支援やプライバシーに関して進めることができませんでした。

(4) 合理化と効率化を推進する取組み

- ① グループウェアを活用した電子決済、ペーパーレスの実施に向けて権限移譲、文書決裁、供覧、保存等の具体的ルール作り

【達成】 グループウェアを活用して、情報の周知・連絡、復命書の電子決済などを推進しました。

- ② (重点項目) インカム活用継続による業務の効率化、残業の削減(前年度比 20%削減)

【未達成】 インカムの活用により、現場での情報共有や状況把握を素早く行えています。職員配置の把握や見直し、不穩時の対応など迅速に行えています。しかし、残業削減に関しては 8%増える結果となり、業務量の適正化など課題が残りました。

5. 経営基盤の安定化

(1) 資金収支 10 ヵ年計画を達成する取組み

- ① 安定運営を行うために定員の充足継続、活動の充実や支援体制に合わせた職員の適正配置を行い、財務基盤の安定を図る

【達成】 新規利用者様 2 名確保、職員の適正配置による安定運営を実施しました。

- ② 月次決算による経営状況の把握を行い、収入、支出の適正な見極めを実施

【達成】 月次で経営状況の把握を行い、収支の適正な見極めを実施しました。

- ③ 目標利用率 91%を目指し安定経営を図る

【未達成】 利用率 88.7%となりました。新規の利用者様 2 名の獲得も、コロナ関連で事業所閉所(2 日間)や利用控え、隔日利用の利用者様増などが挙げられます。

- ④ 新たな生活介護事業所の開設に向けて、足羽更生園、カラフル、あすわ相談支援事業所
 リアンと連携して計画、立案に取り組む、開所に向けた資金積立 5,000 千円を行う
【一部達成】候補地の選定と合わせて、障がい者福祉部門と連携して協議を継続しています。

<サービス利用実績>

事業	年間延べ利用者数			年間事業収入 (サービス)			年間事業収入 (就労支援)		
	当初目標 (人)	実 績 (人)	達成率 (%)	当初目標 (千円)	実 績 (千円)	達成率 (%)	当初目標 (千円)	実 績 (千円)	達成率 (%)
生活介護事業	7,342	7,167	97.6	72,472	73,356	101.2	325	326	100.2

令和 3 年度事業報告

カラフル

I. 実施事業

1. 生活介護事業

(定員 30 名)

II. 第IV期中期事業計画における重点取組項目

1. 高齢化への対応の充実、人材育成（介護分野との連携による技術取得）
【未達成】高齢福祉部門が講師での介護技術の習得はコロナ禍により実現できませんでした。
カラフル職員（介護福祉士）による直接支援を学びとして実施しました。
2. 余暇支援（創作活動）の充実
【達成】季節や行事、風物詩に合わせた作品づくりに全員で取り組み、出来た作品は地域の駅舎等への展示や、各種展覧会への出展を行い入選作品も生まれました。次年度への継続と活動の幅を広げます。
3. ユニバーサルスポーツ（卓球バレー・ボッチャ）推進による障がい理解と地域交流
【未達成】日々の活動への導入は定着化を図ることが出来ましたが、スポーツを通しての地域との交流は実現できませんでした。次年度に向け地元小学校との打ち合わせを実施しています。

III. 事業推進計画

1. 利用者様と共に

(1) 夢や幸せを実現するために強みを生かす取組み

- ① 社会体験活動(12回)、研修旅行(1回)、選択食(6回)、自治会(12回)、作業選択(随時)、創作活動(随時)による意思決定支援の充実

【達成】意思決定支援として各行事計画に基づき実施。「コロナ禍でも出来ること」で研修旅行も県内で計画、実施しました。

- ② 利用者様のアセスメントの充実を図り「私らしく生きる」ための支援内容をチーム支援にて実践、事例検討として実施

【未達成】毎月1回「支援会議」において、利用者様支援の振り返りと検討を実施しました。しかし、次期の目標設定に繋げる検討には至りませんでした。

- ③ (重点項目) ユニバーサルスポーツ（ボッチャ、卓球バレー等）を活動に取入れ、利用者様の健康維持増進、ソーシャルスキル向上を目指す

【達成】毎週1回以上の定着開催で、利用者様の健康維持増進に繋がりました。ルール説明や、チームプレーの楽しさの実感などからソーシャルスキルの向上を目指しました。県主催のバタック大会や福井しあわせ障スポ☆フェスタにも積極的に参加しました。

- ④ ○展 2021 やアールブリュット展への出品に向けた創作活動の充実

【達成】作品の出展と共に、実際に「○展」を見学して自分たちの作品を見ることで、創作意欲を高めました。その他「かんでんコラボアート」に出展、入選しました。

- ⑤ 満足度調査として利用者様アンケート、利用者様ご家族（後見人含む）アンケートを実施（年一回）

【未達成】新年会で「おはなしマスク会」を実施しました。ご家族アンケートは内容の精査に終わり未実施ですが、モニタリング時にご要望の聞き取りを実施、内容をまとめ、個別支援計画や事業計画に活かしています。

(2) 安心、尊厳を守る取組み

- ① 事業所にある全てのマニュアルの新規作成、更新、削除を進め、利用者様支援の質の向上に資するものに整備

【未達成】既存のマニュアルの再構築、削除作業を実施しました。新規作成、更新作業において未完があります。

- ② 足羽更生園、あすわ地域生活支援センター、相談支援事業所リアン、他関係機関と連携、システムを活用したケースカンファレンスを年間 40 回（延回数）実施

【未達成】カンファレンスの実施方法を、担当者間の日々のやり取りに重点を置くことで十分な支援づくりが可能となりました。年間 20 回実施しました。

- ③ 虐待防止委員会（月 1 回）、虐待防止チェックリスト（年 2 回）実施。「虐待防止改善計画」の策定・実施、利用者様支援の悩みや疑問等をケース会議で随時検討

【達成】虐待防止委員会を毎月 1 回実施しました。虐待防止チェックリストを（年 2 回）実施や利用者様支援の悩み、疑問について検討しました。

- ④（重点項目）成年後見制度への理解、認知症への理解、介護技術の習得を進め、高齢利用者支援における専門性の向上を目指す

【一部達成】介護技術の習得に向けて、高齢者福祉部門との連携による講習を依頼していましたが、コロナ禍により実施できませんでした。介護福祉士職員より直接支援を場面に合わせて実施しました。

- ⑤ 新型コロナウイルス感染防止策の徹底により、利用者様が安心、安全に利用できるよう支援

【一部達成】マスク着用促し手指消毒の習慣化を、利用者様勉強会を通して伝達、細かな声掛けの継続により、約 9 割の方が実施出来ています。

- ⑥ 事業所運営におけるさまざまなリスク（サービス事故や苦情、災害、感染症、職員の労務管理等）に適切に対処、業務マニュアルの整備および事業継続計画等（BCP）の見直しを行い、職場内ルールの明確化

【達成】年度当初 5 月に BCP 見直しを実施、8 月に BCP 作成の研修会に参加、県へカラフル版 BCP 提出を行いました。非常災害対策として非常食、支援物品の購入、備蓄を行っています。

2. 地域と共に

（1）社会とのよりよい関係づくりを強化する取組み

- ① ランナー、ボランティア、地域等、関わる全ての人々がふれあいを感じることができる「第 9 回足羽川ふれあいマラソン」を安全配慮、柔軟な運営により開催

【未達成】新型コロナウイルス感染防止の観点から、足羽川ふれあいマラソンを延期としました。

- ② 利用者様と共に地域の清掃奉仕、花壇の水やりを実施（月 1 回以上）。利用者様が余暇活動で作成した作品展示を実施（追分口駅舎、新保駅舎、福井銀行新保店など）

【達成】利用者様と共に地区の清掃奉仕を実施（年間 18 回）。地区の駅舎に設置のプランターの水やりも清掃と合わせて実施しました。また東藤島小学校様から預かったプランターの水やりから、花の成長を記録、ポスターにしてお渡ししました。利用者様の作品を駅舎に展示、好評いただいています。利用者様と製作したカレンダーは地域の学校や公共機関、関係者等 20 件に配布しました。

- ③（重点項目）ユニバーサルスポーツによる交流を通して、障がい学習、障がい理解を目指した情報発信（大東地区）

【未達成】コロナ禍のため交流は出来ませんでしたが、地元小学校の福祉学習での交流への導入について担当者と検討しています。

- ④ カラフルの取組みについてホームページや機関誌「愛道」を活用して情報発信（月 2 回以上）

【達成】ホームページで月 2 回以上情報発信を行いました。

（2）地域のために法人資源を活用する取組み

- ① 生活困窮者支援における法人内連携および中間的就労の場の提供

【未達成】生活困窮者の相談実績、および中間的就労の提供はありません。地域共生社会、生活困窮者支援についての勉強会を実施しました。

- ② 新型コロナウイルス感染防止対策の状況に応じた、ボランティア、実習、施設見学ニーズへの対応

【達成】コロナ感染の状況を見ながら、実習者（延べ 18 日）、見学者（5 件）の受け入れ、ボランティア（登録 1 グループ）との DVD での交流を行いました。

- ③ 福井大東地域包括支援センターと連携して、地域公民館、民生委員、自治会との連絡等による地域活動等の情報収集、提供を実施

【中止】東藤島地区における花植え交流やボッチャの交流について情報収集や打合せは行いましたが実施できませんでした。

- ④ 障がい者福祉部門と連携し「福井県自閉症支援者養成セミナー2021」開催に協力

【中止】新型コロナウイルス感染症の影響によりセミナーは中止となりました。

3. 職員と共に

（1）目標を描き、共に成長する取組み

- ① 前年度スタートした新人事管理制度「あすわ ers」の理解を深め、ラダー、等級基準、バリューの各項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取組みの実践

【達成】管理監督職で評価者研修に参加しました。毎月の進捗面談を各職員と OJT 形式で実施して、「あすわ ers」の理解を進めました。

- ② （重点項目）利用者様の支援の充実を目指し、高齢者福祉部門との連携による介護技術の習得、介護福祉士資格の令和 4 年度取得者 1 名の推進

【未達成】高齢者福祉部門の協力で機能訓練を学び実践しましたが、全職員の共有には至っていません。介護福祉士資格の取得者育成について、確保出来ませんでした。

- ③ 個々に応じた研修計画立案において障がい者福祉部門全体で連携、サービス管理責任者養成研修、強度行動障害支援者養成研修等、制度上必要な研修への職員派遣、受講および資格取得状況の管理

【達成】年度当初に各職員に研修要望書を提出してもらい年間の研修計画を立案計画通りに受講を実施しました。強度行動障害支援者養成研修（実践編）1 名修了しました。

- ④ 法人本部と連携し、障がい者福祉の専門教育を効率的に行うための e-ラーニング等を活用したプログラムの検討、パート・派遣職員向けの自閉症支援、接遇、リスクマネジメントなど勉強会の実施

【未達成】スマイルと合同で「パート・派遣職員勉強会」を年 3 回実施しました。自閉症 e サービス研修や全国社会福祉協議会のオンデマンド学習を進めましたが、具体的な e-ラーニングの実施までは至りませんでした。

（2）安心して働ける健康経営の取組み

- ① サービスの質向上や業務のスリム化、効率化を目指し、職員が何でも話し合い、企画提案、実行することを奨励、権限委譲や会議の持ち方を工夫

【未達成】会議開催 3 日前までに各自の意見を打ち込み、資料に目を通し、各自が意見を出せるように設定、時間内で終わるようにしましたが、意見の抽出や検討時間は十分に持てませんでした。

- ② 労務管理において、社会保険労務士による巡回訪問、相談体制を継続、課題改善に取り組み、職場環境の充実を図る。（ストレスチェックの実施やメンタルヘルス復帰推進）

【未達成】社会保険労務士との労務相談の結果について職員にフィードバックを行いました。また、ストレスチェックの実施や業務等による疲れが見える職員には個別面談などを実施しましたが、メンタルヘルス対応の休職者が 1 名発生しました。

- ③ 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）と接遇の実施

【達成】トヨタ式を活用した整理整頓に取り組み、進捗状況を支援会議で報告してきました。

（3）共に働く人を呼び込む取組み

- ① 計画的な有給休暇取得の推進、および育児休暇、介護休暇等の取得など、働きやすい職場環境の充実。ワークライフバランスに配慮し、残業、シフト業務、休憩時間等の業務

改善を実施

【一部達成】年間有給取得予定表を作成、全職員が最低 5 日間の計画的な有給取得を進めました。残業時間は令和 2 年度から 28%の削減となりました。職員 1 名がメンタルヘルスにより長期休職となりました。

- ② 求人活動におけるプレインターンシップ制度の活用や採用メディア、ツールの検討、改善を通して、法人のサービスや育成、福利厚生等をアピールし、障がい者支援の専門性を重視した採用につながる実習受入れ

【達成】インターンシップに関しての事業所案内動画の撮影や、内定者の 1 日体験実習を受入れました。

5. 実施プロセス

(1) 法人の価値を高める取組み

- ① 「足羽福祉会 SDGs 宣言」に沿って、2030 年を見据えての具体的行動計画の作成、及び実践

【未達成】SDGs に関する研修に参加しましたが、具体的な行動目標の策定には至っていません。

- ② 障がい者福祉部門での協議を通して、各拠点の活動が補完し合う「将来の障がい福祉サービス事業」の検討

【達成】中期事業計画の進捗状況を確認のもと、部門内の連携による「送迎ルート」の検討、システム改善など定期的に話し合いを実施し、効率的かつ効果的な福祉サービス事業の提供を検討しました。

- ③ 生活介護事業の共生型サービスについて議論・検討

【未達成】共生型サービスの勉強会に参加したが実施には至っていません。

- ④ 法人職員として「認知症サポーター養成研修」を令和 4 年度末までに全員受講

【未達成】職員 1 名を残して全員受講完了しています。

(2) 透明性の高いガバナンスを追求する取組み

- ① 会計監査人監査の結果を受け法人の内部統制ルールに基づき、透明性の高いマネジメント体制を目指す

【達成】内部統制ルールに基づき、透明性の高いマネジメント体制を実施しました。

(3) 外部評価や認証制度を活用する取組み

- ① 令和 4 年度受審予定の福祉サービス第三者評価制度に向け、令和元年度受審の福祉サービス第三者評価結果に基づき、質の向上に向けた取組みを PDCA サイクルで実施

【一部達成】改善計画に基づき PDCA サイクルを実施しました。意思決定支援やプライバシーに関して進めることができませんでした。

(4) 合理化と効率化を推進する取組み

- ① グループウェアを活用した電子決済、ペーパーレスの実施に向けて権限移譲、文書決裁、供覧、保存等の具体的ルール作り

【達成】グループウェアを活用して、情報の周知・連絡、復命書の電子決済などを推進しました。

- ② 業務の効率化、支援のスピード対応を目指したインカムの活用

【一部達成】利用者様支援における各階との伝達は一部スムーズに行えていあすが、伝達不備もあるため、インカム使用のルールの明確化を行います。

5. 経営基盤の安定化

(1) 資金収支 10 カ年計画を達成する取組み

- ① 安定運営を行うために定員の充足継続、活動の充実や支援体制に合わせた職員の適正配置を行い、財務基盤の安定を図る

【一部達成】定員未充足が 2 カ月ありましたが、新規受入れにより充足、コロナ禍での創作活動の充実を目指し実施しました。職員の適正配置による安定運営を実施しました。

② 月次決算による経営状況の把握を行い、収入、支出の適正な見極めを実施。

【達成】 月次で経営状況の把握を行い、収支の適正な見極めを実施しました。

③ 目標利用率 88%を目指し安定経営を図る。

【未達成】 利用率 86.7%となりました。コロナ関連の利用控えや高齢利用者様の病気療養による利用率低下がありました。

④ 利用者様のニーズに合った新たな生活介護事業所の開設に向けて、足羽更生園、スマイル、あすわ相談支援事業所リアンと連携して計画、立案に取り組む

【一部達成】 候補地の選定と合わせて、障がい者福祉部門と連携して協議を継続しています。

<サービス利用実績>

事業	年間延べ利用者数			年間事業収入 (サービス)			年間事業収入 (就労支援)		
	当初目標 (人)	実 績 (人)	達成率 (%)	当初目標 (千円)	実 績 (千円)	達成率 (%)	当初目標 (千円)	実 績 (千円)	達成率 (%)
生活介護事業	7,108	6,995	98.4	70,623	71,385	101.0	504	507	101.0

令和 3 年度事業報告

足羽サポートセンター

I. 実施事業

1. 就労継続支援 B 型事業

(定員 30 名)

II. 第Ⅳ期中期事業計画における重点取組項目

1. 重度、高齢化してきた利用者様も安心・安全に作業活動ができるような環境整備
【達成】利用者様の体調管理に重点を置き、個別の作業支援、適度な休憩等を行ってきたことにより、安心、安全に作業活動ができるような環境整備ができました。次年度も利用者様の体調管理に重点を置き、安心・安全に作業活動できるよう環境整備をしていきます。
2. 施設外作業への取組み利用者 18 名を目指し利用者様平均工賃 12,000 円以上の実現
【未達成】施設外作業への取組む利用者様は 18 名いましたが、利用者様平均工賃は 11,395 円でした。そのため次年度から新たに農作業に取り組み、利用者様の工賃アップにつなげていきます。
3. 重度利用者様支援に必要な研修に参加して、職員のスキルアップ向上
【一部達成】認知症サポーター養成講座には全職員が参加できましたが、その他の必要な研修には参加できませんでした。そのため次年度はスペシャルラーニングや各種障害に関する研修会に参加して、職員のスキルアップを図っていきます。

III. 事業推進計画

1. 利用者様と共に

(1) 夢や幸せを実現するために強みを生かす取組み

- ① (重点項目) 重度・高齢化してくる利用者様も安心して利用できるゆるやかな B 型事業所として活動できるよう、利用者様の体調管理を重点的に行いながらの個別支援。
【達成】体調管理を毎日行い、不調時は休憩をとったりご家族に連絡をとって帰宅できるようにしながら無理のない状態で活動できるよう個別の作業支援をさせていただくことで、利用者様も安心して通所されていました。
- ② 「私らしく働く」ことを支えるための個別支援計画、チーム支援による支援の充実、事例検討。
【一部達成】ケース事例 2 件に対して職員全員が定期的に取り組むことで、職員が共有しながら支援の統一化を図ることができましたが、課題が解決されたわけではありませんでした。
- ③ 施設外就労作業を 18 名以上の利用者様が体験できるような支援体制。
【達成】利用者様 18 名が施設外就労参加を体験でき、社会で働く体験ができました。
- ④ 障がい者福祉部門と連携しての新規事業立ち上げ。
【達成】障がい者福祉部門の会議で検討した結果、当事業所を中心として農業関係の事業を行うことを決め、次年度初期から開始できるよう準備ができました。
- ⑤ 新しい生活様式に合った方法で、社会参加活動として地域の資源を生かしながら体験する機会づくり。
【達成】新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、丸岡城へのドライブ 1 回、障がい者スポーツ大会への参加を行いました。
- ⑥ 在宅利用者様に対して〇展 2021 やアールブリュット展への出品に向けた創作活動の支援。
【達成】利用者様 4 名が作品を出展した〇展に、当事業所の利用者様全員が鑑賞に行くこと

で、作品を楽しむ体験をすることができました。

(2) 安心、尊厳を守る取組み

- ① 利用者様が活動する環境を安全、快適に整えるため 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の徹底。

【達成】職員が 5S を意識して実施してきたことにより、利用者様は働きやすかったです。

- ② 接遇委員を中心に年 2 回の接遇研修を行い、基本となる笑顔と挨拶、適切な身だしなみ、言葉使いの徹底。

【達成】電話応対と苦情応対についての研修を行ったことにより、日頃の対応の振り返りを行うこともでき、接遇力向上につながりました。

- ③ 毎月、虐待防止委員会を行い、支援の振り返り、予防策の徹底。

【達成】毎月、事例検討を含めた虐待防止委員会を行い、チェックリストも 1 回行って支援の振り返りを行ったことにより虐待防止に対する職員の意識も向上しました。

- ④ 利用者様の意見を聞き、働きやすく過ごしやすい事業所にするために毎月自治会開催。

【達成】毎月、自治会を行って利用者様に作業収益状況や活動予定等について伝えたり利用者様からの要望を事業所活動に反映したことにより、利用者様も活動しやすくなってきました。

- ⑤ 新型コロナウイルス感染防止対策の徹底により、利用者様が安心して事業所利用できるよう支援。

【達成】利用者様に対して出勤時、昼食前の検温、手指・机の消毒、作業室の換気、マスク着用の声掛けと確認等の基本的な感染対策を行うことにより、安心して事業所を利用していただけました。

- ⑥ 高齢者福祉部門の協力を得て、積極的な勉強会への参加。

【未達成】認知症サポーター養成講座への参加は全員でしたが、それ以外への取り組みはできませんでした。

- ⑦ 火災、水害、防犯等、非常事態に備えた訓練を計画的に実施し危機管理体制の強化。

【達成】火災避難訓練を 2 回、水害訓練を 1 回、防犯訓練を 1 回実施して避難について体験してきたことにより、自然災害などの危機管理体制について強化してきました。

2. 地域と共に

(1) 社会とのよりよい関係づくりを強化する取組み

- ① 事業所近隣の清掃奉仕活動を毎月 1 回実施し、町内行事にも積極的に参加。

【一部達成】利用者様 5～6 名の方が交代で事業所近辺のごみ拾いやバス停の清掃を行いました。が、新型コロナウイルス感染防止対策により活動ができない月もありました。また、町内行事案内はありませんでした。

- ② 事業所前にて集団登校をする子供さんに挨拶をして安全の見守り。

【達成】事業所玄関前の清掃をしながら、事業所近辺の子供さんが親御さんとともに登校する姿を見ながら「おはようございます」と挨拶をすることから始めました。

- ③ 利用者様と共に地域の公民館や、調剤薬局等に広報誌を配布し足羽福祉会の情報発信。

【一部達成】利用者様と共に広報誌を配布し挨拶を交わすことができた時もありましたが、時間調整ができず職員だけで配布する時もありました。

- ④ 事業所の取組みをホームページや「愛道」を活用して積極的な情報発信。

【達成】事業所内での取り組みや、旅行等について 毎月情報発信ができました。内容については、ホームページを見た方が楽しくなる内容になるよう努めました。

- ⑤ ランナー、ボランティア、地域等、関わる全ての人々がふれあいを感じることができる第 9 回足羽川ふれあいマラソンを安全配慮、柔軟な運営により開催。（実行委員として 3 名参加）

【未達成】新型コロナウイルス感染防止の観点から、足羽川ふれあいマラソンを延期としました。

(2) 地域のために法人資源を活用する取組み

- ① 生活困窮者支援における法人内連携および中間的就労の場の提供。

【未達成】生活困窮者支援における法人内の連携をする場を持つことができず、中間就労の場を提供する機会もありませんでした。

- ② 新型コロナウイルス感染防止対策の状況に応じた、ボランティア、実習、施設見学ニーズへの対応を行い、理解や支援者の輪を広げ、福祉人材育成に貢献。

【達成】ボランティア 0 名、実習 12 名、施設見学者 22 名の受け入れを行い、うち 1 名の方が次年度法人内に就職されました。

- ③ 足羽川ふれあいマラソンに実行委員として参加し、地域の方々と交流。

【未達成】新型コロナウイルス対策のため足羽川ふれあいマラソンが中止となったので、実行委員としての参加はできませんでした。

- ④ 法人内の障がい者福祉部門と連携し、「福井県自閉症支援者養成セミナー2021」の実施方法も含めて協力して開催。

【未達成】セミナー参加のための日程調整ができず、セミナーへの参加ができませんでした。

3. 職員と共に

(1) 目標を描き、共に成長する取組み

- ① (重点項目) 利用者様支援の充実を目指して、法人内研修、県内各研修への参加と関係機関とのケースカンファレンスの実施により職員のスキルアップを図る体制。

【達成】法人内の認知症サポーター養成講座への全員参加、他事業所の虐待防止研修への参加、県内研修にリモートで参加を行うことにより、職員のスキルアップにつながりました。

- ② 前年度スタートした新人事管理制度「あすわ ers」の理解を深め、ラダー、等級基準項目、バリュー項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取り組みとして進捗面談を月 1 回実施。

【達成】前期は月末に時間を設けて進捗について個別面談を行い、後期は日常的に上司から職員に声掛けを行って進捗面談を行ったことにより、職員の気持ちや相談事に対して早期に対応することができました。

- ③ 障がい者福祉部門全体で連携してのサービス管理責任者養成研修、強度行動障害者支援者養成研修等、制度上必要な研修への職員派遣および職員研修。

【達成】サービス管理責任者養成研修に 2 名受講し、専門的な学びを得ました。

- ④ 法人本部と連携し、障害者福祉の専門教育を効率的に行うための E ラーニングプログラム検討。各拠点での研修動画の活用。

【未達成】法人本部と連携する機会がなく、研修動画活用もありませんでした。

- ⑤ 自閉症 e サービス@ふくいの専門研修に参加し専門知識の取得。

【達成】1 名の職員が年間を通して関係する研修に参加し、支援会議で研修内容を共有することにより、職員のスキルアップにつながりました。

(2) 安心して働ける健康経営の取組み

- ① 計画的な有給休暇取得の推進、業務改善を行い、働きやすい職場づくり。

【達成】年間の有給休暇計画表を基に職員全員が有給休暇を 5 日以上取得し、プライベートの時間を有効に活用することで、リフレッシュして仕事に取り組むことができ、働きやすい職場作りになってきました。

- ② サービスの質の向上や業務のスリム化、効率化を目指して、職員が何でも話し合い、企画提案したことを実行できるよう推奨し、権限移譲や会議の持ち方を工夫。

【達成】業務の効率化を念頭に置きながら業務を行うことで、無駄も減ってきたため、残業時間も平均的には短かったです。また、日頃から利用者様や作業についてコミュニケーションを取りようとしているため、意見も言いやすく、一部の職員には作業に関する権限移譲をしました。

- ③ 社会保険労務士による巡回相談、相談体制の課題改善に取り組み職場環境の充実。

【達成】社会保険労務士の方の巡回訪問を受け、職場環境改善に生かし、働きやすい職場作りに生かすことができました。

(3) 共に働く人を呼び込む取組み

- ① プレインターンシップ制度の活用や大学等の実習を受け入れ、採用メディアツールの検討などを通して、障がい福祉のやりがいや法人のサービスや福利厚生などをアピール。

【達成】法人への就職を目指す方の実習受け入れを行い、障がい福祉のやりがいや法人のサービスについて説明してきたことにより次年度につながりました。

4. 実施プロセス

(1) 法人の価値を高める取組み

- ① (重点項目) 利用者様の平均工賃を 12,000 円 以上にするため、事業所内での施設外作業取組み利用者数の増加。

【未達成】新型コロナ感染対策により施設外就労先からの作業の依頼が予定より少なくて役務収入が伸びず、利用者様の平均工賃は 11,395 円でした。

- ② 「足羽福祉社会SDGs宣言」に沿って、2030 年を見据えての具体的行動計画の作成及び実践。

【未達成】「足羽福祉社会SDGs宣言」内容について年度末に法人から説明がありました。

- ③ 特別支援学校からの卒業後の進路の相談状況を確認しながら、ゆるやかな就労継続支援 B 型事業所としての特色の確立。

【達成】特別支援学校からの要望に対して、事業所としてできるだけ配慮したい思いを伝えたことにより、相談会以後、実習依頼が多くあり、今後の利用に繋がると予想されます。

- ④ 障がい者福祉部門での協議を通して、各拠点の活動が補完し合う「将来の障害福祉サービス事業」の検討。

【達成】障がい者福祉部門での協議を定期的に行い、将来の障害福祉サービス事業について検討を重ね、次年度からの案についても協議できました。

- ⑤ 法人職員として「認知症サポーター養成研修」を 2022 年度末までに全員が受講。

【達成】計画的に参加を行った結果、年度末までに全員が受講をすることができました。

(2) 透明性の高いガバナンスを追求する取組み

- ① 公認会計士事務所による監査の指摘事項のうち、優先順位が高いものから改善。

【達成】指摘事項がなかったため、今後も適切に取り組んでいきたいです。

(3) 外部評価や認証制度を活用する取組み

- ① 利用者様のご家族様に足羽サポートセンターの自己評価を年 1 回実施し、事業所活性化への取組み。

【達成】利用者様のご家族様に事業所の自己評価を行い、その結果を職員に周知し、事業所のサービス向上に努めました。

(4) 合理化と効率化を推進する取組み

- ① グループウェアを活用した電子決裁、ペーパーレスの実施に向けて、権限移譲、文書起案、供覧、保存等の具体的ルール作り。

【一部達成】グループウェアの活用を促進し、ペーパーレスについては、作業に関する企業からの指示書を両面コピーすること、ファックス送信時は古紙を利用することにより紙の使用削減に取り組みました。

5. 経営基盤の安定化

(1) 資金収支 10 カ年計画を達成する取組み

- ① 稼働率 120%/月を目標とし、安定運営。

【達成】年間平均稼働率は 125%であり、安定した運営ができました。

- ② 月次決算による経営状況の把握を行い、収入、支出の適正な見極め。

【達成】月次決算によって経営状況の確認を行いながら収支について見極めてきました。

- ③ 予算管理の徹底、支出削減とコスト意識の強化。

【達成】 予算管理を職員に周知したうえで購入検討をすることと、コスト意識を持つことを習慣化し、無駄な支出をしないようにしました。

<サービス利用実績>

事業	年間延べ利用者数			年間事業収入 (サービス)			年間事業収入 (就労支援)		
	当初目標 (人)	実 績 (人)	達成率 (%)	当初目標 (千円)	実 績 (千円)	達成率 (%)	当初目標 (千円)	実 績 (千円)	達成率 (%)
就労継続支援 B 型	9,953	10,099	101.5	73,861	77,361	104.7	6,108	5,287	86.6

令和 3 年度事業報告

パ ス テ ル

I. 実施事業

1. 自立訓練(生活訓練)

(定員 10 名)

2. 就労継続支援B型

(定員 10 名)

II. 第IV期中期事業計画における重点取組項目

1. 関係機関との調整や定期的訪問を積極的に実施・連携強化 (1 回以上/月)

【一部達成】関係機関を訪問・招待を 2 回以上/月実施。結果、利用者様ニーズを捉え 8 名の利用者様受入につながりました。

2. 訪問型自立訓練サービスを促進し、2～3 人の利用者様の増・支援強化

【達成】訪問型での利用者様を 4 名増とし、訪問から通所への移行プロセスも促進しました。

3. 地域ニーズを把握し福井市からの発達障がい相談支援事業の受託検討

【未達成】受託は受けられず。(次点候補)次年度より障がい福祉グループ内連携を図りながら新たなサービス展開(自立訓練、就労移行支援、就労定着支援の多機能支援)に計画を変更しました。

III. 事業推進計画

1. 利用者様と共に

(1) 夢や幸せを実現するために強みを生かす取組み

① (重点項目) 地域が求めているアウトリーチ型の訪問支援(生活支援、家族支援、在宅ワークなど)の実施

【一部達成】自立訓練で 3 名、B 型で 1 名の訪問支援を実施。生活支援や在宅ワークを行う事で利用者様の社会参加(通所開始や他事業所見学等)が実現できました。

② 1 名の利用者に対して訪問型自立訓練を実施し将来に向けたより具体的な就労に向けた支援計画(就労継続支援 B 型、一般就労等)を作成し、実施

【一部達成】自立訓練で 3 名の訪問支援を実施。1 名は訪問の結果、通所につながり、1 名は在宅支援で内職作業とコミュニケーション支援を実施できました。

③ 個性や強みに着目したストレングスの視点で、「その人らしさ・その人らしく生きる」(エンパワメント支援)を支える個別支援計画、チーム支援による支援の充実(事例研究としても実践)

【一部達成】ストレングスの視点で職員全員でグループスーパービジョン実施。個別支援計画等で利用者様の強みを活かした計画及び実践報告を行いました。

④ ○展 2021 やアールブリュット展への出品に向けた、創作活動の支援

【一部達成】○展には、2 名の利用者様が絵画を出展。アールブリュット展には出展できませんでした。

(2) 安心、尊厳を守る取組み

① 利用者様の継続的・安定的な通所に向けた環境調整、職員のスキルアップを目指し、外部講師を招いた研修を 1 回/2 ヶ月実施

【一部達成】コロナ禍もあり、外部講師の招待は、2 回/年のみでした。グループワークを通して安定通所とは何か、環境調整の大切さを学び、改善を行いました。

② 毎月 1 回虐待防止委員会を開催し、虐待防止チェックリストを年 2 回実施

【一部達成】虐待防止チェックリストはグループウェアを活用して毎月行いました。その改善策を話し合い・提案を適時行えない時がありました。

③ 新型コロナウイルス感染症防止対策の徹底により、利用者様が安心して事業所利用できるよう支援

【達成】手洗い、消毒、換気等の徹底を行い、利用者様の安心・安全な環境を整えた結果、通所率

も一昨年に比べ 2 割程度上がった。

- ④ 事業所運営におけるさまざまなリスク（事故、苦情、災害、感染症、不審者等）に適切に対応できるようマニュアルの整備および対応訓練の実施

【一部達成】マニュアル整備はできていますが、その対応訓練は一部のものに留まり、全てのもののへの徹底ができませんでした。

- ⑤ 事故防止委員会ではヒヤリハットや事故の分析を進め、職員間での情報共有を徹底し、予防的対策を強化

【達成】ヒヤリハット 9 件、事故 6 件発生しました。その分析を図ることで類似した事故やリスクは起きませんでした。

- ⑥ 接遇委員会を中心に年 1 回の接遇研修を行い、特にサービス業の基本となる笑顔と挨拶、適切な身だしなみの徹底を実施

【未達成】毎月の接遇チェックを行い、振り返りは実施したが、接遇研修が行えなかった。

- ⑦ 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の徹底により、利用者様が活動される環境を安全・快適に整える

【一部達成】利用者様の作業や訓練実施がしやすい環境調整と整理整頓等を行いました。しかし、その維持や意識に乏しく定期的維持・確認ができませんでした。

2. 地域と共に

(1) 社会とのよりよい関係づくりを強化する取組み

- ① 事業所の取組み（利用者様の笑顔や職員の想い等）をホームページや機関誌「愛道」を活用して積極的に情報発信

【一部達成】ホームページの施設便りは 2 回～3 回/月のペースで活動等をアップし情報発信しました。「愛道」の掲載・活用は行えませんでした。

- ② （重点項目）積極的に他事業所、特別支援学校等の教育機関、医療機関等を訪問して地域ニーズを聴取し反映・実行

【一部達成】相談支援専門員、他事業所、特別支援学校等を訪問・見学案内を行い、ニーズ聴取した結果、卒業生や新規利用者様の受入増につながりました。

- ③ 事業所近隣の奉仕活動を 1 回/月 実施し、季節ごとの町内清掃活動にも協力参加

【未達成】コロナ時期もあり、1 回/月が定期的に行なえず、散発な奉仕活動でした。

- ④ ランナー、ボランティア、地域等、関わる全ての人が、ふれあいを感じることができる第 9 回足羽川ふれあいマラソンを安全配慮、柔軟な運営により開催

【未達成】新型コロナウイルス感染防止の観点から、足羽川ふれあいマラソンを延期としました。

(2) 地域のために法人資源を活用する取組み

- ① 生活困窮者支援における法人内連携および中間的就労の場の提供

【未達成】利用者様に対しての生活困窮の生活資金申請 1 件行い、就労の場の提供等の受入はありませんでした。

- ② 新型コロナウイルス感染症防止対策の状況に応じた、ボランティア、実習、施設見学ニーズへの対応

【一部達成】ボランティアの受入は、希望日調整等はしましたが結果、コロナ蔓延化の時期と重なり受入はありませんでした。実習、施設見学は延べ 55 名の受入を行いました。

- ③ 法人内の障がい者福祉部門と連携し、「福井県自閉症支援者養成セミナー2021」の実施方法も含め検討し、開催に協力

【未達成】フォローアップ研修に受講職員 1 名。開催に関しての協力はできませんでした。

3. 職員と共に

(1) 目標を描き、共に成長する取組み

- ① 前年度スタートした新人事管理制度「あすわ ers」の理解を深め、ラダー、等級基準項目、

バリュー項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取組みの実施
【未達成】あすわ ers の浸透は図れていますが、日常的なコミュニケーションの場・時間の設定が定期的に行なえず、不定期な形のものしか行えませんでした。

② 障がい者福祉部門全体で連携してのサービス管理責任者養成研修、強度行動障害支援者養成研修、制度上必要な研修への職員派遣および職員研修

【一部達成】サビ管の更新研修には部門全体で把握・連携しながら派遣できました。

③ 法人本部と連携し、障がい者福祉の専門教育を効率的に行うための e-ラーニングプログラム検討。各拠点での研修動画の活用

【未達成】法人との連携が散発であり、プログラムや動画の活用が行うことができませんでした。

④ スタッフ会議の中で、「職員の働きやすさ」について話し合い、利用者様支援、環境改善・組織の体質改革を実施

【一部達成】スタッフ会議、職員会議、終礼等を活用し適時、話し合う・聴くということをするこ
とで環境改善、より良い支援へつながりました。

⑤ サービスの質向上（外部研修参加、専門講師による助言など）や業務のスリム化、効率化による新たなサービスの展開を職員全体で共有し前進

【一部達成】外部講師の助言や業務を見直すことで新たな支援プログラム（講座や余暇等）展開をすることで職員のモチベーション（責任感ややる気の向上）につながりました。

⑥ WEB や e ラーニングを通じて効率的な会議の実施や人材育成を計画的に行い、支援力の向上を目指す

【一部達成】自閉症の学習は、4 人が e ラーニングを通して人材育成をし、学習効果を現場の支援につなげました。WEB の会議は適時、使用し効率化ができました。

(2)安心して働ける健康経営の取組み

① 有給休暇、育児休暇および介護休暇の取得推進を積極的に実行

【達成】ほぼ全職員が計画的有給取得、看護休暇等が取得できました。

② ストレスチェックの実施や小規模多機能事業の利点を活かした意見交換など、職員が安心して働き続けることができるよう支援体制・職場環境の充実促進

【一部達成】ストレスチェックを実施しました。年度内に自己都合で 2 名が退職し、職場ストレス等の要因ではないが定期的なコミュニケーションの時間が取れていませんでした。

(3)共に働く人を呼び込む取組み

① プレインターンシップ制度の活用や高校・大学・専門学校等の実習受入、採用メディア、ツール等を通して、障がい福祉のやりがいや支援の専門性を重視した採用

【未達成】プレインターンシップの受入 1 名のみに留まり事業所アピールが弱かったです。

4. 実施プロセス

(1)法人の価値を高める取組み

① 障がい者福祉部門での協議を通して、各拠点の活動が補完し合う「将来の障害福祉サービス事業」の検討

【一部達成】連携会議、部門 GM 会議等で障がい福祉サービス事業の展開・展望の理念統一は図れました。

② 「足羽福祉会 SDGs 宣言」に沿って、2030 年を見据えての具体的行動計画の作成および実践

【未達成】各職員に SDGs の浸透が弱く、行動計画の作成・実践には至りませんでした。

③ 法人職員として「認知症サポーター養成研修」を 2022 年度末までに全員が受講

【達成】職員全員、養成研修受講しました。

④ 障がいグループ連携会議を通して地域ニーズの把握、関係機関からの発達障がいに関する相談状況等を確認しながら、受入増・新たな事業展開（委託作業等）を促進

【一部達成】受入増（新規利用者様 8 名増）は展開できましたが、新たな事業展開（特に就労、作業内容）とのリンクが弱く改善・修正が必要です。

⑤ （重点項目） 令和 3 年度年度の福井市障がい者相談支援体制の事業所再公募に向けて、

地域ニーズを受けられる実績（受入、事業促進等）の積み上げと受託検討

【未達成】福井市プレゼンには応募しましたが、力不足と事前の計画・準備が不十分で受託できませんでした。

(2)透明性の高いガバナンスを追求する取組み

① 公認会計士事務所による監査の指摘事項のうち優先順位の高いものから着実に実施

【一部達成】収支のバランスをとっていくため、利用者様増を行いながら支援費の拡充を図りました。

(3)外部評価や認証制度を活用する取組み

① 相談支援事業所、特別支援学校、他就労支援事業所、行政等からのニーズ確認や当事業所に求めるものを外部の目から伺う機会を持ち実施

【一部達成】外部機関の訪問・招待の実施で事業所が足りない部分やニーズの再確認を行いました。結果、利用者様増にはなりましたが、外部の評価機会は実施できませんでした。

(4)合理化と効率化を推進する取組み

① ICT 活用による業務改善として、グループウェアを活用した電子決裁、ペーパーレスの実施に向けて、権限移譲、文書起案、供覧、保存等の具体的ルール作り

【未達成】電子決裁、権限移譲が未決定であり、確実な業務改善(ICT 利用)は実施できませんでした。

5. 経営基盤の安定化

(1)資金収支10カ年計画を達成する取組み

① 自立訓練（生活訓練）事業 60%、就労継続支援 B 型事業 100%の稼働率の達成

【未達成】年度最終の稼働率(自立:63% B 型:91%)であった。稼働増にはなっているが月ごとの稼働にバラつきがあり平均化できず目標値にも足りませんでした。

② 予算管理徹底、支出削減とコスト意識を強化

【一部達成】経理と共に予算管理は着実に行いました。

③ 月次決算による経営状況の把握を行い、収入、支出の適正な見極めを定期的実施

【一部達成】繰入等に頼る部分が大きく、自事業所での収入改善も図りましたが、稼働率と共に修正の見極めが甘く達成できないところがありました。

<サービス利用実績>

事業	年間延べ利用者数			年間事業収入 (サービス)			年間事業収入 (就労支援)		
	当初目標 (人)	実 績 (人)	達成率 (%)	当初目標 (千円)	実 績 (千円)	達成率 (%)	当初目標 (千円)	実 績 (千円)	達成率 (%)
自立訓練 (生活訓練)	1,680	1,684	99.8	15,987	14,326	89.6	276	178	64.5
就労継続 支援 B 型	2,700	2,437	90.3	21,540	19,901	92.4	1,680	1,822	108.4
計	4,380	4,121	94.1	37,527	34,227	91.2	1,956	2,000	102.2

令和 3 年度年度事業報告

足 羽 更 生 園

I. 実施事業

- | | |
|---------------------------|-----------|
| 1. 障害者支援施設【入所支援事業・生活介護事業】 | (定員 60 名) |
| 2. 短期入所 | (定員 4 名) |
| 3. 日中一時支援 | (定員 5 名) |

II. 第IV期中期事業計画における重点取組項目

1. 個々にあった支援プログラムの PDCA とマニュアルの視覚情報化
【一部達成】支援プログラムに関しては、スモールステップによる目標を設定し、達成の見える化に取り組みました。マニュアルの視覚情報化に関しては、取り組み継続中です。
2. 重度障害者に特化した生活介護事業所開設検討・準備（他拠点連携）
【一部達成】カラフル拠点との協働にて候補地の選定を実施しました。併せて、障がい福祉分野にてその用地を活用した就労事業の展開について協議しています。
3. 地域向け広報紙の定期発行及び福祉避難所の在り方等地域との関係づくり強化
【一部達成】災害時対応や健康管理等に関する情報提供を年 3 回実施しました。福祉避難所に関する地域自治体との協議に関しては、コロナ禍の感染防止等に基づき未実施となりました。

III. 事業推進計画

1. 利用者様と共に

(1) 夢や幸せを実現するための取り組み

- ① (重点項目) 利用者一人ひとりのストレングス（強み、力、良さ）に視点をおき、個々の実現可能な個別支援計画や記録様式見直しによる「成長が視える化」の実施
【一部達成】スモールステップを意識し、ストレングスを視点においた個別支援計画作成に努めました。また、記録様式の見直しについては検討を重ね 3 月に完成し、R4 年度より活用開始します。
- ② コロナ禍における「新しい生活様式」に基づいた支援と、生活スキルを意識した支援プログラムの実施
【達成】マスク着用と手洗いに視点をおき、利用者様個々の状況に応じた支援を実施しました。集団力等の効力により、当初拒否していた利用者様も不完全とは言えますが、マスク、手洗いの認識をされ徐々にではありますが習慣化されてきています。
- ③ 自治会等を通して、コロナ禍であっても出来る楽しみ探しを行い、利用者様が楽しめる余暇活動の立案・実施
【一部達成】自治会の開催は年間 3 回実施しました。ユニット活動及び日中活動内において、自己選択の練習機会を常に設けることで、利用者様の楽しめる活動を実施しました。
- ④ 健康維持を図る為のウォーキングや軽運動、口腔ケア等の実施
【達成】日課にラジオ体操や歩行の時間を位置づけ、健康維持が図れるよう支援しました。口腔ケアについては、歯科医師のアドバイスを集約して職員への情報周知を図り、日々の支援において口腔衛生に取り組みました。
- ⑤ ユニット毎に、1 事例を事例研究として掲げチームで取り組む事での支援力向上を推進すると共に、サービス実践報告会やその他の専門部会において発表の実施
【達成】各ユニット、日中活動で事例を挙げチームでの事例研究（5 事例）を実施しました。また、サービス実践報告等発表としての機会はなかったが、取り組んだ内容については、「思い」にて掲載しました（1 事例）。

(2) 安心・尊厳を守るサービス

- ① (重点項目)「成長が視える化」をもとに「〇〇さんだより」を個別に作成・発行し、コロナ禍における家族の「不安を安心に繋げる」取り組みの実施

【達成】毎月家族向けに「〇〇さんだより」を発行しました。コロナ禍で利用者様への面会や帰省等の自粛をお願いする中、文面や写真から利用者様の日々の様子を知っていただく機会ともなり、ご家族からも好評を頂きました。

- ② 当法人「新型コロナウイルス対策事業持続計画（BCP）」に基づくマニュアルの改訂をはじめとする感染症対策の取り組み強化

【達成】法人のBCP 変更に伴う園内マニュアルを更新しました。また、7～9 月にかけ全職員対象の PPE（個人防護具）脱着手技確認実施。その中で挙げた課題を基に PPE 脱着方法の見直しを行い、改訂版の動画を作成し全職員に対して周知を図りました。

- ③ 虐待防止委員会を毎月開催し、職員個々の業務の振り返りを行い、権利擁護に基づいた支援の充実及び予防策の徹底

【達成】虐待防止委員会を毎月実施しました。全職員へのアンケート（「支援の振り返りシート」）を基に支援課題を明確化し、PDCA を図りながら利用者様の権利が損なわれないように支援の充実、予防策の徹底に取り組みしました。

- ④ ヒヤリハット、事故報告の分析を深め、対応方法について職員会議や事務連絡での情報共有、統一した支援の実施

【達成】ヒヤリハット 42 件、事故報告 77 件があり、リスクマネジメント委員会（毎月）にて要因分析、改善策を検討しました。また、その結果を遅滞なく職員に対して情報周知を図りました（引き継ぎ簿やファイルメーカー、グループウェアを活用）。

- ⑤ 「笑顔での対応」「自分だったらどう対応して欲しいか」という視点においた接遇力の向上の推進

【達成】接遇委員会で園内での課題を検討し、職員会議や朝礼の際に接遇ワンポイントレッスンを実施しました。また接遇目標を掲げ、朝礼や各部署に掲示することを継続して取り組み職員への意識の醸成を図りました。

- ⑥ 高齢化（看取りを含む）を見据えた職員の支援力の向上を図るため、高齢福祉部門や他拠点との連携した勉強会への参画

【一部達成】高齢化委員会での利用者様の身体機能の変化に伴う支援対する課題抽出を行いました。その対応に関しての園内での検討を実施するも、高齢福祉分野、他拠点と連携した勉強会への参画には至りませんでした。

- ⑦ 利用者様が安心して医療行為を受けるための事前準備と医療機関との連携

【達成】利用者様の体調変化に伴う家族、医療機関を交えたケースカンファ（1 件）を実施しました。また、健康診断に先立ち、検査が苦手な利用者様 10 名に対し事前学習を実施することで、R2 年度出来なかった検査に 2 名の方の受検が可能となりました。

- ⑧ 食に関する嗜好や個々のニーズに反映された安心・安全で楽しい食事の提供

【達成】利用者様からのリクエストメニューを毎月 2 回献立に反映しました。また、栄養マネジメント計画にそった食事形態に基づき、その都度提供を実施しました。

- ⑨ 成年後見人制度利用についての説明やアドバイスを行うと共に、手続支援の実施

【達成】成年後見人申請が必要な 3 名の方の申し立てを相談員の協力も得ながら実施しました。うち、2 名の方の後見人が選任され、1 名については申請後の審査待ちです。

- ⑩ トヨタ式片付け術の実践による安心・安全かつ快適な環境づくり（毎月 1 回）

【一部達成】部署ごとに「5S の日」を設定し環境改善づくりに取り組みました。また、11 月の職員会議で取り組み報告会を開催し、全体周知を図りました。各現場でも取り組みに差異が生じない様に PDCA のもと継続取り組みを実践します。

- ⑪ 火災・地震・土砂・防犯等の非常事態に備えた訓練を計画的に実施し、危機管理体制の強化と意識の醸成（毎月）

【達成】危機管理委員会（毎月）にて作成した年間計画に基づき訓練を実施しました。訓練を通じて課題等の抽出を行うと共に随時マニュアルの更新を図りました。

⑫ 新型コロナウイルス感染拡大阻止を図る為、クラスター発生想定訓練（年1回）の実施
【達成】11/18に学園内でのクラスター発生を想定し、両園でのバックアップ体制の確認やユニットのゾーニング等の訓練を実施しました。また、12/8に監督職を対象に発生時の情報集約等初動訓練を行いました。

2. 地域と共に

（1）社会とのより良い関係づくりを強化する取り組み

① ブログの定期更新（2回/月）・ミニミニ新聞（3回/年）の情報発信

【達成】ブログは28件更新（目標値116%）し、園での取り組みを発信しました。また、ミニミニ新聞年3回の発行を行い、地域の皆様に災害時対応や健康管理等に関する情報提供を実施しました。

② 地元自治会（宿布・前波）との福祉避難所の在り方等地域との関係づくり強化にむけた協議開催（年2回）

【未実施】コロナ禍という事で会議設定ができず、実施に至りませんでした。

③ 障がい福祉部門、児童福祉部門の協力のもと、第3回目となる「〇展～えんてん 2021～」開催（令和3年12月22日～26日 福井市美術館にて開催）

【達成】令和3年12月22～26日に福井市美術館にて開催しました。総来場者数500名を超え、大盛況で終えることができました。来場者の皆様より、多くの激励のコメントを頂きました。

④ 新型コロナウイルス発生状況の状況を鑑みながら可能な限り、施設見学者、実習生等を受け入れ社会福祉に携わる人材育成に協力すると共に、法人の理念を広げる機会の提供

【達成】見学者5名、ボランティア3名、実習生3名、職場体験3名の受け入れを実施。その内、3名の方が法人内採用に繋がりました。

⑤ ランナー、ボランティア、地域等、関わる全ての人がふれあいを感じることができる第9回足羽川ふれあいマラソンを安全配慮、柔軟な運営により開催

【未達成】新型コロナウイルス感染防止の観点から、足羽川ふれあいマラソンを延期としました。

（2）地域のために法人資源を活用する取り組み

① 生活困窮者支援における法人内連携および中間的就労の場の提供

【達成】学園での受け入れに伴い就業業務の提供を図ると共に、アシスタントマネージャーを中心にサポートを実施しました。

② コロナ禍における地元の学校との交流（出前講座含む）方法の検討、実施

【達成】9/21に羽生小学校3・4年生を対象に実施しました。当初はコロナ禍を鑑みWeb方式での実施も試みましたが、回線がうまくつながらず再調整のうえ、出前授業の形に変更して実施となりました。

③ 東部地区児童・民生委員の見学（web）等を活用した地域ニーズの情報収集

【未実施】コロナ禍の折、実施に至りませんでした。

④ 新型コロナウイルス感染防止対策の状況に応じた、ボランティア、実習、施設見学ニーズへの対応

【達成】見学者5名、ボランティア3名、実習生3名、職場体験3名の受け入れを実施しました。

⑤ 障がい者福祉部門の協力のもと、「福井県自閉症支援者養成セミナー2021」及び「フォローアップセミナー」の開催

【一部達成】セミナーについては、新型コロナウイルス感染症予防の観点から今年度も開催を見送りとしました。フォローアップセミナーについては、12/2にオンラインにて実施しました。他法人からの参加者を含め10名の方が参加されました。

3. 職員と共に

（1）目標を描き共に成長する取り組み

① 前年度スタートした新人事管理制度「あすわ ers」の理解を深め、ラダー、等級基準項目、バリュ

一項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取り組みの実施

【一部達成】「あすわ ers」の理解を深めるための伝達及び周知を図りました。しかし、目標である日常的な上司部下のコミュニケーションについては一部の職員に限られました。

- ② 各部署での支援技術動画を1事例作成し、支援の共有を図ると共に、法人本部と連携し、障害者福祉の専門教育を効率的に行うためのe-ラーニングプログラム検討。各拠点での研修動画の活用

【達成】支援技術動画2事例を作成しました。eラーニング導入については検討を行い、9月より導入しました。また、導入にあたり障がい福祉部門各拠点にも情報提供を行いました。

- ③ SV（スーパーバイザー）研修を通して、PDCA サイクルで取り組み、職員間で情報を共有化し、利用者様の成長と共に職員の支援力の向上

【達成】年間11回のSV研修を実施しました。研修後、ユニット会議等を通じて情報共有を図り、PDCA サイクルで取り組みました。本取り組みを通じて、利用者様特性の理解の深まりと、1つ1つの取り組みを丁寧に行う事の重要性を学ぶ機会となりました。

- ④ 障がい福祉部門全体で連携して、サービス管理責任者養成研修、強度行動障害者支援者養成研修等、制度上必要な研修への事業運営に必要な研修への職員派遣及び職員研修

【達成】サービス管理責任者研修1名（基礎）・2名（更新）、強度行動障害者支援者養成研修3名（基礎）・1名（実践）を派遣しました。また、その他外部研修にも4名派遣しました。

（2）安心して働ける健康経営の取り組み

- ① 職員が十分にリフレッシュを図り、モチベーションアップにつながるよう、公休も含めた連続休暇（3連休）を達成しつつ次の4連休取得（全体の25%）の計画的付与促進

【一部達成】3連休取得75%に留まりましたが、4連休取得については60%の付与となりました。

- ② グットネスやにこりホット、言葉の花束を通して、仕事に誇りを持ち意欲的に取り組める企画の実施（毎月）

【達成】職員会議にて「言葉の花束」を実施し、集まったカードを年度末に職員個々へ手渡ししました。この活動を通じて、「他者への気づき」「自己への気づき」につながられました。

- ③ 安全衛生委員会にて、職員のメンタルヘルス状況や各部署における環境衛生パトロールについて確認し対応を図る（毎月）

【達成】毎月の委員会にてメンタル面、労働環境面等の状況を確認しながら改善対応に取り組みました。また、メンタルヘルス職場復帰プログラム（対象者1名）及び就労課題のある職員（1名）について面談を定期的に行いながら、フォローを実施しました。

- ④ 中途採用職員や派遣職員の資質向上のための研修会開催（年3回）

【一部達成】採用になった派遣職員1名が園内新任職員研修に参加しました。

（3）共に働く人を呼び込む取り組み

- ① 法人と連携して実習生やインターシップを受け入れ、施設が果たす役割や必要性、福祉の仕事の楽しさをPRし福祉人材の確保

【達成】社会福祉士実習3名、パート希望見学1名受け入れを実施しました。

- ② 地元を中心に「ちょこっと就労」を機関紙及びホームページ等でPRし、支援を補助する人材の確保

【未達成】ハローワークやミニミニ新聞にて求人募集の広報活動を実施しました。しかし、人材確保には至りませんでした。

4. 実施プロセス

（1）法人の価値を高める取り組み

- ① （重点項目） 重度障がい者等の受け入れを目指し、新たな生活介護事業所の立上げについてスマイルと協働で準備、実施

【達成】「スマイル」との協働取り組みにおいて候補地の絞り込みを行いました。また、活用に関しては、障がい福祉部門における長期ビジョンを見据え協議を継続実施中です。

- ② カンタケ栽培については官公庁との連携を保持しつつ、障がい部門内での新たな生産事

業を視野に入れた共同商品化に向けた検討、立案

【一部達成】県総合グリーンセンター、福井市農林水産部との連携を維持しつつ、障がい福祉部門における就労継続支援B型事業の作業科目として引き継ぐこととなりました。R4年度においては、サポートする形で参画します。

③「足羽福祉会 SDGs 宣言」に沿って、2030 年を見据えての具体的行動計画の作成及び実践

【未実施】足羽福祉会 SDGs 宣言に向けての準備が進められ、令和4年4月宣言となった為、拠点での具体的行動計画等は未実施となりました。

④ 法人職員として「認知症サポーター養成研修」を2022年度末までに全員が受講（今年度30名受講）

【一部達成】今年度28名が受講（昨年度と通算して60%の受講完了）しました。R4年度残りの職員に対し計画的に受講推進を図ります。

⑤ 障がい者福祉部門での協議を通して、各拠点の活動が補完しあう「将来の障害福祉サービス事業」の検討

【達成】障がい福祉部門 GM 会議にて、今後の事業展開の在り方や現行事業の見直しなどを検討しました。2030 年に向けて R4 年度以降も継続協議を実施予定です。

（2）透明性の高いガバナンスを追求する取り組み

① 外部委員（弁護士、家族代表、成年後見人）を招聘した虐待防止外部委員会を開催（年2回）し、外部の意見を伺いながらサービスの「見える化」の促進

【達成】7/8・3/24 に外部委員を招いた委員会を開催しました。7/8 の委員会には、法人内他拠点からも、5名の職員が参加され、多角的にいろんな意見を伺う機会となりました。

② 法人全体で取り組むグループウェアシステムの実用化に向けた決裁権限のルール作りと WEB 決裁等導入への積極的な参画

【未実施】具体的な取り組みに至りませんでした。

（3）外部評価や認証制度を活用する取り組み

① 福祉サービス第三者評価の受審結果の改善取り組みを継続し、サービスの標準化・質の向上（検証：年2回）

【一部達成】受審結果にて指摘を受けた改善点においては日々の支援等の中で取り組みを実施しました。尚、サービスの標準化・質の向上に対する検証（自己評価）は未実施となりました。

② 調理システム「クックチル」を最大限活用した、安全かつスムーズな食事の提供に努め、HACCP 申請に必要な手続きを他拠点との連携

【達成】他拠点と連携を図りながら外部講師を依頼して「クックチル」システム活用の習得を図りました。「HACCP」申請については、制度的には特別な申請の必要なしとの事でした。

（4）合理化と効率化を推進する取り組み

① 法人監事による管理職対象の財務会計勉強会の開催（年6回）

【未実施】法人本部との擦り合わせにより、管理職研修にて実施予定される事となり、独自の勉強会は未実施としました。

② グループウェアを活用した電子決裁、ペーパーレスの実施に向けて、権限移譲、文書起案、供覧、保存等の具体的ルール作り

【一部達成】グループウェアの活用に向けた権限の移譲や文書起案等の検討を一部行いました。実務使用する中で、職員間の情報共有や連絡事項等についてかかるペーパー削減と時間短縮に関して徐々に取り組んでいます。

5. 経営基盤の安定化

（1）資金収支 10 か年を達成する取り組み

① 事業計画の進捗状況の確認と修正を定期的に遂行し、月次決算による予算管理の徹底(毎月)

【達成】事業計画に基づく進捗状況を運営会議等で確認修正を行うと共に、レビューや月次

決算を踏まえて収支バランスを確認しながら運営を計画的に実施しました。毎月の月次決裁にて、科目ごとの達成率や科目ごとの実績と予測差異を確認しました。

② 会計監査人による会計指導に基づき適正な財務管理

【達成】会計監査人の定期監査を受け、指摘された内容等について適正に対応を図り、財務管理を行いました。

③ 新報酬単価に基づく職員配置や各種加算の算定を行い、制度設計に沿った事業経営の推進及び遅滞ない建築借入金の返済（長期19,920千円）

【達成】職員配置に基づく報酬単価や加算に関して適切に申請を実施しました。また、返済金についても遅滞なく実施できました。

④ 新規生活介護事業所開設に向けた建設積立金 7,000 千円醸成

【未達成】法人全体の資金繰りを重視し、他拠点への繰入金を実施したため、積立金の醸成は未実施となりました。

⑤ 今年度事業活動資金収支差額 50,000 千円の達成

【達成】目標予定額を達成しました。

<サービス利用実績>

事業	年間延べ利用者数			年間事業収入 (サービス)		
	当初目標 (人)	実 績 (人)	達成率 (%)	当初目標 (千円)	実 績 (千円)	達成率 (%)
入所事業	21,300	21,792	102.3	122,546	123,627	100.9
生活介護事業	18,886	18,828	99.7	239,011	239,582	100.2
短期入所事業	226	236	104.4	1,881	2,039	108.4
日中一時事業	80	116	145.0	667	903	135.4
計	40,492	40,972	101.2	364,105	366,151	100.6

令和 3 年度事業報告

あすわ相談支援事業所リアン

I. 実施事業

1. 計画相談支援事業
2. 障害児相談支援事業
3. 地域相談支援(地域移行・地域定着)事業

II. 第IV期中期事業計画における重点取組項目

1. 質の高い相談支援によりすべてのニーズに対応することで本人の夢や希望の実現
【達成】利用者様のニーズに対して、関係機関と連携しながら対応することができました。次年度も引き続き、利用者様の夢や希望を丁寧に聞き取り、全障がい者の方の夢や希望が実現できるよう取り組みます。
2. 新規ニーズに応えながら、事業継続が可能な職員体制整備
【達成】新規の相談件数は、計画相談 11 名、障害児相談 20 名を受け、職員を 1 名増員した体制で事業を行いました。次年度も引き続き、新規ニーズに丁寧に取り組んで事業を継続していきます。

III. 事業推進計画

1. 利用者様と共に
 - (1) 夢や幸せを実現するために強みを生かす取り組み
 - ① (重点項目) 利用者様の夢や希望の実現や権利擁護の視点に立って、年間 1,200 件以上の計画作成、モニタリング、更新を維持。
【一部達成】利用者様の夢や希望の実現に対して精一杯支援させていただきましたが、計画作成、モニタリング件数は 1,151 件でした。
 - ② チーム支援による支援の充実、事例検討。
【達成】利用者様の困難な相談については、事業所全体で検討し、よりよい支援提供ができるよう取り組みました。
 - (2) 安心、尊厳を守る取り組み
 - ① 利用者様が入所施設や長期入院などから地域移行した後も、定期的な訪問などにより安心して生活できるような支援体制の整備。
【一部達成】病院からの地域移行 1 名に取り組みましたが、症状悪化のため、中断となりました。地域定着 3 名は継続して取り組んでいます。
 - ② 接遇委員を中心に年 2 回の接遇研修を行い、笑顔、挨拶、身だしなみ、言葉使いの徹底
【達成】接遇委員を中心に接遇研修を 2 回行い、振り返りを行うことができ、更なる接遇向上の意識を高めることができました。
 - ③ 利用者様の意見(希望や不服等)が出やすい環境を整えることによる意思決定支援の充実
【一部達成】利用者様の意見が出やすい環境にすることはできましたが、意思決定支援の充実を図ることは不十分でした。
 - ④ 虐待防止委員会開催による支援の振り返り、予防策の徹底。
【未達成】虐待防止委員会を行うことができませんでした。
 - ⑤ 新型コロナウイルス感染防止対策の徹底により、利用者様が安心して事業所利用できるよう支援。
【達成】職員全員が感染防止対策の意識を高く持ち、関係機関や利用者様宅等に訪問させて

いただくことにより安心していただけました。

⑥ 火災、水害、防犯等、非常事態に備えた訓練を計画的に実施し、危機管理体制の強化。

【達成】足羽サポートセンターと合同で火災、水害、防犯訓練に参加し、危機管理に対する意識を高く持つことができました。

2. 地域と共に

(1) 社会とのよりよい関係作りを強化する取組み

① 災害時における在宅者の安否確認を、職員が適切に行えるよう福井大東包括支援センターに相談し体制強化。

【未達成】福井大東包括支援センターに相談することができませんでした。

② 福井市に対して障害福祉サービスや課題に対する積極的な意見提言。

【達成】福井市相談支援事業者連絡会に参加して意見提言を行いました。

③ 事業所の取組みをホームページや「愛道」の配布を活用して積極的に発信。

【一部達成】ホームページでの事業所紹介は年に1回行い、愛道配布は関係機に訪問した時に配布させていただきました。

④ ランナー、ボランティア、地域等、関わる全ての人々がふれあいを感じることができる第9回足羽川ふれあいマラソンを安全配慮、柔軟な運営により開催。

【未達成】新型コロナウイルス感染防止の観点から、足羽川ふれあいマラソンを延期としました。

(2) 地域のために法人資源を活用する取組み

① 生活困窮者支援における法人内連携および中間的就労の場の提供。

【未達成】生活困窮者支援についての話し合いができず、事業所として関わるケースがありませんでした。

② 新型コロナウイルス感染防止対策の状況に応じた、ボランティア、実習、施設見学ニーズへの対応を行い、理解や支援の輪を広げ、福祉人材育成に貢献。

【達成】大学関係の実習生2名を受け入れ、専門分野について学んでいただき、福祉人材育成に貢献できました。

③ 法人内の障がい者福祉部門と連携し、「福井県自閉症支援者養成セミナー2021」の実施方法も含めて協力して開催。

【未達成】「福井県自閉症支援者養成セミナー」への参加、協力ができませんでした。

3. 職員と共に

(1) 目標を描き、共に成長する取組み

① (重点項目) 専門性向上に対する職員の学習意欲を尊重し、外部専門研修への積極的な参加。

【達成】研修、会議の案内を全職員に周知して参加者を募り、希望者に参加してもらうことで、参加意欲も高まっていました。

② 前年度スタートした新人事管理制度「あすわ ers」の理解を深め、ラダー、等級基準項目、バリュー項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取り組みとして進捗面談を月1回実施。

【一部達成】定期的に時間を設けての面談は行えませんでした。日々の業務の中で進捗状況について確認を行いました。

③ 法人内の高齢者福祉部門との合同会議を通して、高齢障がい者支援の連携強化。

【未達成】法人内の高齢者福祉部門と合同会議を行うことができませんでした。

④ (重点項目) 法人内障害者福祉部門全体で相談支援専門員養成を計画的に育成。

【未達成】障がい者福祉部門の連携会議で相談支援専門員養成の計画的な育成について要望を出しましたが、具体的な取り組みには繋げませんでした。

⑤ 障がい者福祉部門全体で連携してのサービス管理責任者養成研修、強度行動障害者支援者養成研修等、制度上必要な研修への職員派遣および職員研修。

【達成】サービス管理責任者養成研修を2名受講し、強度行動障害者支援者養成研修を1名し、専門性を高めることができました。

⑥ 法人本部と連携し、障害者福祉の専門教育を効率的に行うためのEラーニングプログラム検討。各拠点での研修動画の活用。

【未達成】法人本部と連携して取り組むことができませんでした。

(2) 安心して働ける健康経営の取組み

① サービスの質の向上や業務のスリム化、効率化を目指し、職員が何でも話し合い、企画提案したことを実行できるよう推奨し、権限移譲や会議の持ち方を工夫。

【達成】サービスの質向上を目指し積極的に研修や会議に参加してスキル向上を目指し、職員間で情報の共有も十分図り会議も効率的にできました。

② 計画的な有給休暇取得の推進を図り、職員全員の7日間連続休暇取得を行い、業務改善を通して働きやすい職場づくり。

【一部達成】計画的な有給推進を図ることができましたが、職員全員が7日間の連続休暇は取れませんでした。

(3) 共に働く人を呼び込む取組み

① 関連団体における事例発表の積極的な発信により、事業所の強みを伝え外部からの信頼獲得。

【未達成】関連団体で事例発表の機会はありませんでした。

4. 実施プロセス

(1) 法人の価値を高める取組み

① 「足羽福祉会SDGs宣言」に沿って、2030年を見据えての具体的行動計画の作成及び実践。

【未達成】足羽福祉会SDGs宣言内容について法人から説明がありました。

② 地域のニーズ、サービス提供状況等を法人内に発信し法人の事業運営に貢献。

【達成】障がい者福祉部門の連携会議で、地域のニーズや他法人事業所の運営状況について随時発信してきました。

③ 障がい者福祉部門での協議を通して、各拠点の活動が補完し合う「将来の障害福祉サービス事業」の検討。

【達成】障がい者福祉部門での協議を定期的に行い、将来の障害福祉サービスについて検討を重ね、次年度からの案について検討できました。

④ 法人職員として「認知症サポーター養成研修」を2022年度末までに全員が受講。

【達成】職員全員が今年度中に受講し認知症に関する知識を得ることができました。

(2) 透明性の高いガバナンスを追求する取組み

① 公認会計士事務所による監査指摘事項のうち、優先順位が高いものから改善。

【達成】監査で指摘されたことに対してはすぐに適正して改善しました。

(3) 外部評価や認証制度を活用する取組み

① 利用者様のご家族様向けにあすわ相談支援事業所リアンの自己評価を年1回実施。

【達成】職員全員で自己評価方法について検討したうえで計画的に実施し、評価結果もまとめました。

(4) 合理化と効率化を推進する取組み

① グループウェアを活用した電子決裁、ペーパーレスの実施に向けて、権限移譲、文書起案、供覧、保存等の具体的ルール作り。

【一部達成】グループウェアの活用を促進し、ペーパーレスについても事業所で取り組んでいました。

5. 経営基盤の安定化

(1) 資金収支10ヶ年計画を達成する取組み

① 法人内他拠点からの繰り入れについて、資金繰り表をもとに資金管理を徹底。

【達成】他拠点からの繰り入れ金も資金とし、予算内での管理運営ができました。

② 月次決算による経営状況の進捗管理を適切に行いながら、適切な財務管理を維持。

【達成】監査を受けて、適切な進捗管理ができました。

<サービス利用実績>

事業	年間延べ利用者数			年間事業収入 (サービス)		
	当初目標 (人)	実 績 (人)	達成率 (%)	当初目標 (千円)	実 績 (千円)	達成率 (%)
計画相談 支援事業	850	893	105	17,537	17,332	98.8
障害児相談支援事業	250	258	103	5,843	5,515	94.4
地域移行・定着支援事業	24	37	154	543	220	40.5
計	1,124	1,188	120.7	23,923	23,068	77.9

令和3年度事業報告

あすわ地域生活支援センター

あすわ第1／あすわ第2／あすわ第3

I. 実施事業

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1. 共同生活援助事業（グループホーム） | 3 事業所(定員 138 名) |
| 2. 短期入所事業 | 2 事業所(定員 6 名) |

II. 第IV期中期事業計画における重点取り組み項目

- 展 2021 の開催に向けての作品づくり
【達成】市立美術館にて 12 月 22～26 日開催。18 名利用者様 56 作品を出展しました。
- 医療機関との連携と健康維持
【継続】クーポン検診、健康診断を実施し病気の早期発見と治療に取り組みました。
- たんぽぽの少人数化とひまわりの老朽化対策検討
【達成】たんぽぽ A(6 名定員)・たんぽぽ B(4 名定員)を新築し少人数化を行いました。
ひまわりの老朽化対策は大家と検討をしました。

III. 事業推進計画

1. 利用者様と共に

(1) 夢や幸せを実現するための取組み

- 展 2021 やアールブリュット展への出品に向けた、創作活動の支援。【※重点項目】
【達成】12 月 22～26 日市立美術館にて○展開催。18 名利用者様 56 作品を出展し、利用者様も多数鑑賞に出かけました。
- 支援計画策定会議やケース会議では本人中心の視点を徹底し、チームで取り組む。
【達成】サビ管を中心に策定会議を実施しました。
- 利用者様と共に家庭的な食事・おやつ作り月 2 回以上実施。
【達成】季節感を取り入れ工夫して実施しました。
- 自立への意向調査を行い、自立生活（男性 1 名、女性 1 名）を支援。
【未達成】個別に支援したが自立には至りませんでした。
- 自治会と、いいところ探しのための「ほめ言葉のシャワー」の取組みを定期的実施。(月 1 回)
【達成】グループホーム毎に実施しました。

(2) 安心、尊厳を守る取組み

- クーポン検診活用及び健康診断結果を踏まえ、早期発見早期治療を医療機関と連携し実施。健康を維持する活動推進。誤薬ゼロを目標として、投薬支援の研修実施。【※重点項目】
【一部達成】医務、医療機関と協力・連携し利用者様のクーポン検診、健康診断を実施し病気の早期発見、治療に取り組みました。誤薬ゼロを目指しての支援者研修を 12 月に実施しました。誤薬が 1 件ありました。
- 地域で安心して生活を送るための勉強会（交通安全・ネットスマホ被害・権利侵害・感染予防）を開催。(年 4 回)
【未達成】コロナのため集合研修はできませんでしたが、必要に応じて個別で勉強会を実施しました。
- 虐待防止委員会、職員会議での虐待研修毎月開催による支援の振り返り、予防策の徹底。
【達成】毎月虐待防止委員会で検討し、職員会議ではグループワークを実施し、振り返りを行いました。
- 新型コロナウイルス感染防止対策の徹底により、利用者様が安心して事業所利用できる

よう支援。

【達成】 福祉会の感染防止対策に従い対応し、家族等にも理解を求めました。

⑤ 女性グループホームに防犯カメラの設置。(4ヶ所)

【達成】 さくら、ひまわり、なごみ、はるかに設置しました。

⑥ 成年後見制度の活用促進。(5件以上)

【達成】 4名の方に保佐人が付きました。

⑦ アフターフォロー体制(関係機関把握など)を整備。

【未達成】 体制を整備することはできませんでした。

⑧ 年2回の火災避難訓練のほか水害、地震、不審者対応訓練の実施。および防災の日(9/1)に非常食、備蓄品を使つての防災体験実施。

【一部達成】 火災避難訓練は2回実施、水害訓練も1回実施しましたが不審者対応訓練はできませんでした。防災体験については一部実施しました。

2. 地域と共に

(1) 社会とのよりよい関係作りを強化する取組み

① 足羽川ふれあいマラソンの開催

ランナー、ボランティア、地域等、関わる全ての人々がふれあいを感じることができる第9回足羽川ふれあいマラソンを安全配慮、柔軟な運営により開催。

【未達成】 新型コロナウイルス感染防止の観点から、足羽川ふれあいマラソンを延期としました

② 「新しい生活様式」を学びながら、地区の住民として清掃活動、除雪等に協力し、地域の社会資源を安全に利用できるように支援。

【達成】 地区の清掃に参加しました。一部のグループホームでは近隣と協力して除雪しました。

(2) 地域の為に法人資源を活用する取組み

① 生活困窮者支援の取組み

生活困窮者支援における法人内連携および中間的就労の場の提供。

【未実施】

② ボランティア等受入れ

新型コロナウイルス感染防止対策の状況に応じた、ボランティア、実習、施設見学ニーズへの対応。

【未実施】

③ 在宅生活の継続に向けてケース会議に参加し、積極的な短期入所受け入れ実施。新たなぽぽにおいて、短期入所事業所(2名)を開始。

【達成】 相談に応じて新規受け入れをしました。

④ 法人内の障がい者福祉部門と連携し、「福井県自閉症支援者養成セミナー2021」の実施方法も含め検討し、開催に協力。

【未実施】

3. 職員と共に

(1) 目標を描き、ともに成長する取組み

① 障がい者福祉部門全体で連携してのサービス管理責任者養成研修、強度行動障害者支援者養成研修等、制度上必要な研修への職員派遣及び職員研修

【達成】 サビ管更新研修3名、強行研(基礎)4名(実践)1名が受講しました。

② 法人本部と連携し、障がい者福祉の専門教育を効率的に行うためのE-ランニングプログラム検討。各拠点での研修動画活用。

【未達成】 自閉症e-サービス2名受講や虐待防止研修動画の視聴を推奨しました。

③ 支援者研修を年5回(接遇、権利擁護、感染症対策、リスマネ、意思決定支援)実施。

【達成】 7/29 意思決定支援, 8/26 接遇倫理, 9/7 認知症、12/10 感染、3/8 リスマネを実施しました。

- ④ 処遇困難事例のスーパーバイズ研修受講。中間報告、年度末報告を職員会議で行い支援力向上を図る。

【達成】SV研修を受講し、会議等で報告しました。

- ⑤ あすわ ers 定着への取り組み

前年度スタートした新人事管理制度『あすわ ers』の理解を深め、ラダー、等級、基準項目、バリュー項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取り組みの実施。

【一部達成】あすわ ers の理解を深めることはできましたが、上司部下のコミュニケーションは不十分でした。

(2) 安心して働ける健康経営の取り組み

- ① 計画的有給休暇や連続休暇取得の推進。(全員が5日連続休暇)

【達成】付与日数10日以上職員については、全員5日以上の有給を取得しました。5日連続取得は80%達成しました。

- ② 相談しやすい体制作りの為、月に一度の上司と面接する機会確保。

【未達成】

- ③ 除雪車の免許取得(2名)。中型除雪機の購入。

【一部達成】免許取得者はなく、除雪車の購入は大型を共同で購入し活用しました。

(3) 共に働く人を呼び込む取り組み

- ① グループホームのある地域での積極的なパートタイム職員確保。支援の充実に向け、あすわ第2の世話人比率5:1達成。

【未達成】重度高齢化が進み世話人配置率が上がったことから達成ができませんでした。

4. 実施プロセス

(1) 法人の価値を高める取り組み

- ① 共同生活住居たんぽぽの少人数化の実現に向けてグループホームを建設。**【※重点項目】**

【達成】南四ツ居にて9月より新たんぽぽAB建設開始し、3月15日完成、引き渡し、20日より利用開始しました。4月1日開始でたんぽぽ短期入所申請、承認を受けました。

- ② 障がい者福祉部門での協議を通して、各拠点の活動が補完し合う「将来の障害福祉サービス事業」の検討。

【達成】障がいグループGM会議で検討しました。

- ③ SDGsの取り組み

足羽福祉会 SDGs 宣言に沿って、2030年を見据えての具体的行動計画の作成及び実践。

【未実施】

- ④ 法人職員として「認知症サポーター養成研修」を2022年までに全員が受講。

【達成】64名受講しました。残り13名となりました。

(2) 透明性の高いガバナンスを追求する取り組み

- ① 外部委員として専門家や家族を招いた虐待防止委員会の開催。

【達成】苦情解決第三者委員、家族会長が参加し、10/28に実施しました。

- ② 事業所運営における様々なリスク(事故、苦情、災害、感染症、不審者等)に適切に対応できるようマニュアルの整備及び対応訓練の実施。

【未達成】対応訓練が実施できませんでした。

(3) 外部評価や認証制度を活用する取り組み

- ① 福祉サービス第三者評価受審(あすわ第2)。

【未実施】共同生活援助事業所は対象外となります。

(4) 合理化と効率化を推進する取り組み。

- ① ICT活用による業務改善

グループウェアを活用した電子決済、ペーパーレスの実施に向けて、権限委譲、文書起案、供覧、保存等の具体的ルールづくり。

【一部達成】職員会議はオンラインで実施し、グループウェアを活用し情報共有を行いました。

5. 経営基盤の安定化

(1) 資金収支 10 か年を達成する取組み

① 月次決算経営状況の進捗管理を行いながら、適切な財務管理を維持。

【達成】たんぼぼの建設費は銀行から借り入れせず、自己資金で支払うことができました。

② あすわ第2の世話人比率5:1による増収。

【未達成】重度高齢化が進み世話人配置率が上がったことから達成ができませんでした。

③ あすわ第3ひまわりの老朽化に伴う改修積み立てを実施。

【未達成】大家様と連絡を取り、全面改修に向けて相談しましたが、現状のままの使用を希望され一部改修の予定となりました。

<サービス利用実績>

事業	年間延べ利用者数			年間事業収入		
	当初目標 (人)	実 績 (人)	達成率 (%)	当初目標 (千円)	実 績 (千円)	達成率 (%)
あすわ第1	12,944	13,512	104.4	64,684	69,948	108.1
あすわ第2	21,582	21,998	101.9	159,819	176,291	110.3
あすわ第3	13,369	13,510	101.1	82,917	93,105	112.9
共同生活援助計	47,8955	49,020	102.3	307,421	339,343	110.4
あすわ短期入所	6000	722	120.3	3,256	5,586	171.6
ひまわり短期入所	3600	380	105.6	1,289	1,656	128.5
短期入所計	9600	1,102	114.8	4,546	7,243	159.3
合 計	97,110	100,244	103.2	311,967	346,586	111.1

令和 3 年度事業報告

愛 全 園

I. 実施事業

- | | |
|---------------------------------|-----------|
| 1. ユニット型介護老人福祉施設 | (定員 60 名) |
| 2. 従来型介護老人福祉施設 | (定員 30 名) |
| 3. (介護予防)通所介護 | (定員 25 名) |
| 4. 福井市介護予防・日常生活支援総合事業における通所 A 型 | |
| 5. (介護予防)短期入所生活介護 | (定員 35 名) |
| 6. 地域密着認知症対応型共同生活介護 | (定員 9 名) |
| 7. 居宅介護支援 | |
| 8. 地域支援事業 | |

II. 第IV期中期事業計画における重点取組項目

- 事業所内で 8 事例のテーマを掲げ、専門家のアドバイスを基に「その人らしさ」「その人のできること探し」が出来る支援の研究実践。
【達成】事業所内の事例研究は 8 事例継続中。その中から 1 事例を法人サービス実践報告として行いました。今後も事例研究は継続していきます。
- 科学的介護の実践を基に、根拠に基づいたサービス提供から評価への PDCA サイクル実践。(LIFE への情報提供～ケアの効果実感)
【達成】介護ソフトでの捜査に関して、施設内および高齢者支援分野連携会議で情報交換を行いながら準備から情報提出に繋がりました。後半、担当職員を増やして実施者を育成しました。フィードバックに関しては統計的なデータの段階です。
- 足羽利生苑改修工事に向け、改修工事策定プロジェクトチームを立ち上げ、高齢者福祉部門の在り方検討を含め、全拠点一丸となった検討。
【一部達成】新型コロナウイルス感染予防のため十分な検討ができない中で、高齢者支援施設に、地域のニーズ、新たな可能性や、機能も含め総合的な福祉施設についての検討を行いました。

III. 事業推進計画

1. 利用者様と共に

(1) 夢や幸せを実現するために強みを生かす取組み

- ① 新型コロナウイルス感染症に関する新たな情報を取り入れ、遅滞ないワクチン接種と徹底した感染対策の強化。

【達成】法人感染対策委員会の情報を基に、毎月の現状を振り返り、細やかな対応の検討と繰り返し感染対策の実践への情報発信をいたしました。ワクチン接種は行政と連絡を取り接種計画と接種状況の確認把握を行いました。

- ② (重点項目) 事業所内で 8 事例 (ユニット型 3 事例・従来型・ショートステイ・デイサービス・GH・居宅介護支援) のテーマを掲げ、専門家のアドバイスを基に「その人らしさ」「その人のできること探し」が出来る支援の研究実践。また、部門内での事例発表と、事業所間で研鑽が出来る機会の取組み。

【達成】事業所内の事例研究は 8 事例継続中です。その中から 1 事例を法人サービス実践報告として行いました。今後も事例研究は継続していきます。

(2) 安心、尊厳を守る取組み

- ① 自施設及び各拠点での現状および振り返りの共有から、利用者様尊厳を守る意識を高め、取組みの実施。(虐待防止の取り組み)

【達成】虐待防止委員会を中心に意識アンケート、課題抽出から改善への取り組みを実施しました。年度途、虐待通報が発生し、指針に沿った対応を勧めました。行政からの見解をもって、虐待ではない結果に至りました。

- ② (重点項目) 健康で安心できる日常生活を確保するため(理念と実践)、これまでの科学的介護の実践を基に、根拠に基づいたサービス提供から評価へのPDCAサイクル実践。(ご利用者様が何を求めているかを意識した効果的なケアの提供)

【達成】担当者会議のスケジュールを調整して、ご利用者、ご家族の思いを尊重したプラン策定、サービス実践の定期的な振り返りを実施して、次のプランに繋げました

- ③ 利用者様が納得安心して暮らせる支援サービスの標準化。職員の技術および優しさ、思いやりの向上と定着。(アセスメント～計画～サービス提供～評価)(サービスの標準化、職員の技術、優しさの追求)

【一部達成】年度当初介護支援専門員の休業の時期がありました。他スタッフの兼務で対応しました。新型コロナウイルス感染対応のため、ケアプランのプロセスの遂行が遅れることも見られましたが、途切れることなく継続出来ました。機能低下を補うサービスはもとより、ご利用者がどうありたいか具体的に掲げたプランを作成し、自立支援に繋がります。〇〇のため、今年度は実施出来ませんでした。

- ④ 職員の「言葉遣い・挨拶・身嗜み・笑顔・環境整備」全てにおいて、『丁寧』を意識した取り組み実施。

【達成】接遇委員を中心に計画的に、的を絞った意識アンケートや研修を実施し、職員への意識向上に繋がりました。

- ⑤ トヨタ式5S(研修)の取組みから業務改善(ケア、環境)を推進。

【達成】ご利用者の生活空間に潜むリスク再確認を毎月行い改善点への対応を行いました。職員が記録等を行う執務室内の環境を、表示(視覚的)、収納(効率的)などの改善を行いました。

2. 地域と共に

(1) 社会とのよりよい関係づくりを強化する取組み

- ① 地域関係機と情報共有・連携体制の検討と、コロナ禍で新たなニーズに応える憩いのサロンの準備・実施。

【一部達成】感染症対応レベルに応じて、地域の思いを集め公民館、鉄道駅への掲示や、公民館行事への参加・協力を行いました。介護者の集い実施する。憩いのサロン実施出来ませんでした。これまでの参加者の方にはお便りを含め脳トレなどの情報発信を行いました。

- ② 地域の一員として責任・役割を担った地域貢献。

【未実施】新型コロナウイルス感染予防のため実施できませんでした。

- ③ ランナー、ボランティア、地域等、関わる全ての人がふれあいを感じることができる第9回足羽川ふれあいマラソンを安全配慮、柔軟な運営により開催。

【未達成】新型コロナウイルス感染防止の観点から、足羽川ふれあいマラソンを延期としました。

(2) 地域のために法人資源を活用する取組み

- ① 新型コロナウイルス感染症防止対策に応じた、ボランティア、実習、施設見学ニーズへの対応。また、これまでのボランティアとの関係継続と、これからのボランティアの在り方、取組みの検討実践。(ボランティア養成講座)

【一部実施】緊急やむをえない場合を除いて園内の修繕、感染対応レベルに応じ散髪業者の出入りは検討判断した実施しましたが、その他のボランティアへの新たな対応方法等は検討できませんでした。

- ② 福祉避難所として地域関係機関と連携を持った環境整備。また高齢者支援分野連携した関連マニュアル統一。

【未実施】福祉避難所について施設防災委員の内部研修を実施しました。関連マニュアルの統一は出来ていません。

③ 生活困窮者支援における法人内連携および中間的就労の場の提供。

【未実施】相談を受け、法人本部と情報共有しましたが就労にはつながっていません。

④ 職員一人一人が地域で認知症サポーターとして活躍できる機会の把握と実践。

【未実施】認知症サポーター養成講座の受講を進めました。地域での活躍につなげる取組みは出来ていません。

3. 職員と共に

(1) 目標を描き、共に成長する取組み

① (重点項目) 前年度スタートした新人事管理制「あすわ ers」の理解を深め、ラダー、等級準項目、バリュー項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取組みの実施。コミュニケーション・OJT を通じ、全職員のあすわ ers への理解を深め、一人ひとりが協力して目標を認識・達成できる体制作り。

【達成】法人からの情報や研修を通し、あすわ ers を理解することを意識しながら、面談、評価のプロセスを実践しました。

② 高齢部門課長連携会議による職務分掌の検討統一と PDCA の実践。

【達成】あすわ ers と関連する部分と照らし合わせながら内容の検討を行い、高齢者福祉部門統一した職務分掌を作成しました。

③ 段階的・専門別研修の実施方法の検討を行い、全ての職員が必要とする研修に参加できる職場研修体制の構築。

【一部達成】職員 1 人ひとりの受講要件や希望を把握して、web 研修を中心に計画実施しました。職員の勤務状況によって研修計画通りに実施することは出来ませんでした。

④ 高齢者支援部門の連携会議を定期的に開催。目的を持って PDCA をまわした内部研修レベルアップ運営。

【達成】ご利用者へのサービスの質向上、業務改善に繋がる目標を設定し、毎月、隔月毎に web 研修を中心に実施しました。

(2) 安心して働ける健康経営の取組み

① 移動リフト、パワードスーツ HAL、他の介護機器活用を促進し、職員健康管理の向上。(安心して働ける職場づくり)

【未実施】新型コロナウイルス感染予防対応のため、業者による指導・教育のスケジュール作成が困難で実施出来ず、現在の活用状況等の振り返りに留まりました。

② 有給休暇取得率向上と 3 連休が計画的にクリア出来るよう取得促進の徹底と、職員のワークライフバランスに配慮。

【未実施】有給休暇を計画的にシフトに組み入れる取組みを実施しましたが、途中退職による応援対応の残業が発生し、3 連休の取得は出来ませんでした。

③ 衛生委員会において、職員の就業状況や意向の把握、時間外労働の定期的チェック等、労務管理相談体制の充実を図り、職場の様々な課題改善に努め、OBC 勤怠システムの全職員への理解実践を徹底。

【一部達成】衛生委員を中心に安全衛生自主点検、安全衛生管理活動計画の作成を行いました。毎月の勤怠状況のチェックと把握を行い、職員の再配置など残業時間を減らす取組みを、現在、継続中です。

(3) 共に働く人を呼び込む取組み

① 支援が過密となる時間帯や間接業務・夜間業務に多様な人材やボランティアなどを積極的に活用・登用し、専門職が本来の専門性を活かせる職場環境の整備。

【一部達成】求人情報の発信により、予定を上回る求人数が見られました。就業一からの育成プロセス途中の離職者も見られました。年度途中の退職者への補充対応として、グループホームを休止し、職員を該当部署に配置しました。しかし、専門職の退職と職員育

成の課題が多く、現在も人材不足です。

- ② 新任・中途採用職員教育等、諸問題解決に向けたテーマを掲げ、解決方策を検討、サービスの質向上、業務のスリム化、効率化に資する取組みの実践。

【一部達成】電子媒体、チラシ配布を行い求人に関する取組みを実施しました。育成プロセスを作成し、各人の進捗を振り返りながら実施し継続中です。

4. 実施プロセス

(1) 法人の価値を高める取組み

- ① 足羽利生苑改修工事に向け、改修工事策定 プロジェクトチームを立ち上げ、高齢者福祉部門の在り方検討を含め、全拠点一丸となった検討。

【一部達成】新型コロナウイルス感染予防のため十分な検討ができない中で、高齢者支援施設に、地域のニーズ、新たな可能性や、機能も含め総合的な福祉施設についての検討をいしました。

- ② 「足羽福祉会 SDGs 宣言」に沿って、2030 年を見据えての具体的行動計画の作成及び 実践。

【未実施】具体的行動計画の作成、実践は出来ていません。

(2) 合理化と効率化を推進する取組み

- ① 業務効率化への ICT 機器の積極的導入。ナースコールの整備に関する、介護 記録や見守りセンサー等と連携する新たな環境整備。

【一部達成】ICT 導入プロジェクトチームを編成し、新たな介護ソフトと連携する ICT 機器について研修、検討を行いました。コロナ禍で十分な時間を持つことも難しく新たな環境整備に向けた取組みが最終段階まで行えませんでした。

- ② グループウェアを活用した電子決裁、ペーパーレスの実施に向けて、権限移譲、文書起案、供覧、保存等の具体的ルール作り。

【達成】法人内の共通スケジュールと活用に関するルールに従い、研修を行いながら段階的にグループウェアの活用が広がってきています。

- ③ 高齢者支援部門での連携会議を通し、介護記録システムの見直しと活用を検討し、介護記録の省力化や情報共有職員間・家族間・事業所間に繋げる。

【達成】昨年度からの高齢者支援部門ほのぼの活用連携会議を開催しました。介護ソフトを適正に活用するためそれぞれの現状と、活用に関わる対応を検討し情報共有しました。

5. 経営基盤の安定

(1) 法人収支 10 カ年計画を達成する取組み

- ① 法人 10 か年収支計画の計画的な履行のため、収入、支出額に関する具体的な目標数値設定と、毎月の管理者会議に於いて対応策の実施。

【達成】毎月の計画と稼働状況を把握し、対応策の検討を行い実施しました。

- ② 建設より 10 年が経過し、建物保全への計画的な資金積立。

【未実施】コロナ禍による稼働率低下と十分な対応へ検討準備ができませんでした。

(2) 情報公開

- ① 事業所内情報の発信として月間 3 回（年間 36 回）HP ブログ更新及び Facebook 等の活用。

【一部達成】広報委員を中心に、法人ホームページの施設だよりへ、愛全園の出来事を 30 回の掲載を行いました。

- ② 事業所内魅力をご家族・地域社会・実習生などに発信するため、HP 更新及び事業所 PR 動画作成。

【未達成】事業所内で作成内容の検討を行い、web 媒体、電子媒体等も含め業者と検討を行いました。作成までには至っていません。

<サービス利用実績>

事業	年間延べ利用者数			年間事業収入 (サービス)		
	当初目標 (人)	実 績 (人)	達成率 (%)	当初目標 (千円)	実 績 (千円)	達成率 (%)
介護老人福祉施設 (ユニット型)	21,900	22,078	100.8	328,025	321,088	97.8
介護老人福祉施設 (従来型)	10,950	10,501	95.8	150,678	144,058	95.6
(介護予防) 通所介護 日常生活支援総合事業通 所 A 型	5,253	4,224	80.4	39,690	38,567	97.1
(介護予防) 短期入所生活介護	10,585	10,006	94.5	132,732	120,724	90.9
地域密着認知症対応型 共同生活介護	3,285	2,984	90.8	47,172	42,849	90.8
居宅介護支援	2,040	1,837	90.0	30,102	26,751	88.8
合 計	54,013	51,630	95.5	728,399	694,037	95.2

令和3年度事業報告

足 羽 利 生 苑

I. 実施事業

- | | |
|--------------------------------|-----------|
| 1. 介護老人福祉施設 | (定員 59名) |
| 2. 地域密着型介護老人福祉施設 | (定員 18名) |
| 3. (介護予防)短期入所生活介護 | (定員 15名) |
| 4. (介護予防)通所介護 | (定員 20名) |
| 5. 福井市介護予防・日常生活支援総合事業における通所型A型 | (定員 10名) |
| 6. (介護予防)認知症対応型通所介護 | (定員 12名) |
| 7. 居宅介護支援 | (定員 105名) |
| 8. 地域支援事業 | |

II. 第IV期中期事業計画における重点取組項目

1. 部門内でアドバイザーを専任し、半期毎の事例報告会に於いてアドバイスを受け、支援に繋げる
【一部達成】実践事例報告会の取り組みは達成しましたが、部門内アドバイザー専任へのプロセスは教育専門コース今後担うこととなるので継続します。
2. ACP（アドバンスケアプランニング）の浸透
【一部達成】ACP理念実現について、各部署での実践10事例を報告しました。更なる浸透で、内容の充実に向けて継続します。
3. 足羽利生苑改修計画に向けた策定及び高齢者福祉部門の在り方の検討
【未達成】高齢者福祉部門チームでの介護保険に係る基本構想及び地域共生社会とSDGs視点での検討を令和4年度に継続積み上げていきます。

III. 事業推進計画

1. 利用者様と共に
 - (1) 夢や幸せを実現するために強みを生かす取組み
～実践事例の積上げ及び法人サービス実践発表への対応
① 認知症介護を支えるパーソンセンタード・ケアの理念を実践事例での充実
【一部達成】10事例を認知症の対応、本人の思いにも視点を置いての取り組みを支援しました。
② 介護力向上と繋がるACPの理念実現に向けた実践事例での充実
・ 居宅介護支援「私の想いをつなぐノート（意思確認書）」31名様からの上乗せ
・ 通所介護5名様からの上乗せ、短期入所利用者様へのノート導入実現
・ 特養、一時帰宅利用者様事例4名様から2022年度目標10名様に
【一部達成】居宅介護支援は意思確認の継続、通所介護、短期入所は流れの定着、特養は個別ケア4事例の一時帰宅を支援しました。
 - (2) 安心、尊厳を守る取組み
① 新型コロナをはじめとする感染症や自然災害への対応力強化
・ 感染症標準対策徹底、利用者様の面会環境の充実
・ 降雪時、停電時、備蓄対応等経験値から学ぶ
【一部達成】新型コロナ対策は法人対策レベルに基づき、又、高齢者福祉部門間の情報共有を行うと共に、面会環境整備につとめ、年内には苑内面会を支援しました。自然災害対応は未着手です。

- ② 接遇の一層のレベルアップ「笑顔と立ち止まっの挨拶」の定着
【達成】 自己評価で年々の割合が高まり、更なる取り組みを継続します。
- ③ 高齢者虐待防止について、高齢者福祉部門でのリスク管理継続共有
【達成】 拠点及び部門間防止対策の更なる取り組みを継続します。
- ④ 前回結果を踏まえたPDCAサイクル視点での第三者評価の受審
【未達成】 前回評価を超えることが出来ませんでした。今後は、PDCA サイクルを推進します。

2. 地域と共に

(1) 社会とのよりよい関係づくりを強化する取組み

- ① 地域共生社会構築に向けた「地域支援事業」の強化
 - ・ 個人、地域のお困りごと等生活課題を把握し、法人資源活用につなげる**【一部達成】** 主にデイ利用独居高齢者の方の除雪や買い物、ゴミ出し支援等に留まっています。
- ② SDGs 法人宣言の理解を深め、具体的行動目標計画の作成及び実践
【未実施】 SDGs 法人宣言策定プロセス段階によります。

(2) 地域のために法人資源を活用する取組み

- ① 地域及び法人資源を有機的につなげる「チームR」の機能強化
 - ・ 「いこ憩サロン」の地域内展開の在り方検討、実施、**【一部達成】** 地区社協と連携し、地域に出向く方針の下に「デイホーム」支援。公民館と施設とのオンラインによる「おしゃべりカフェ」を工夫実施しました。
- ② 福祉避難所の機能（現状）と酒生地区自主防災組織連絡協議会の役割について の相互理解を深める
【未着手】 拠点内対策事項に追われた状態で、地区協議会との相互理解は令和4年度課題達成を目指します。
- ③ 生活困窮者支援における法人内連携での情報収集及び中間的就労の場の提供
【未着手】 法人内連携体制及び拠点での情報収集に至らず、令和4年度継続目標とします。
- ④ 認知症サポーター養成講座の展開（実施方法検討）
～大東包括支援センターとの連携で企画、促進～
 - ・ 家庭での介護者層（60歳前後対象）への理解啓発
 - ・ 小中学校向け（1校）への認知症理解、介護職の仕事啓発
 - ・ 法人内障がい者福祉部門職員向け養成講座の実施**【一部達成】** 大東包括支援センターと連携し、優先的に職員向け養成講座を行いました、令和4年度継続目標としています。
- ⑤ 第9回足羽川ふれあいマラソンを新型コロナウイルス防止対策での安全配慮、柔軟な運営に向け、拠点上げて参画
【未達成】 新型コロナウイルス感染防止の観点から、足羽川ふれあいマラソンを延期としました
- ⑥ ボランティア等受け入れは新型コロナウイルス防止対策の状況に応じた法人方針に基づいたニーズ対応
【一部達成】 法人新型コロナウイルス感染防止対策に応じた対応で、健康に直結する散髪支援等は実施しました。

3. 職員と共に

(1) 目標を描き、共に成長する取組み

- ① 「あすわ ers」の初年度の経験を踏まえた円滑運用への制度理解を深める
【一部達成】 初年度の経験を踏まえた対応は取れたが、ラダー評価対応含め理解が一部進まない状態があるが、慣れと共に制度理解は図られつつあります。
- ② 業務プロセス改善に係るチーム運営の継続強化
 - ・ 研修受講前後のフォローアップの充実
 - ・ 全体会議の運営、情報共有、モチベーションアップの課題解決の実行手段としての3

S活動定着も質向上への改善

【一部達成】全体会議（WEB）は部署担当運営の定着。3 S活動は一部部署及び研修フォローアップは進展に至らず、令和4年度への課題となります。

③ 在宅関係職種間で、障害、介護の相談支援業務の資質向上に向けた定例会の実施

【未達成】担当間の職種間連携は行われているが、拠点横断での支援力向上定例会の取り組みには至りませんでした。

（2）安心して働ける健康経営の取組み

① 高齢福祉部門における専門職業分掌の統一、やりがいにつながる業務明確化と実践

【達成】高齢福祉部門M会議で統一しました。PDCA サイクルを回しながらメンテナンスする方向性を共有しています。

② 有給休暇取得率 31%以上の上乗せ向上。3 連休が段階的・計画的にクリア出来るよう取得推進とワークライフバランスに配慮します。

【一部達成】計画的有給休暇（5 日）年度末に駆け込みクリア、有給休暇取得率は 39%で目標をクリアしています。

③ 安全衛生委員会が担う機能充実

- ・安全な職場環境、時間外労働の定期的チェック等労務管理相談体制の充実
- ・社会保険労務士による巡回指導への適切対応
- ・ストレスチェック実施率 72%からの上乗せ向上

【一部達成】月 4 回の安全衛生パトロールによる職場環境チェック、36 協定の順守、社会保険労務士による巡回指導時の機会を通じた相談をきっかけに法人ハラスメント体制の機能向上に繋がりました。

④ 高齢者福祉部門マネジャー級の定期連携会議（（2 か月に 1 回）継続開催

- ・諸課題解決への統一テーマに係る解決方策・実施
- ・事業計画達成度に資する提案、提言

【一部達成】定期開催は未達も、統一テーマの達成及び令和4年度に向けたテーマを協議し実現に取り組みます。

（3）共に働く人を呼び込む取組み

～愛全園との協働開発で働く人を呼び込む仕組みの開発～

① HP で法人・施設の特色・介護の仕事の魅力と働く人を呼び込む為、映像で繋ぐプレゼン資料の制作活用

- ・実習生を含めた求職者向けの採用・見学プログラムの作成、活用

【一部達成】協働開発は未達ですが、拠点作成のプレゼン資料はメンテナンスしながら活用しています。

② E P A のマッチングに伴う受け入れ準備態勢の整備

【達成】事前に本部、実績のある愛全園との協議を重ね、準備態勢に万全を期し、令和4年2月17日に来福し、2月21日に辞令交付を受け、勤務に就きました。

③ 留学生受け入れに係る学校法人との情報収集による現況把握を継続

【達成】期中に学校法人より、国の入国制限下での概要説明を受け、現況理解を深めました。

④ 専門職の専門性、働き方を補助する生活サポーター確保に向け、各世代のライフワークに合わせた働き方の提案登用

【達成】必要な生活サポーターの定着によりニーズ充足しています。引き続き予算とニーズのバランスを見ながら対応を検討して行きます。

4. 実施プロセス

（1）法人の価値を高める取組み

① （重点項目） 足羽利生苑改修計画に係る高齢者福祉部門チームでの構想を積み上げ

- ・SDGs 法人宣言にリンクした視点での情報収集
- ・施設の特色・役割等包括的に鑑みた検討会議の定期開催

【未達成】高齢者福祉部門チームでの介護保険に係る基本構想及び地域共生社会と SDGs 視点での検討を積み上げています。

② 居住環境の改善

- ・ 居室、トイレの一部改修実施

【未達成】スプリンクラー非常用発電機が故障し、機材入れ替え設置費用にトイレ改修予算を充当しました。

(2) 合理化と効率化を推進する取組み

① 介護ロボット、タブレット端末等を活用する効率的業務運営による介護現場改革

- ・ 移乗用リフト等既存導入機器の定着、介護動作補助機器の検討、タブレット端末の適切な設置

【未達成】移乗用リフト等既存導入は短期入所でも導入し、介護動作補助機器の代替的な機能持たせつつ、一般職への操作指導を進めている。タブレット端末の活用は iPad 記録より PC 優先の現状。又、記録システムや介護周辺機器を見直しは、既存ソフト及び新ソフト導入有効性については令和4年度に継続課題としました。

② (重点項目) ICT 活用

- ・ グループウェアを活用した電子決裁等権限移譲、保存等具体的ルールを理解浸透
- ・ 会議資料、グラフや統計資料のデータ蓄積「見える化」の促進
- ・ ペーパレスの実施に向けた経費削減管理の徹底によるコピー紙使用の削減率 10% 以上を上乗せ向上

【一部達成】グループウェアは一般職の活用が課題です。職位が上がるほど、特に監督職管理職の活用は「ほのぼの NEXT0」「OBC」含め確認作業等もあって活用を推進している段階です。ペーパレスの取り組みは、経費削減の意識徹底が図られ、10%以上をクリア、令和4年度は 30%以上への上乗せ向上を目標としました。

5. 経営基盤の安定

(1) 法人収支 10 カ年計画を達成する取組み

① 介護報酬改定に適切に対応

- ・ L I F E へのデータ提出とフィードバックの一体運用による科学的介護推進
- ・ 体制加算をはじめとした新設加算、既存加算の計画的算定

【達成】LIFE 提出は5月より実施、当初予算計上加算は一部除いて算定出来ました。

② 当初予算必達の徹底管理…責任者会議での施設現況の理解促進

【未達成】当初予算必達を目指したが、8月に介護保険収入減額補正を行った。補正後の予算達成は最低目標として対応、ほぼ達成出来ました。

③ 介護用品、備品等のコストダウンと費用対効果視点での業務執行の強化

【一部達成】介護用品はコストだけでなく利用者様の快適性等も考慮しながらの費用対効果視点、又、備品等はネット通販を多用し、目標に添うよう業務執行に心掛けました。

④ 目的性のある積立資金を計画的に計上

【未達成】補正予算の減収には、収支バランスを重視し、サービスの質維持を念頭に置いた業務執行で対応したが、積立て資産の上増しは出来ませんでした。

<サービス利用実績>

事業	年間延べ利用者数			年間事業収入		
	当初目標 (人)	実 績 (人)	達成率 (%)	当初目標 (千円)	実 績 (千円)	達成率 (%)
介護老人福祉施設	21,820	21,578	98.9	271,516	265,250	97.7
地域密着認介護老人福祉 施設	6,372	6,499	102.0	98,461	99,489	95.6
(介護予防) 短期入所生活介護	4,015	4,237	105.5	46,217	49,790	101.4
(介護予防) 通所介護 日常生活支援総合事業通 所 A 型	4,867	4,026	82.7	43,616	36,559	83.8
(介護予防) 認知症対応型通所介護	2,015	1,283	63.7	25,663	17,763	69.2
居宅介護支援	1,260	1,046	83.0	19,779	17,534	88.6
合 計	40,349	38,669	95.8	505,252	486,385	96.3

令和 3 年度事業報告

グループホーム美山

I. 実施事業

- | | |
|-----------------|-----------|
| 1. 認知症対応型共同生活介護 | (定員 9 名) |
| 短期利用共同生活介護 | (定員 1 名) |
| 2. 小規模多機能型居宅介護 | (定員 29 名) |

II. 第IV期中期事業計画における重点取組項目

1. 利用者様の安心・尊厳を守り、その思いをつなげる自立支援介護の実現
【一部達成】看取りやサービス提供指針に基づいた取り組みは行えました。全体への浸透 や科学的介護の取り組みは今後も継続的に行います。
2. 半期毎の事例報告会においてアドバイスを受けた支援体制の構築
【達成】アドバイスを基にした支援体制の構築により、有意義な事例検討を行う事ができ、実践につながりました。
3. 地域共生社会の実現に向けた地域生活課題への対応促進
【一部達成】カフェでの民生委員との情報交換はできましたが、アウトリーチには至りませんでした。
4. あすわ ers に基づいた人財育成
【一部達成】目標面接や評価の振り返りは行いました。月に 1 回の面接はできませんでした。OJTとして育成ツールに至りませんでした。
5. 足羽利生苑改修計画の検討
【未達成】検討会議に参加はしていますが、方向性は見いだせていない状況でした。

III. 事業推進計画

1. 利用者様と共に

(1) 夢や幸せを実現するために強みを生かす取組み

① (重点項目) 利用者様中心のケア推進

- ・ パーソンセンタードケア（サービス提供指針）の実践事例での充実

【一部達成】実践事例ではサービス提供指針を念頭に取り組みが行えました。しかし、日々の向き合い方に関しては理念の浸透実践には十分とは言えない状況でした。

② (重点項目) 自立支援・重度化防止

- ・ 科学的介護の浸透と全利用者様に着実な実践
- ・ 科学的介護推進体制加算取得

(認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護)

【未達成】形上取り組みは行っていますが、理論の浸透には至っていません。勉強会は未実施でした。

③ 最期まで支えるケア体制の確立

- ・ 看取りケア介護の継続

【達成】1 件実施、フォトアルバムを作成しました。

④ 事業所内 2 事例の研究

- ・事業所内で 2 事例（認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護）のテーマを掲げ、専門家のアドバイスを基に利用者様の QOL の向上に資する研究実践。
- ・部門内での事例発表と事業所間での研鑽

【達成】有意義な事例検討を行う事ができ、実践につながりました。

(2) 安心・尊厳を守る取組み

① (重点項目) 高齢者虐待防止の取組みを通して、人権、尊厳の保持

- ・高齢者支援分野共通の取組み
- ・指針に基づいた取組みの実践

【未達成】施設内委員会は発足できました。虐待防止の理解、浸透は未達成でした。

② 法人接遇委員会と連携した接遇の具体的実践

- ・敬語(尊敬語、丁寧語等)の実践、相手に身体を向け目線を合わす等

【未達成】言葉遣いをはじめ相手に向き合う姿勢が丁寧とは言えない状況でした。スローガンを掲げてはいますが、深め合いはできていません。

③ 5 S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)の徹底

- ・通常業務として位置づける

【未達成】トヨタ看板方式は監督職が実践できていません。通常業務にもなっていませんし、5 S の為の時間捻出も不十分でした。

④ 運営推進会議を「第三者による外部評価」と位置づけサービスの質の向上につなげる

- ・PDCA を回しながらフィードバックも図る

【一部達成】地域への発信、透明性の確保はできました。自己評価は実施しましたが、外部評価はコロナの影響で会議を開けず未達成でした。

2. 地域と共に

(1) 社会とのより良い関係づくり強化する取組み

① 地域とのつながり強化

- ・声掛け、安否確認、見守り機器の導入、ちょこっと手伝い（除草、除雪、電球交換など）、お便り送付等
- ・自治会・民生委員・社協・美山地区介護事業者連絡会との連携

【一部達成】カフェでの民生委員との情報交換はできているが、アウトリーチには至りませんでした。

② カフェ継続

- ・介護予防促進
- ・地域の主体的な取り組み活動への参画と支援

【未達成】やはりコロナ蔓延で10月までは中止。1月以降も中止。代替開催方法も検討されていません。カフェだよりは1回/月発行し配布できました。

③ SDGs の目的及び事業での達成目標を全職員が共有と具体的実践の模索。

【未達成】SDGs は管理者にて取り組み項目は策定出来ました。ただ、全職員の共有と具体的実践の模索には至りませんでした。

(2) 地域のために法人資源を活用する取組み

① 地域の福祉避難所としての機能強化

- ・地域関係機関・法人（特に高齢部門）と連携
- ・高齢者支援分野におけるマニュアルの整備と統一
- ・備蓄強化

【未達成】BCP 作成ができませんでした。

② 全職員が認知症サポーター養成講座を受講

【一部達成】17名が受講できました。残り3名は来年度受講予定です。

③ 法人内給食事業と連携し、地域ニーズに基づいた弁当、仕出し等の販売促進

【一部達成】小多機利用者様4名に実施できました。地域ニーズの掘り起こしはできませんでした。

3. 職員と共に

(1) 目標を描き、共に成長する取組み

① あすわ ers に基づいた人財育成

- ・等級基準・バリュー・ラダーの日常的な OJT
- ・あすわ e r s の理解と浸透
- ・育成ツールとしての活用促進

【未達成】月に1回の面接はできませんでした。OJTとして育成ツールに至りませんでした。

② 計画的研修により全職員の資質向上

- ・全職員が必要とする研修に参加できる体制構築
- ・年次計画を策定

【一部達成】計画的研修には至らなかったが、パートタイム職員も含め希望も聞いたうえで一人1回以上の研修参加は行えました。

③ 高齢者支援部門の連携会議・委員会の共通した取り組みの継続

- ・定期的開催
- ・介護の質の向上のための PDCA の実践

【未達成】拠点ごとの隔たりが大きく、同じ方向性を向いての取り組みができませんでした。

④ 随時面談を取り入れ事業進捗の確認とフォローアップ（メンタル面含む）

- ・月に1回は全職員が面談実施（所属長との面談）

【未達成】GM-Mの1on1面談は、前期は実施できました。後期は不規則。全職員には取り組みませんでした。

(2) 安心して働ける健康経営の取組み

① 部門マネジャー会議における全拠点職務分掌の統一に向けた取り組みの継続

- ・職務の明確化と拠点間の統一
- ・PDCA の実践

【未達成】マネジャー間で意識に隔たりがありました。職務分掌は何とか統一まで至ったが、職務権限やあすわ ers の役割定義には添えてないところが多かったです。職務分掌というより業務分担になっている状況でした。PDCAには程遠い状況でした。

② 有給休暇の取得率向上、3連休が計画的に取れるよう取得推進の徹底

【達成】計画的3連休をとれた職員、取れなかった職員がいました。年5回の計画希望有給は取得できました。

③ 衛生委員会による労働環境の改善（ワークライフバランス、メンタルヘルス等）。

【未達成】拠点として取り組みませんでした。

(3) 共に働く人を呼び込む取組み

① 地元住民ニーズに即した多様な働き方の人材登用

- ・地域住民を取り込み福祉の担い手への登用

【達成】1名登用できました。

4. 実施プロセス

(1) 法人の価値を高める取組み

① 事業所運営における様々なリスクへの適切な対処ができる体制構築

- ・事故・苦情・災害・感染症・緊急時・防犯等のマニュアルの整備

【未達成】感染症対応は新型コロナを受け、意識的に取り組みました。それ以外は未達成でした。

② 足羽利生苑改修工事に向け、高齢者福祉部門拠点 3 施設の特色・役割等包括的に鑑みた検討会議に参画

【未達成】検討会議に参加はしているが、方向性は見いだせていない状況でした。

③ SDGs の目的及び事業での達成目標を全職員が共有と具体的実践の模索

・「足羽福祉社会 SDGs 宣言」に沿った具体的行動計画策定

【未達成】具体的行動策定には至りませんでした。

(2) 合理化と効率化を推進する取組み

① 職員の負担軽減とサービスの質向上に資する先進機器の新システム導入にむけた検討会への参画

・介護記録システムの見直しと活用

・介護記録の省力化や情報共有（職員間・家族間・事業所間）につなげる

【未達成】ほのぼの連携・活用と ICT 導入の両方継続中だが、方向性も見出せていないし、職員の負担軽減とサービスの質向上には至りませんでした。

② ICT 活用による経費削減・業務時間の効率化

・グループウェアを活用した電子決裁等、権限移譲、文書起案、供覧、保存等の具体的ルールの理解浸透

・印刷コストの削減 20%

・時間外労働削減 20%

【未達成】散発的な活用はできているが、グループウェアの浸透は不十分でした。経費削減は電話で達成できました。業務時間の効率化はできませんでした。

5. 経営基盤の安定

(1) 資金収支 10 か年計画を達成する取組み

① 法人資金収支 10 か年計画を安定的に履行

・介護報酬改定に適切に対応（加算の計画的算定）

・管理職会議における月次決算による経営状況の把握と、資金収支の分析

・積極的営業の展開

・事業所ごとの自発的な予算管理（C、AC 主導）

【未達成】GM と出納職員は毎決済時実施できました。それ以外の職員は予算管理も含めほとんどできていない状況でした。

<サービス利用実績>

事業	年間延べ利用者数			年間事業収入 (サービス)		
	当初目標 (人)	実績 (人)	達成率 (%)	当初目標 (千円)	実績 (千円)	達成率 (%)
認知症対応型共同生活介護	3,285	3,275	99.6	45,621	44,331	97.1
短期利用共同生活介護	168	228	135.7	2,220	2,201	99.1
小規模多機能型居宅介護	6,570	6,633	100.9	54,430	54,649	100.4
合 計	10,023	10,136	101.1	102,271	101,180	98.9

令和 3 年度事業報告

福井大東包括支援センター

I. 実施事業

1. 地域包括支援事業
2. 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント事業

II. 第IV期中期事業計画における重点取組項目

1. 各圏域での地域課題に応じた事例の取組みを常時研究、報告会で発信
【一部達成】今年度はH地区についての実践をまとめて、動画での発信であったが次年度も別地区での課題に取り組んでいきます。
2. 足羽福祉会・全職員認知症サポーター養成講座の受講（講座の開催協力 年3回
【一部達成】実際の講座開催回数は4回開催、法人全体では285名、高齢者分野は209名受講しました。自事業所や地域で学びを生かしたいとの感想があり、次年度も継続して開催し、受講生を増やしていきます。
3. 各職員が自分のスキルアップ及び課題克服のための研修を選び、育成者と話し合い選定し受講。実務に生かしていることを実感！
【一部達成】研修から得たものが、日々の実践に生かしている実感は薄く、振り返る機会を増やし、継続していきます。

III. 事業推進計画

1. 利用者様と共に・地域と共に ⇒ 住み慣れたわが町・わが家でのその人らしい生活支援
(1) 夢や幸せを実現するために強みを生かす取組み
 - ①（重点項目）1事例研究テーマを掲げる。3地区の現状分析しその地区の課題や特性を探り、応じた取組みを実践。評価を行いサービス実践報告会で発信。
【達成】高齢者分野で依頼したアドバイザーから事例検討会で助言をもらいながら実践し、サービス実践者報告会で発表はコロナ禍でできなかったが、しっかりまとめて、動画にとりました。今後もアドバイスを地域活動にいかしていきます。
 - ② 新型コロナウイルス感染予防対応を、法人の感染症対策マニュアルや行政からの通達、または「新しい生活様式」に沿って自ら実践。さらに地域住民へ介護予防教室やデイホームなどで伝達や体験してもらい、安全・安心へ。
・飛沫感染パネルの使用、貸し出しや防止策の住民への伝達。会議・研修は極力WEBを使用して
【達成】新型コロナウイルスが圏域で発症している時期は、会議・研修は極力オンラインで開催した。しかし、どうしても出向かないといけない場合は感染対策を十分に行い実施しました。
- (2) 安心・尊厳を守る取組み
 - ① 支援が必要な高齢者や地域の実態の把握。
・個別訪問目標件数を300件とし、必要に応じて民生委員や福祉委員と連携して継続的に支援
【達成】311件の実態把握件数をあげることができました。一人暮らしや高齢者の世帯登録している高齢者の見守りは民生委員や福祉委員の協力と連携で実施しています。
・相談窓口として出向いていた「憩いのサロン」のあり方を、新型コロナウイルス感染予防の観点から、さらに住民にとってより身近な窓口となるように各事業所と検討
【一部達成】愛全園の「介護者のつどい」には相談対応や勉強会の講師などで協力しました。包括が

身近な事業所となるように、圏域独自のキャラクターを創出し住民や事業所を交えて名前募集し、身近な存在となる取り組みを行いました。

- ・大東包括支援センターの周知を図るため、開催される地域の催しに積極的に参加協力。

【一部達成】地域の催しはほとんど開催されなかったために、地区社協の会合や、地域の高齢者の集まりに数回出向きました。

- ・支援が届きにくい集合住宅へ徐々に広報

【一部達成】啓蒙地区の自治会に入会しておらず、困っている高齢者が住む集合住宅を民生委員に相談し、独自のチラシを配布したが、相談はありません。

② 地域住民に介護予防の重要性を理解・実践してもらうための取り組み。

- ・包括支援センターが立案する約 110 件と再委託 70 件、合計 180 件の予防ケアプランを管理

【未達成】担当していた利用者様が要介護・死亡になること多く、要因として①認知症の進行 ②脳梗塞 ③癌の進行 ④介護量の増加がありました。

- ・自立支援・重度化防止の視点で作成されているか主任ケアマネジャー、保健師などが予防プランを随時点検、アドバイス

【達成】自立支援を目指したプランへ転換できるように努めました。

- ・自治会型デイホームなどに出向き、法人職員の協力をもらい、体操や栄養教室などでフレイルを予防

【一部達成】法人内の事業所の協力はコロナ禍であることや、その他の事情で協力が難しかったですが、法人外の事業所の協力を頂きました。

③ 認知症に対する理解普及促進。

- ・地元スーパーもしくは地域の団体で 1 か所、認知症サポーター養成講座を開催、
- ・法人内での講座の開催支援は 3 回を予定。

【達成】企業 1 回、地区社協 1 回、法人内 4 回養成講座を開催しました。やさしいお店を 2 店舗登録できました。

- ・愛全園などの事業者と共同で「介護者のつどい」を開催。介護者の声に耳を傾け、そこからさらに「本人参加のつどい」の開催へ発展

【一部達成】「介護者のつどい」の協力は行いましたが、「本人参加のつどい」は開催できませんでした。

④ 地域福祉力向上の為の研修会の開催。

- ・エリア内居宅介護支援事業所を対象に、事例検討会や勉強会。サービス事業所を対象に、合同勉強会を 1 回以上企画。

【達成】介護支援専門員連絡会で、コロナ禍での対応を勉強しました。

- ・圏域のケアマネジャーや事業所と自立支援型ケア会議を 6 回以上

【達成】回数は 5 回で個別自立支援型会議に変更して実施しました。

- ・在宅ケア講習会の開催（1 地区）

【未達成】福井市の方針転換で今年度は無理に実施しておりません。

⑤ 職員の「言葉遣い・挨拶・身嗜み・笑顔・環境整備」全てにおいて、『丁寧』を意識した取り組みの実施継続。

【一部達成】法人の接遇目標は毎月振り返りも実施しましたが環境整備の意識はうすいです。

⑥ 毎週水曜日に行っているハウスキーピングを倫理委員会中心に取り組み継続

- ・日常の中で 1 日 10 分整理整頓・清掃清潔。

【一部達成】ハウスキーピングは欠かさず実施していましたが、包括内の環境整備には乱れもみられ、今後も取り組みは継続します。

(3) 社会とのよりよい関係づくりを強化する取り組み

① 地域住民のネットワークだけでは解決できない地域課題を発見し解決。

- ・高齢者虐待に向け、地域住民や関係機関に対し研修会を実施。

【達成】大東民協定例会で実施、認知症サポーター養成講座でも伝達しました。

- ・ 消費者被害防止のための他包括や消費者センターなど関係機関との情報共有⇒高齢者が集う場や民生委員を通して注意喚起

【達成】大東民協定例会、デイホーム・愛全園内・地域での各会議で注意喚起をしました。

- ・ 本人や家族が複合的な課題を抱える現状を踏まえ、支える人を支える取組み家族支援、ケアマネ支援のための地域ケア個別会議 1回以上

【未達成】2月に予定していたが、集合の形を予定していたために、コロナ禍で中止としました。

- ② 医療機関と圏域の居宅介護支援事業所の連携強化を目指し、医療介護連携会議を1回以上開催（今年度はACP に関して情報共有・検討）。

【達成】12月9日、県立病院・福井循環器病院、安川病院、圏域の居宅介護支援事業所や介護事業所を対象に日頃の家族・本人の思いの確認やその共有事業間の連携などの大切さに気づいた会議になりました。

- ③ 地域課題解決と連携を目的とした地域ケア推進会議 2回以上開催。

- ・ 参加依頼…地域住民、医療機関、警察、消防、民生委員、福祉委員、自治会

【達成】「ハザードマップから地域の特性を考える」と題して公民館長、民生委員やCMと事業所代表参加で、各地区で開催しました。わが町の特性に気づき共有し、防災への意識高揚につながりました。

（4）地域のために法人資源を活用する取組み

- ① 地域の防災力の向上の取組み。

- ・ 包括支援センターとしての役割を明確化。
- ・ 法人各事業との連携を含め、大規模自然災害発生時に対応できる指定避難所での活動、福祉避難所連絡など防災マニュアル整備

【未達成】BCP計画を作成中です。

- ・ 大東民生児童委員協議会と連携し、各自治会地区自主防災組織とのネットワーク構築。

【未達成】一気に地区の自主防災組織とのネットワーク構築は困難で継続し、段階的に進めていく必要性を感じ、取り組んでいきます。

- ・ 地震・台風、水害、豪雪などの自然災害発生時での役割を確認し、それぞれのマニュアル作成

【未達成】愛全園と連携し、作成していきます。

- ②（重点項目）法人内職員の認知症サポーター養成講座を開催、講師は法人内キャラバンメイトに依頼（活躍の場提供）、企画運営支援。

【達成】事業所の要望で講座の開催数を3回から4回に増やし、開催しています。高齢者分野で209名が、法人全体で285名が受講を完了しました。事前打ち合わせを毎回行いました。

2. 職員と共に

（1）目標を描き、共に成長する取組み

- ① あすわers定着への取組み。

- ・ 前年度スタートした新人事管理制度「あすわers」の理解を深め、ラダー等級基準項目、バリュー項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取組みの実施

【一部達成】面談を実施しながら運用しているが、理解には至ってません。

- ② 「なんでも話しやすい人間関係」を維持。

【一部達成】話しやすい関係だが、慣れ合いになっていないか気を配ります。

- ③ 個性を互いに尊重し、「チーム 大東」の形成。

【一部達成】さらに進めていきます。

- ④（重点項目）各職種の専門性の向上及び自己課題の克服のために上司よりアドバイスをもらい、研修を選択。受講、実務で実践。

【一部達成】専門職の上司と面談の機会を持ちながら進めていましたが、記録として適正に残されていない点を改善していきます。

- ⑤ 包括内研修として年に数回、外部講師を迎え、開催した研修や会議の事例振り返り
⇒実践の PDCA サイクル。

【一部達成】二人の講師を招いて、講義をうけ、地域ケア推進会議や、サービス実践報告会に活かしました。

- ⑥ 相談支援の質の向上と職員の安心のために増加する虐待ケースや複雑な困難ケースへの対応は2名で対応。

【達成】職員の安心や多様な視点で支援することにつながっています。

- ⑦ 随時支援方針や経過をミーティングや包括会議で共有・検討・振り返り。

【達成】常に共有する姿勢が職員に根づいています。

(2) 安心して働ける健康経営の取組み

- ① 職員の就業状況や意向の確認、時間外労働の毎月のチェック。

- ② 上司面談と、課題の解決。

【達成】法定休日は確実に取得しています。時間外労働については毎月確認し、業務量の調整を行いました。

3. 実施プロセス

(1) 法人の価値を高める取組み

- ① SDGs の取組み

- ・「足羽福祉会 SDGs 宣言」に沿って、2030 年を見据えての具体的行動計画の作成及び実践。個別のケースで生活困窮、防災やまちづくりは地域の課題解決の中で取り組む。

【一部達成】一人暮らし・貧困・家族と疎遠もしくは身寄りなしというキーワードが当てはまる人が多い地域があり、ゴミの撤去作業からの支援もありました。今後も働きかけを実施します。

- ② 高齢者福祉分野における地域連携会議を定期的に開催。各事業所の地域での課題を常に探り、共に検討する。よりよい地域づくりを担えるように協力。

【一部達成】情報の共有はできましたが、この会議での取り組みを実施することが出来ませんでした。

- ③ 足羽利生苑改修工事に向け、高齢者福祉部門拠点4施設の特色・役割等を包括的に鑑みた検討会議に参画。

【一部達成】会議にはほとんど参加、包括ならではの視点で意見は出せたが形になったものはないです。

(2) 合理化と効率化を推進する取組み

- ① ICT 活用による業務改善。

- ・「グループウェアを活用した電子決裁、ペーパーレスの実施に向けて、権限移譲、文章起案、供覧、保存等の具体的ルールづくり」

【一部達成】グループウェアを一通り、使用は全員出来ています。ペーパーレス化までにはまだ至っていません。

- ② 会議・研修の Web 化を進化。

【達成】全て、オンラインで実施していますが、住民の方の利用には課題があります。

- ③ スマートフォンを利用した、介護予防情報などの発信を、課題を克服して継続。

【一部達成】毎月更新できておりません。

- ④ HP やブログなど積極的に活用、第三者へのわかりやすい情報発信。

【一部達成】ブログの毎月更新は出来ませんでした。

- ⑤ 担当や圏域のケアマネジャー同士の情報共有や・意見交換ができる Web を使ったツールづくり。

【一部達成】スラックの運用開始まで至りましたが、運用方法の課題は多く連絡会で事業所と話し合いながら継続していきます。

4. 経営基盤の強化

(1) 法人収支 10 か年計画を達成する取組み

事業所運営を法人全体から支援。情報提供や委員会活動、研修サポートで法人への貢献。

【一部達成】法人でのサポーター養成講座の開催や委員会活動などでの情報提供など、できることから実施しました。

<サービス実績>

事業	年間ケアマネジメント数		
	当初目標 (件)	実績 (件)	達成率 (%)
地域包括支援事業	2,160 (月180件×12カ月 委託含む)	2,023	94
介護予防支援事業			